「聖週間」から「光の週」へ

——「パラクリス」の意義づけに向けて——

秋山　学

序．ビザンティン典礼における聖週間と「光の週」

筆者は先に(1)「ビザンティン典礼における「テュピコン」の神学—修道院典礼から司教区の典礼へ—」(筑波大学大学院人文社会科学研究科文芸・言語専攻紀要『文藝言語研究　文藝篇』53，53-105，2008．3）を公けにして，ビザンティン典礼による晩課と朝課の構造を，修道院典礼の規範版に基づいて翻刻した。続いて(2)「ビザンティン典礼による聖体礼儀の神学—聖バジル典礼をテキストに—」(同『文藝言語研究　文藝篇』54，27-81，2008.10）を発表し，歴史的に原型に近いと考えられる聖バジル典礼聖体礼儀の式次第を翻刻した。以上(1)(2)の研究を通じて，ビザンティン典礼における晩課・朝課・聖体礼儀という基本的な祈祷の枠組みはすでに提示されたと考える。

ただビザンティン典礼は「不断の宇宙論」としての側面を持ち[1]，一定の日付に対して対応する曜日が年毎に変化し，また復活祭の日付が変わることから，年間のある日付に対して，その日にいかなる式次第でそれぞれの奉神礼が行われるかを固定的に記述することは不可能である。そのような中で，1年を周期とする典礼暦年において最も重要な意味を持つと考えられるのが，復活祭とその前後の期間，すなわち受難週つまり聖週間，特に「聖なる三日間」(聖木曜日・聖金曜日・聖土曜日）と復活祭後の「光の週」である。幸いなことに，2007年（4月8日が復活祭）と2008年（3月23日が復活祭）の2度の春の時期に，筆者はハンガリー・ギリシアカトリック教会の復活祭をはさむ期間を体験することができた。2007年には聖週間，2008年には「光の週」について，春期休暇期間を利用し，その典礼の次第を実体験することができたのである。本稿ではこのような「聖週間」と「光の週」について，その典礼の次第を詳しく翻刻するとともに，それら典文の形式を通して現れてくるビザンティン典礼神学の本質を詳らかにしたいと考える。

ここで，2007年春（4月1日より8日まで）に，ハンガリー・ニーレジハー

ザ司教座聖堂(ギリシア・カトリック教会)で行われた聖週間の典礼スケジュールを記録しておこう。太字にしたのは本稿にその次第を収めるものである。

聖月曜・聖火曜・聖水曜　聖体礼儀 6：45，8：00　**先備聖体礼儀**17：30

聖木曜　聖体礼儀 6：45　**大晩課十バジル典礼**17：00　その後，**聖金曜の朝課**（主の受難をめぐる12の福音朗読をともなう）

聖金曜　**王の時課** 7：00，9：00，12：00，15：00　**大晩課**17：00　**小終課**21：00

聖土曜　**朝課**（聖墳墓傍らにて）7：30　**大晩課十バジル典礼**17：00　**復活徹夜祭・行列つき**（復活の主日朝課）23：45

復活の主日　**聖体礼儀** 6：00，7：00，8：30，10：00，12：00，17：30　**大晩課** 18：15

復活の月曜　**朝課** 7：30　**聖体礼儀** 6：00，6：45，8：30，10：00（終了後行列），12：00，17：30　**大晩課**18：15

復活の火曜は復活の月曜に同じ（本稿収録は**朝課**，**聖体礼儀**，**大晩課**）。

なお上述のように，2007年には復活の主日の聖体礼儀まで参加して帰国の途につき，これと同様のスケジュールで典礼が行われた2008年に，それ以降すなわち「光の週」の典礼に与かった。

上表に明らかなとおり，聖週間にあっては典礼が非常に多岐にわたる。一方復活祭をはさんで「光の週」に入ると，後に確認するように典礼はほぼ均質化されて，復活の主日後の日曜日すなわち「タマーシュの主日」までの１週間が刻まれる。この「均質化」とは，復活の主日の次第に準じることを意味するため，ニーレジハーザの司教座聖堂では，一般信徒を対象とした「光の週」の典礼を「復活の火曜日」まで公的に行い，その後は通常年間週日のスケジュールに戻し，週日には日に数度の聖体礼儀のみが行われていた。

本稿では2007年の春と2008年の春に行った筆者のハンガリー滞在での録音にもとづき，聖水曜日の晩から復活の火曜日までに関して，司教座聖堂での典礼を基にした式次第の翻刻を行う。その後「光の週」全般にわたる構造的解釈に努め，その根底に横たわる神学的要因を指摘する。その後，聖週間より光の週にかけて多様な展開を見せる朝課に関して，特にこれを統一的・原理的に理解するため，「パラクリス」と呼ばれる聖母のための祈祷文を新たに訳出し，朝課構造の意義を再措定する。

もっとも，前稿(1)(2)ですでに提示した典礼部分もこの聖週間・光の週の典文中に多く含まれ，それらに関しては適宜旧稿中の該当箇所・頁を参照するに留めるが，この時期に特有な形式を見せる部分については，やや詳細に注記を

加えつつ紹介する。具体的には，

①先備聖体礼儀。これは聖水曜日晩に行われるものを取り上げてサンプルとする。

②聖木曜と聖土曜晩に行われる，晩課に聖バジル典礼を接続させたもの。これについては，聖バジル典礼全体の翻刻は旧稿(2)で行ったため，それとの相違点を指摘するに留める。両者を代表させる意味で，聖木曜日のものに対してやや詳細に解説を加える。

③聖木曜日晩に行われる聖金曜日の朝課。受難節には，朝課が多様な展開を見せ，時には長大な形に発展する。早朝から信徒が参式することは容易ではないため，この聖金曜日や復活の主日などのように，朝課を前晩に行うケースがときに見られる。四旬節第5水曜日夜に行われる翌日木曜日のための朝課（これは〈クレタの聖アンドラーシュによる痛悔の式〉と呼ばれる）も，本稿で取り上げることはできないものの，このケースに含まれる。そのほか，同じく四旬節第5土曜日は「アカティストス」の土曜日と呼ばれるが，同日朝の朝課中に行われる聖母のための「アカティストス」は，場所によっては前晩金曜の夜に執り行われるところもあると聞く。

④聖金曜日の日中に行われる「王の時課」，および「昼の奉神礼」。「時課」は，通常の一日には4度設けられている（1時課，3時課，6時課，9時課）。ただし「降誕祭」「公現祭」そしてこの「復活祭」期間中には，いずれもその前日すなわち12月24日，1月5日，そして聖金曜日に「王の時課」と呼ばれる式が行われる。この最後に接続するかたちで「昼の奉神礼」が執り行われる。

⑤聖金曜日の「小終課」と「夜半課」。「終課」には2種類があり，他に「大終課」があって，こちらは降誕祭前晩の夜に行われるものがよく知られ，ニーレジハーザの司教座でもこれは執り行われる。一方「小終課」はこの受難の金曜日の晩に行われるものが，一年に一度，司教座聖堂で信徒を交えたかたちでなされる。「夜半課」は，司教座聖堂で執り行われるものではないが，イヴァンチョー・イシュトヴァーン博士（1953-　）[2] が私的に続けている祈祷会にこの「夜半課」も含まれていたことから，本稿では「夜半課」を聖金曜日のテキストに沿ってここに挿入し，紹介することとした。

⑥聖土曜日の朝課。これは「エルサレムの朝課」とも呼ばれ，非常に古い初期キリスト教時代の典礼を留めるものとして貴重である。

⑦聖土曜日の深夜・復活の主日の早朝に行われる「復活徹夜祭」。これこそ，一年の典礼の中で頂点に位置する典礼であり，これが（聖体礼儀などではなく）

「朝課」である点は重視されてよい。本稿第3章以降の考察は，この点にかんがみて特化させ展開するものである。「光の週」に於ける日々の朝課は，この復活徹夜祭を基本枠とし，可変要因に関して日々交替させてある。その意味で「光の週」は，いわば毎日，日曜日が連続するような意味を担っている。

では，以下聖週間と復活の主日・復活の月曜・復活の火曜までの典礼文を順次翻刻する。

なお，各典礼のなかで一定の祈祷文・唱句等が用いられる場合が多く，また晩課・朝課・聖体礼儀等の基本構造を提示するため，以下に既発表の拙稿(1)(2)における当該の参照箇所を指示し，訳文・解説の重載を省くことにする。

ア〔晩課関係〕

1「常なる初め」:(1)62頁　2詩篇第103篇:(1)63頁　3「大連祷」:(1)63頁　4「カティズマ」:(1)64頁　5「小連祷」:(1)65頁　6「主よあなたに向かって」:(1)65頁　7「主よあなたに向かって」の後のスティヒラ:(1)67頁　8「叡智」+「神の穏やかなる光」:(1)70頁　9「謹んで聴こう」(+プロキメン):(1)70頁　10「三重連祷」(旧稿では「重連祷」):(1)71頁　11「われらの主よ，この夜」:(1)71頁　12「完遂連祷」:(1)71頁　13「先句スティヒラ」:(1)75頁　14「聖シメオンの歌」:(1)77頁　15「聖なる神」:(1)77頁　16「大散会定式」:(1)78頁

イ〔リティア関係〕

1「リティアのスティヒラ」:(1)72頁　2「司祭による祈祷文」:(1)73-75,78頁

ウ〔朝課関係〕

1「開祭」:(1)79頁　2ヘクサプサルモス(詩篇142篇):(1)79頁　3「大連祷」:(1)63頁(晩課のものに合流)　4「主は神」:(1)79頁　5トロパール:(1)80頁　6カティズマ:(1)80頁　7「小連祷」:(1)81頁　8カティズマーリオン:(1)81頁　9多憐歌:(1)82頁　10復活讃歌:(1)83頁　11「わが幼きころより」:(1)84頁　12「謹んで聴こう」(+プロキメン):(1)85頁　13福音朗読:(1)85頁　14「キリストの復活を目にして」:(1)86頁　15詩篇第50篇:(1)86頁　16福音接吻スティヒラ:(1)86頁　17連祷:(1)87頁　18カーノンⅠ-Ⅲ歌:(1)87頁　19イパーコイ:(1)89頁　20カーノンⅣ-Ⅵ歌:(1)89-92頁　21コンターク:(1)92頁　22イコス:(1)92頁　23カーノンⅦ・Ⅷ歌:(1)92-93頁　24Ⅷ歌カタヴァースィア前先句:(1)94頁　25カーノンⅨ歌前讃歌:(1)94頁　26カーノンⅨ歌:(1)95頁　27「主は聖」:(1)96頁　28「光の歌」:(1)96頁　29「すべての霊は」:(1)96頁　30讃美スティヒラ:(1)96頁　31福音スティヒラ:(1)98頁　32大栄唱〔週日は小栄唱〕:(1)98頁　33〔先句スティヒラ〕:(1)101頁　34「聖なる神」:(1)99頁

35トロパール:(1)99頁　36三重連祷:(1)100頁　37完遂連祷:(1)100頁　38閉祭:(1)101頁

エ〔聖体礼儀関係〕

1「奉献礼儀」:(2)30頁　2「求道者礼儀」:(2)37頁　3「開祭」:(2)38頁　4「大連祷」:(2)38頁　5「第1アンティフォン」:(2)39頁　6「小連祷」:(2)39(,40, 41)頁　7「第2アンティフォン」:(2)40頁　8「第3アンティフォン」:(2)41頁　9「聖入歌」:(2)42頁　10「トロパール」:(2)42頁　11「コンターク」:(2)42頁　12「聖なる神」:(2)44頁　13「謹んで聴こう」(+プロキメン):(2)44頁　14「叡智!」:(2)44頁　15「三重連祷」:(2)46頁　16「求道者の連祷」:(2)46頁　17「信徒礼儀」(旧稿では「信者礼儀」):(2)47頁　18「信徒の連祷」:(2)47頁　19「ケルビムの歌」:(2)48-49頁　20「完遂連祷」:(2)50頁　21「平和の接吻・挨拶」:(2)51頁　22「アナフォラ」:(2)52頁　23「勝利の歌」:(2)53頁　24「聖体制定句」:(2)54頁　25「アナムネーシス」:(2)55頁　26「エピクレーシス」:(2)56頁　27「記憶」:(2)57頁　28「恩寵に満たされた方よ」:(2)57頁　29「栄唱」:(2)60頁　30「祝福」:(2)60頁　31「懇願連祷」(旧稿では「増連祷」):(2)60頁　32「主の祈り」:(2)61頁　33「聖性唱」:(2)62頁　34「拝領前の祈り」:(2)64頁　35「拝領後の歌」:(2)65頁　36「感謝の歌」:(2)66頁　37「感謝連祷」(旧稿では「感謝の連祷」):(2)66頁　38「主の名が」:(2)67頁　39「閉祭」:(2)68頁

以下の章立ては，第1章　聖週間　第2章　光の週　第3章　「光の週」の意味　第4章　朝課の構造　第5章　パラクリスと朝課　となる。

第1章　聖週間

祈祷書は「トリオーディオン」である。後出の「光の週」にはいると「ペンテコスターリオン」に替わる。

I　聖水曜日

先備聖体礼儀（晩課を含む；夕刻に行われる）

ビザンティン典礼には，年間に通常用いられる「聖ヨアンネス・クリュソストモス典礼」，年間に10回用いられる「聖バジル典礼」のほかに，「先備聖体礼儀」という典礼があり，これは受難節特有のもので，別名「聖グレゴリオスの典礼」とも呼ばれる。「信徒が受難節中の力を得られるように」と教皇グレゴ

リオス１世（在位590-604；東方典礼での記念日は３月12日）が考案したものとされ，聖週間には聖月，聖火，聖水曜日に行われる。このうち，聖水曜日の先備聖体礼儀を以下に翻刻する。この典礼の起源・次第については次のように説明される。

「東方教会では四旬節期間中，古くからの伝統に従い，土曜日，日曜日，聖母へのお告げの祝日（３/25），聖木曜日，聖土曜日に限って聖体礼儀を執り行い，それ以外の日には讃美のいけにえの式だけで神をほめたたえていた。四旬節とは罪の痛悔と断食の期間であり，聖体礼儀はそれに相応しくないと考えられていたためであった。しかしながら，この長い期間を通じ，信徒たちがキリストの肉と血による霊的な力づけなく過ごすことのないように，ある定まった日には，週日であっても，その日の断食が終わった後，晩課の枠組みの中で，先行する日曜日に取り置いた聖体を拝受する仕組みが取り入れられた。先備聖体礼儀とは，こうして晩課に接続されたいけにえの式である。典礼上の式次第により，四旬節中の水曜日，金曜日，聖週間の最初の３日間〔聖月，聖火，聖水〕に行われる」[3]とある。また「その第１部では，晩課の聖入を伴い，聖書朗読をおこなう。スティヒラの間，司祭は先行する日曜日に聖変化させた聖体を奉献台に運び，その後聖入の行列においてこれを祭壇に戻す。第２部は，懇願連祷より聖体礼儀の次第にしたがい，聖体拝受をともなう。聖変化はここでは行われない」[4]と説明される。以下この「先備聖体礼儀」の次第を追うことにしよう。

司祭「父と子と聖霊の王国は祝せられる，今もいつも世々とこしえにいたるまで」
民「アーメン」。「来たれ，祈ろう」（ア１，63頁）
詩篇第103篇（ア２）
「栄光は」「今も」「アレルヤ，アレルヤ，アレルヤ，神よ，栄光はあなたに」。
大連祷（ア３）
「主よ，あなたに向かって」（ア６）
「主よあなたに向かって」の後のスティヒラ（ア７）
⑩「わが霊を牢獄より引き出したまえ，あなたの名を讃えることができるように」
①「おとめの子よ，罪深き女はあなたを神と知り，すすり泣きのうちに祈りつつ，涙によって罪を赦され，こう言う。〈編んだ髪をわたしが解くように，ど

うかわが罪から解き放ちたまえ。あなたを真に揺らぐことなく愛し，徴税人のごとく，あなたに祈り求めるこの女を愛したまえ，人を愛するわが恩人よ！〉」
⑨「真理に就く人々がわたしを待つ，あなたがわたしに善き報いを下さるまで」
②「罪深き女は高価な香油に涙を混ぜ，あなたの御足に接吻するうちに，咎なきあなたの御足を濡らした。その瞬間，あなたは彼女に浄めを与えた。あなたはわれらのために苦しむ方，どうかわれらにも赦しを与え，われらを救いたまえ！」。
⑧「主よ，深き処よりあなたに向かって叫ぶ。主よ，わが言葉を聞き届けたまえ」
③「罪深き女があなたの許へ油を持ち来たったのとちょうど同じとき，あなたの弟子は律法学者らと密談していた。先の女は喜んであなたに高価な油を注ぎかけたのに，あなたの弟子は，その価値の計り知れない方を売り飛ばそうと模索していた。女はあなたを治め主と認めたが，弟子は治め主から逃亡しようとした。女は解放されたが，ユダは敵の囚われ者となった。貪欲は虚しかったが，痛悔は大きかった。わたしのために苦しむわがイエスよ，この痛悔をわたしにも与えたまえ，そしてわたしを救いたまえ」。
⑦「あなたの耳に，わたしの願いの言葉が届きますように」
④「おお，ユダの惨めさのなんと大きいことか！　彼は罪の女があなたの御足に接吻するのを見て，心の中で裏切りの接吻をたくらんだ。女は編んだ髪をほどいたが，衝動がユダをつまずかせた。かくして彼は香油の代わりに腐敗した匂いを放つ悪を運んだ。嫉妬心は有益なものを選び取ることができない。おお，ユダはなんと惨めなことか！　われらの神よ，われらの霊を彼の運命から救いたまえ！」。
⑥「主よ，もしあなたが罪に目を留められるなら，誰があなたの前に立てようか？　しかし恵みはあなたの許にある」
⑤「罪深き女は香油を買うべく奔走し，高価な香料を持ち来たった，慈しみの主にその香を振りかけるために。そして香油の作り手に向かってこう述べた。〈わたしが犯したすべての罪を拭い去ってくださった方に塗るために，わたしに香油を下さい！〉」。
⑤「主よ，わたしはあなたの掟のゆえに，あなたに希望を置く。わが霊はあなたの言葉のゆえに請い願う。わが霊は，主により頼む」
⑥「罪に堕ちた婦人はあなたを見て，救いの小船よ，涙を混ぜた香油をもって，あなたに香油を塗り，こう願った。〈わたしに目を注ぎたまえ，あなたの力の

うちには罪の赦しがあるから！　わたしを見つめたまえ，あなたは罪人の回心を待ち望んでおられるから。主よ，あなたの憐れみによって，わが罪の嵐よりわたしを救いたまえ！〉」と。

④「朝の見張りのときから夜更けまで，イスラエルは主により頼む」

⑦「きょう，キリストはファリサイ人の家へ来た。罪ある婦人は彼の足許に身を屈め，こう叫ぶ。〈わたしに目を注ぎたまえ，わたしは罪に沈んでいます。そしてわが行いのために絶望しています。あなたの善性をして，どうかわたしを憎ましめたもうな。主よ，わたしに赦しを与え，わたしを救いたまえ！〉」。

③「憐れみは主にあり，贖いは主にあって豊か。主はイスラエルをすべての悪から解放される」

⑧「罪深き女は治め主に向かって髪を解き，ユダは律法学者らに両手を開いた。女は罪の赦しを得るために，ユダは銀貨を手に入れるために。それゆえわれらは，あなたに向かってこう叫ぶ。〈われらのために売り飛ばされたわれらの解放者よ，あなたに栄光！〉」。

②「すべての国民は主を讃えよ，すべての民よ，彼を讃えよ」

⑨「悪臭を放つけがれた婦人が近づき，あなたの足許に，おお救い主よ，涙を注ぎあなたの憐れみを請い求める。〈どうしてわたくしにあなたを見ることなどできましょう，主よ？　あなたは自ら罪人を救うために来られた方。あなたはラザロを死後４日目に墓から蘇らせた。どうか，死したこのわたくしを深い淵より立ち上がらせたまえ。主よ，窮状にあるこのわたしを受け入れ，救いたまえ〉」。

①「主の憐れみはわれらの上に増し，彼の正義はとこしえに留まる」

⑨「自らの生き方のゆえに絶望に陥り，倫理性に関して評判悪しき婦人は，あなたの許に香油を携えて訪れ，こう言った。〈どうかわたし，この淫らな女を退けたもうな。あなたはおとめより生まれた方。どうかわたしの涙を蔑みたもうな。天使たちの喜びよ。むしろわたし，この痛悔する女を受け入れたまえ。主よ，あなたはその大いなる憐れみのゆえに，痛悔する者を罪のうちに見棄ておかない〉」。

「栄光は」「今も」

○「主よ，おびただしい罪に溺れた女は，あなたの神性を知るや，油を携える者たちの列に加わり，それに先立ってあなたの葬りのために香油を手にしてやって来た。〈ああ，このわたし！〉，彼女は泣きながらこう叫んだ。〈夜のように罪のおびただしさと，過ちの闇の厳しい追跡がわたしを圧する。しかしわた

しの涙の小川を受け取りたまえ。この涙は，いわば雲から降るかのごとくに，滴り流れる。わが心より起こるあえぎに耳を傾けたまえ。あなたは言葉に尽くせぬ善き意向により，天の端を傾けた方。わたしは接吻をもっていとも聖なるあなたの足を覆い，編んだ髪の房でもって何度も拭う。わたしの罪のおびただしさ，あなたの裁きの深さを誰が述べ尽くせようか，わが救い主，霊の守り手よ。あなたのしもべを蔑ろになしたもうな，あなたの憐れみは尽きることがない〉」。
司祭「叡智！　真なる信徒たちよ！」
信徒「神の穏やかな光」（ア８）。

第１プロキメン（第４調）「あなたがたは天の神に感謝せよ，その憐れみは永遠」　信徒は同じ句全体を繰り返して歌う。　司祭「叡智！」朗読者「～書の朗読」　司祭「謹んで聴こう！」　第１朗読：『出エジプト記』２.11-22
第２プロキメン（第４調）「主よ，あなたの憐れみは永遠，あなたの手の業を取り去りたもうな」　信徒は同じ句全体を繰り返して歌う。先唱者「主よ，命じたまえ」
司祭は香炉を手に取り，燭台を左手に持って，祭壇の前で述べる：
司祭「叡智！　真なる信徒たちよ！　キリストの光はすべての人を照らす！」。
朗読者「～書の朗読」　司祭「謹んで聴こう！」　第２朗読：『ヨブ記』２.１-10　司祭「あなたに平安！　叡智！」。

助祭「叡智！」
信徒はひざまずき，司祭は祭壇に立って，歌い始める：
司祭「わが祈りが，あなたの御顔の前に立つ香の煙のように立ち昇らんことを。わが両の手は，夕べの生贄として差し上げられる」。
司祭はひざまずき，信徒は立って繰り返す（以下繰り返し）：
信徒「わが祈りが，あなたの御顔の前に立つ香の煙のように立ち昇らんことを。わが両の手は，夕べの生贄として差し上げられる」。
司祭「主よ，あなたに向かってわたしは叫ぶ，聞き届けたまえ。わたしがあなたに向かって叫ぶとき，わが言葉に耳を傾けたまえ」。
信徒「わが祈りが，あなたの御顔の前に立つ香の煙のように立ち昇らんことを。わが両の手は，夕べの生贄として差し上げられる」。
司祭「主よ，わが口には守りを，わが唇には防ぎの扉を」。

信徒「わが祈りが，あなたの御顔の前に立つ香の煙のように立ち昇らんことを。わが両の手は，夕べの生贄として差し上げられる」。
司祭「どうかわが心をして悪しき行いに傾かせず，わが罪の弁明をさせたもうな」。
信徒「わが祈りが，あなたの御顔の前に立つ香の煙のように立ち昇らんことを。わが両の手は，夕べの生贄として差し上げられる」。
司祭「わが祈りが，あなたの御顔の前に立つ香の煙のように立ち昇らんことを」。
全員が立ち上がり，声を合わせて：
信徒「わが両の手は，夕べの生贄として差し上げられる」。
「わが祈りが，あなたの御顔の前に立つ香の煙のように立ち昇らんことを。わが両の手は，夕べの生贄として差し上げられる」。
この後3度完全な拝礼を行う。聖週間中： 司祭「聖なる福音を聴くのにふさわしくあれるよう，平安のうちに主に祈り求めよう」　信徒「主よ憐れみたまえ，憐れみたまえ」 司祭「あなたがたすべてに平安があるように」 信徒「あなたの霊にも，あなたの霊にも」　司祭「叡智！　真なる信徒たちよ，聖なる福音を聞こう。聖～福音の朗読」 信徒「栄光あれ，主よ，あなたに栄光あれ！」　司祭「謹んで聴こう！」。
福音書朗読：聖水曜日はマタイ26．6－16
信徒「栄光あれ，主よ，あなたに栄光あれ！」
「三重連祷」（ア10）

――この部分において，晩課から聖体礼儀へと移行する。
ケルビムの歌（エ19）の代わりに：
信徒「いま天の力が，目に見えぬ仕方でわれらとともに仕え，栄光の王が入られる。見よ，聖なる秘義のいけにえが，天使から委ねられる。生ける信と愛とをもって，われらは近づこう。永遠の生命に与る者となるために。アレルヤ，アレルヤ，アレルヤ！」
テュピコン：「歌は中断されることなく，最後まで歌う。その途中で司祭は聖体をもって大聖入を行う。（ひざまずく。）聖体が祭壇に移置され歌が終わると，3度完全に投地し，連祷に移る」
「完遂連祷」（エ20：細部はやや異なる）
「主の祈り」（エ32）

司祭「国と力と栄光は，父と子と聖霊よ，あなたのもの，今もいつも世々とこしえに」。信徒「アーメン」。司祭「あなたがたすべてに平安のあらんことを」信徒「あなたの霊にも」　司祭「主に頭を垂れよう」　信徒「主よ，あなたに」司祭「あなたの御一人子の恵み，憐れみ，人への愛を通して，あなたはその故に祝せられる，いとも聖にして善き方，生命を与えるあなたの霊とともに，今もいつも世々とこしえに」　信徒「アーメン」　司祭「身を謹もう。先備された聖なるものは聖なる者に」　信徒「聖なるものは一，主は一，イエス・キリスト，父なる神の栄光のために。アーメン」。

聖体拝領前の祈り（エ34）。

「主がいかに善き方であるか，味わい，見よ！」「アレルヤ」「近づくがよい」「わたしは主を讃える，いついかなる時にも。アレルヤ！」

信徒の拝領が終わり次第，司祭は聖体をもって祝福を与える：「永遠の昔より，今もいつも世々とこしえに」「アーメン」

「われらの神なるキリスト，われらはあなたに感謝を捧げる。あなたはわれらに，あなたのいとも聖なる体と，罪の赦しのため全世界に注がれた尊い血に，救いのための配慮による聖なるあなたの神秘として与かるのに相応しきものとされた。アレルヤ！」

感謝連祷（エ37）

「平和のうちに散会しよう！」「主の名によりて」「主に願おう」「主よ，憐れみたまえ」。

アンボンの祈り「全能の主よ，あなたはすべての被造物を，叡智をもって創造された。あなたは，言葉に尽くしがたき計らいと善き思いのうちにわれらを抱き，われらの霊と体の浄めのため，悪しき気質の統制のため，復活の希望の確証のため，この恵みに満ちた大斎の日々にわれらを据えられた。そして40日が満ちた後，あなたの親しきしもべであるモーゼに，石版に神の手で記した律法を与えられた。おお善き方よ，われらにも，善き闘いを闘い抜き，大斎の走路を走りぬき，信を咎なく保ち，目に見えぬ怪物の頭を打ち砕き，罪に対する勝利者となって，裁きを受けることなく聖なる復活に到達し，讃美することができるように。いとも尊くいと高きあなたの名は祝せられ，讃め称えられる，父と子と聖霊よ，今もいつも世々とこしえに」。

信徒「アーメン」。「主の名は今よりとこしえに祝されよ」（×３）

詩篇第33篇。

「神の母よ，あなたを讃えることはいとも相応しきこと，幸いなる方にして染

み咎なく，われらの神の母となられたあなたを」
司祭「叡智！」　「ケルビムより浄らかにして，セラフィムよりも，たぐいようもなくあなたは讃め称えられる。あなたは神を，御言葉を，苦しみなくお産みになった。真なる神の母よ，われらはあなたを讃える」
司祭「あなたに栄光あれ，キリスト・われらの神よ，われらの希望よ，あなたに栄光あれ」
信徒「栄光は」「今も」「主よ，憐れみたまえ」(×３)「主よ，祝福を与えたまえ」
司祭「キリスト，真なるわれらの神よ，〔あなたはわれら人類のため，またわれらの救いのために，恐るべき受難と，生命を与える十字架，自らなる埋葬を肉において受け取られた。〕いとも聖なる神の母，聖生にして神の息吹を受けたわれらの師父たち，そしてすべての聖人たちの執り成しを通じて，われらを憐れみ救いたまえ，善性に満ち人を愛する方として」。
信徒「アーメン」。
司祭「主の祝福が，その恵みと人への愛とともにあなた方にあらんことを。今もいつも世々とこしえに」。
信徒「アーメン」。

Ⅱ　聖木曜日

大晩課＋バジル典礼

聖なる三日間の，司教座聖堂におけるプログラムとしては，この聖木曜の晩課＋バジル典礼より始まる。バジル典礼の次第については，序に記したとおり，拙稿(2)で奉献礼儀・求道者礼儀をふくめて翻刻した。聖木曜日には，前半に当日の晩課にあたる祈祷を行い，聖書朗読を介して後半部が聖バジル典礼となる。

司祭は第９時課の後盛式祭服をまとい，祭壇に向かい，聖体礼儀の初めに規定されている黙祷を行う。祭壇と十字架に接吻した後，通常の仕方で聖体礼儀を始める。

司祭「父と子と聖霊の王国は祝せられる，...」(エ３)

信徒「アーメン」。「来たれ，祈ろう」。詩篇第103篇。「栄光は」「今も」アレルヤ。大連祷。

テュピコン：これは助祭がいない場合，司祭が祭壇にて行う。カティズマはなし。大連祷の後，司祭はアンティフォンの祈りを聖入まで唱える。一方信徒は「主よあなたに」とスティヒラを歌う。第３アンティフォンの祈りの後，司祭

は祭壇より降り，奉献台へと向かい，手を洗い奉献礼儀を執り行う。その後通常の仕方で聖堂に香を振る。

「〈主よ　あなたに向かって〉の後のスティヒラ」（ア７）

①「ユダヤ人たちは集って協議し，万物の創り主にして保ち主をピラトに引き渡すことを決める。おお，悪しき不信の者どもよ！　生ける者死せる者たちの来たるべき支配者をどのように裁こうというのか。苦しみの癒し手をどうして苦しみに定めようとするのか。長きに及ぶ忍に耐えるわれらの主よ，あなたの恵みは偉大，あなたに栄光！」

②「裏切り者のユダは，主よ，あなたとともに塩籠に指を入れながら，神を恐れぬ者らに対して銀貨を受け取ろうと申し出た。高価な香油の値段を量りながら，量りつくせぬあなたを売り飛ばすことを恐れなかった。その両足を洗足のために差し出した者が，治め主を悪しき者どもに売り飛ばすため，偽りの接吻をなした。しかし使徒たちの群れから追放され，銀貨30枚の受け取りを拒み，あなたの三日目の復活を見ることもできなかった。どうかその復活を通して，主よわれらを憐れみたまえ」。

③「会計係のユダは狡猾にして，偽りの接吻でもって救い主を，万物の支配者を裏切り，奴隷として主をユダヤ人に売った。神の小羊，父の御子は，屠られる小羊のように，血の生贄として自らを引かれるに任せた，唯一憐れみ深き方なれば」。

④「ユダは，しもべまた欺瞞者，弟子にして裏切り者，友かつ悪魔として現れた。師に従う者でありながら，師への裏切りを働いた。彼は自らにこう言った。〈私は彼を売り渡そう。そして集まった金銭を着服しよう〉。彼は，高価な香油が売られるよう，またイエスが姦計により捕らえられるように暗躍し，キリストに接吻して裏切った。父の御子，唯一憐れみ深く人を愛する方は，屠り場に引かれる小羊のように，血にまみれたいけにえとして，自らを引かれるに委ねた」。

⑤「預言者イザヤが，無辜の小羊として告げ知らせた方が，いま自ら屠られるためにやって来る。彼はその体を鞭打つ者に，ひたいを引き裂く者に任せ，顔を罵りの辱めから反らさず，恥辱に満ちた死に定められた。彼はこれらすべてを自ら無辜のまま身に帯び，われらすべてに復活を賜った」（×２）

「栄光は」「今も」

○「まことにユダは，マムシのような輩，彼らは荒れ野にてマンナを食しながら，その食糧に対して不平を鳴らし，滋養物が彼らの口にあるにもかかわらず，

感謝もせずに主を誹謗した。この悪しき霊持つ人間も，まだ主の晩餐を口にしながら，救い主を裏切った。おお飽くことなき本性，非人間的な貪欲よ！　自らの養い主を売り飛ばし，愛された治め主をしに渡すとは。ユダは間違いなく，このような悪人の本性を持つ子，彼らからこのような危険性を受け継いだのだ。しかし主よ，われらの霊を，同じような非人間性から守りたまえ，言葉に尽しがたく忍耐強き方として」。

最後のスティヒラの間に，司祭は香振り者とともに，福音書を掲げて聖入を行う（聖入の祈りをこれに合わせて唱える）。

「神の穏やかな光」（ア８）

「プロキメン」

①「主よ，わたしを悪しき者より守りたまえ。悪しき輩からわたしを守りたまえ」

（挿句）「誤ったことを考える者が，わたに抗する」

旧約朗読第１：出エジプト19.10-19

②「神よ，わたしを敵勢より守りたまえ。わたしを攻める者どもからわたしを解放したまえ」

（挿句）「神よ，わたしを悪しき者どもより守りたまえ。血に飢え乾く男どもからわたしを解放したまえ」

旧約朗読第２：ヨブ38．１-21；42．１－５

旧約朗読第３：イザヤ50．４-11

第２，第３朗読の後小連祷，声を挙げて「われらの神なるあなたは聖なる方，...」，「聖なる神」（エ12）を歌い，これ以降聖バジル典礼の通常の次第に入る。

聖体礼儀のプロキメン：「諸国の民の長らは主に抗し，かの油注がれた者に抗して集まる」　挿句「異教徒らは何故たくらみを抱き，民は何故虚しきことを考えるのか」

（挿句）「何ゆえに異教徒らは互いに憎しみ合い，民は虚しきことがらを考えるのか？」。

使徒書朗読：コリント11.23-32

「心貧しく，より頼むもののない人は幸い，アレルヤ（×３）」

（挿句）「わがパンを食した者は，わたしに対して大いなる偽りを働いた。アレルヤ」。

―他の部分は(2)を参照。
・ケルビムの歌〈エ19〉の代わりに
○コンターク「あなたの神秘の宴に与るものとして，わたくしを受け入れたまえ。わたくしはこの神秘をあなたに逆らう敵には口外すまい。またユダのようにあなたに接吻することもすまい。むしろ，あの罪びとのようにあなたに告白する。わが主よ，あなたが御国に来られるとき，わたしのことを思い起こしたまえ」。*聖入の前に2度，聖入の後にもう1度，アレルヤを加えて。*
・「恩恵に満たされた方よ」〈エ28〉の代わりに
○「治め主の，そして高きところに輝ける神秘的食卓に置かれた救いの奇跡を，来たれ，信徒らよ，高められた霊もて拝しよう。そして不死なる御言葉の聖なる教えを受け取ろう。その方をこそ，われらはあがめる」。

Ⅲ　聖金曜日

A　朝課

聖木曜日の夜には「受難の聖書朗読」と呼ばれる長大な典礼が行われる。これは聖金曜日の朝課に当たるものだが，長大なために前晩夜に行われる。

「主は神」（ウ4）の代わりに

司祭「アレルヤ，アレルヤ，アレルヤ」
信徒「アレルヤ，アレルヤ，アレルヤ」×2
○トロパール「誉れ高き弟子たちが，晩餐での洗足により照らされたとき，悪しき霊に染まったユダは，金銭欲ゆえに盲目とされ，信なる裁き手であるあなたを，律法にたがう判事たちに売り飛ばした。見よ，この世の富を好む者らよ，これらのゆえに彼は自らくびれたのだ。師に対し，不遜にもこのようなことをした者よ，飽くことなき霊に走るがよい。われらすべてに対して憐れみ深き主よ，あなたに栄光！」（×2）
「栄光は」「今も」
「誉れ高き弟子たちが」。

小連祷の後，司祭はフェロンを身に付け，王門を開け，香振りの間に述べる。

助祭「聖なる福音を聴くのに相応しくあれるよう，平安のうちに主に祈ろう！」　信徒「主よ憐れみたまえ」（×3）　助祭（？）「あなたがたすべてに平安」！　信徒「あなたの霊にも」　助祭「叡智！　真なる信徒たちよ，聖なる福音を聴こう！」　司祭「聖～福音書の朗読」

第1朗読

信徒「あなたの受難に栄光あれ，われらが主よ，栄光あれ」

ヨハネ13.31-18.1（過越の前の日）。

信徒「長きに及ぶあなたの忍耐に栄光あれ，われらの主よ，栄光あれ」

○第1アンティフォン

（第8調）「民の長らは，主に抗し，主の油注がれた者に抗して集う」。

「われらの主よ，彼らはわたしに対し，律法に反する言葉を投げつける。われらの主よ，どうかわたしを見棄てたもうな」。

「清い理解をわれらはキリストに捧げる。そして友として，われらの霊を彼のために献げる。われらはユダのように，この世の思いに浸ることはなく，霊の深みよりこう叫びを挙げる。〈天におられるわれらの父よ，悪より救いたまえ〉と」。

「栄光は」「今も」

「男と接することのなかったおとめとして，あなたは出産した。そして，おお穢れなき方よ，あなたは処女のまま留まった。神の母なるおとめよ，われらの神なるキリストに祈りたまえ，われらの霊を救いたまえと」。

○第2アンティフォン

（第6調）「ユダは律法を犯す聖書学者たちの許へと走り，こう述べる。〈わたしが彼をお前たちに引き渡せば，お前たちはわたしに何を与えてくれるか？〉

だが協議の間，そこには目に見えぬ仕方であなた自身がおられた，教えを授ける方よ！　われらの心を究明する方よ，われらの霊に恵みを注ぎたまえ！」。

「憐れみを通じて，われらは晩餐におけるマーリアのごとく神に仕え，ユダのごとく金銭欲に固執することはすまい。われらの神キリストのうちに，常に留まるために」。

「栄光は」「今も」

「あなたがおとめとして，言葉に尽せぬ仕方で産んだ方に対し，人を愛する方として，どうか止むことなく祈りたまえ，〈あなたを庇護者として，あなたに願い求める者すべてを，災いから守りたまえと〉」

○第3アンティフォン

（第2調）「ラザロの復活のゆえに，ユダヤ人の子供たちは，人を愛するわれらの主よ，あなたにホザンナと叫ぶ。しかし律法を破るユダは，これを理解しようとしなかった」。

「われらの神なるキリストよ，あなたは晩餐の席で，あなたの弟子たちにこ

う予言された。〈あなた方の一人が，きょうわたしを裏切ろうとしている〉。しかし律法を破るユダは，これを理解しようとしなかった」。

「〈主よ，裏切り者とは誰のことですか？〉と訊ねるヤーノシュに，あなたはパンをもって示された。しかしユダは，これを理解しようとしなかった」。

「われらの主よ，銀貨30枚と，一人の裏切り者の接吻を代価に，ユダヤ人はあなたをしに至らしめようと試みた。だが律法を犯すユダはこれを理解しようとしなかった」。

「われらの主よ，あなたは洗足の際，弟子たちにこう命じられた。〈わたしから見て学んだとおりに，あなた方は行うがよい〉。しかし律法破りのユダは，これを理解しようとしなかった」。

「栄光は」「今も」

「あなたのしもべらを，神の母よ，危険から救いたまえ。われらはみな，神の次にあなたの許に逃れる。あなたはわれらの揺らぐことなき砦にして逃れ場なれば」。

○カティズマーリオン（第７調）「晩餐の席で，あなたは弟子たちに食物を与え，裏切りの計画をも知らせ，ユダを非難された。しかし彼の頑なさについてもあなたは知っておられ，人々すべてに，敵から世を解放するためにあなたが自らの身を進んで渡すのだということを理解させようとされた。大いなる忍耐をもつわれらの主よ，あなたに栄光！」

「栄光は」「今も」

「晩餐の席で，あなたは」。

「聖なる福音を...」

第２朗読

信徒「あなたの受難に栄光あれ，われらが主よ，栄光あれ」

ヨハネ18．1－28（イエスの捕縛）。

信徒「長きに及ぶあなたの忍耐に栄光あれ，われらの主よ，栄光あれ」

○第４アンティフォン

（第１調）「ユダはきょう師を見棄て，悪魔と交わりを結ぶ。金銭欲に溺れて盲目となり，光を失い闇に覆われる。銀貨30枚で光の主を売り渡す者に，何が見えようか？　だがわれらには，世のために苦難を蒙る方が光を放ち，われらはこの方に向かってこう叫ぶ。〈人のために，そして人とともに苦しむわれらの主よ，あなたに栄光！〉」

「ユダはきょう，敬虔さを装い，恵みに見棄てられて，弟子であるにもかかわらず裏切り者となる。ふだんの接吻に姦計を隠し，愚かにも，治め主の愛よりも金銭欲への盲従を優先させ，律法を犯す者の集団の長となる。しかしわれらはキリストをわれらの救いとして確信し，主を讃える」。

「われらは，われらの同胞を，キリストにおける父の子たちのごとくに愛そう。そして互いに対して憐れみを失うことなく，また憐れみに欠けたしもべのごとく断罪しあうことも，金銭欲のためにユダのごとく絶望することもせず，意味もなくわれらの生命を浪費することはやめよう」。

「栄光は」「今も」

「あなたは，あらゆる場所でいとも栄光満ち満てる方と名づけられる。誰からも崇められ，誰にも触れられぬ神の母マーリアよ，あなたは万物の創り主を肉において出産された」。

○第5アンティフォン

（第6調）「弟子は，師の代価を値踏み，主を銀貨30枚で売り飛ばした。偽りの接吻で主を悪しき者どもに売り渡して」。

「きょう，天と地の創り主は，弟子たちにこう述べる。時が近づき，裏切り者のユダがやって来た。あなた方の誰一人として，わたしを否むことなかれ，わたしが2人の悪人の間で十字架に懸けられるのを目にしても。わたしは人として受難に遭い，人を愛する者として，わたしに信を置く者たちを救うのだから」。

「栄光は」「今も」

「後の世のために，創り主を言葉に尽くせぬ仕方で懐妊し出産した方よ，主に祈りたまえ，われらの霊を救いたまえと」。

○第6アンティフォン

（第7調）「ユダは今日，主を，世の永遠なる救い主を売り飛ばすために急ぐ。その主とは，5つのパンで群集を満たした方。きょう律法を破る者は師を否み，弟子であるにもかかわらず，人々の糧としてマンナを降らせた方を売り渡す」。

「きょう，ユダヤ人たちは主を十字架に釘付けとする。その主は，鞭で海を二つに分かち，荒れ野では彼らの前を進んだ方。きょう，彼らは主のわき腹を槍で貫く。その主とは，彼らのためにエジプトを打ちのめした方。そして彼らは主に苦汁を飲ませる，その主とは，彼らにマンナを降らせた方」。

「われらの主よ，あなたは自ら受難のためにやって来られると，弟子たちに向かってこう叫んだ。〈もしお前たちが一時間でもわたしとともに目覚めてい

ることができないのなら，どうしてわたしのために死ぬことなどできようか？
ユダを見よ，彼は眠らぬどころか，わたしを悪しき者らに売り渡すために急いでいるではないか。目覚めて祈りなさい。あなたがたのうち誰一人として，まもなくわたしを十字架上に見たとき，つまづくことのないように。われらの主よ，あなたに栄光！」。

「栄光は」「今も」

「神の母よ，あなたは祝された方，あなたは天も収めることのできなかった方を，胸の下に受け取られた。預言者たちが予言したおとめよ，あなたは祝された方。われらのために，あなたからエンマヌエルが輝き出でた。めでたし，われらの神，キリストの母よ」。

○カティズマーリオン「ユダよ，どんな出来事がお前を，救い主に対する裏切り者にしてしまったのか？　もしかしてお前は使徒団から離脱してしまったのか？　あるいは主は癒しの賜物をお前に与えなかったのか。彼らとともに晩餐に与かったとき，お前は食卓から遠ざけられたのか？　あるいは主が彼らの足を洗ったとき，あなたは外されたのか？　おお，お前はかくも大きな全盛を忘れ果ててしまったのか！　感謝を忘れたお前の行動は，悪事に属す。われらは主の，終わりを知らぬ大いなる忍耐と，豊かな恵みを告げ知らせよう」。

「栄光は」「今も」

「ユダよ，どんな出来事がお前を」。

「聖なる福音を...」

第3朗読

信徒「あなたの受難に栄光あれ，われらが主よ，栄光あれ」

マタイ26.57-75（カヤファの前のイエス：ペトロの否み）。

信徒「長きに及ぶあなたの忍耐に栄光あれ，われらの主よ，栄光あれ」

○第7アンティフォン

（第8調）「律法を破る者どもがあなたを捕らえると，われらの主よ，あなたは苦難の中で，こう叫びを挙げられた。〈たとえ牧者を殺し，12匹の羊を散らそうとも，わたしの弟子たちを，1万2000人の天使よりも多くわが防御のために立てることができよう。だがわたしは忍耐強くあろう，わたしについて預言者たちによって語られた，隠れた秘密の事柄がすべて成就するために〉」。

「ペーテルは3度までも否み，そのときすぐさま理解した，あなたが彼に告げていたことを。けれども痛悔の涙をもって，あなたにいけにえを捧げた。わ

が神よ，わたしを浄め，救いたまえ！」。

「栄光は」「今も」

「救いの門，見事な楽園，永遠の光を秘めた雲として，われらは聖なるおとめを歌う。皆あなたに〈めでたし！〉と声をそろえながら」。

○第8アンティフォン

（第2調）「律法破りの者どもよ，答えるがよい。あなた方はわれらの救い主から何を聞いたのか？　彼はあなたがたの前に律法を与え，預言者の教えを授けたのではなかったか？　あなたがたは，神から発する御言葉にして，われらの霊の解放者である方を，ピラトゥスに引き渡すことなど，どうして考えられるのか？」

「〈彼を十字架に付けよ！〉　つねにあなたの賜物に豊かに与かっていた者どもが，こう叫びを挙げる。そして彼ら真理の殺害者らは，感謝に代えて悪しき行為をもって報いる。しかしわがキリストよ，あなたは彼らの愚かしさを忍耐強くお聞きになった。自ら苦難に身を委ねることを望み，人を愛する方として，われらを救わんがために」。

「栄光は」「今も」

「われらの罪の甚だしさのゆえに，われらは主の前に敢えて進み出ることができない。だが神の母なるおとめよ，われらのため，あなたの聖なる御子に祈りたまえ。母の執り成しは，われらの主への懇願として大いに力を持つがゆえに。おお，浄らかなるおとめよ，罪人らの懇願を取り去りたもうな，主は憐れみ深く，われらのために自ら苦難に身を委ね，われらを救いうる方なれば」。

○第9アンティフォン

（第3調）「30枚の銀貨が，値踏みされた方の代価として準備された。彼を値踏みしたのはイスラエルの子らである。あなた方は誘惑に陥らぬよう，注意を怠らずに祈りなさい。霊は備えができていても，肉体は弱いのだ。だから目覚めていなさい」。

「わたしには食物として苦汁が与えられ，わが渇きのときには酢を飲まされた。しかし主よ，どうかわたしをよみがえらせたまえ。わたしは彼らに支払おう」。

「栄光は」「今も」

「われら，異邦人の間に生まれた者らは，浄らかなる神の母よ，あなたに歌う。あなたは神の子キリストを産み，この主はあなたを通して呪いから人を解放された」。

○カティズマーリオン「おお，かつてのあなたの弟子ユダは，いったい何を学んだのか，あなたに抗して裏切りを働くとは？　偽りの顔であなたとともに晩餐の席につき，あなたの敵また悪人として祭司の前にでて，彼はこう言う。〈わたしがあなた方の手に，律法を堕落させ安息日を破る者として彼を引き渡せば，あなた方はわたしに何をくれるのか？〉　大いなる忍耐のわれらが主よ，あなたに栄光！」。

「栄光は」「今も」

「おお，かつてのあなたの弟子ユダは」。

「聖なる福音を...」

第4朗読

信徒「あなたの受難に栄光あれ，われらが主よ，栄光あれ」

ヨハネ18.28-19.1（ピラトの前のイエス）。

信徒「長きに及ぶあなたの忍耐に栄光あれ，われらの主よ，栄光あれ」

○第10アンティフォン

（第6調）「外衣のごとくに光をまとった主が，きょう裸のまま裁きの座の前に立ち，自らの頬への平手打ちを，主ご自身が創造された手から受け入れる。罪ある人間が，栄光の主を十字架に釘付けとする。このとき神殿の垂れ幕が裂け，太陽は，万人が怖れ震撼する神への嘲りを見ていることができずに蔭る。彼に祈ろう！」。

「あなたの弟子はあなたを棄てたが，盗賊はこう叫びを挙げる。〈主よ，あなたの御国において，わたしを想い起こしたまえ〉」。

「栄光は」「今も」

「われらの主よ，世に平安を与えたまえ。あなたはしもべらのために，おとめから肉を取ることを肯われた。われらは皆うちそろってあなたの人間愛を讃える」。

○第11アンティフォン

（第6調）「あなたがユダヤの民のために幾多の善のために，彼らはあなたを十字架刑に処し，苦汁と酢を飲ませた。われらが主よ，彼らに対し，彼らの行いに照らして報いたまえ。彼らはあなたの謙遜を理解していないのだから」。

「ユダヤ人は，裏切りで満たされることはなく，あなたの前で頭を下げ，わがキリストよ，あなたに対して嘲笑と愚弄を繰り返す。しかしわれらが主よ，彼らに対し，彼らの行いに照らして報いたまえ。彼らはあなたの神慮を理解し

ていないのだから」。

「震撼する大地にも，裂けて水を放つ岩にもユダヤ人は信を置くことなく，神殿の垂れ幕をも，死者の復活をも信じなかった。しかしわれらが主よ，彼らに対し，彼らの行いに照らして報いたまえ。彼らはあなたの神慮を理解していないのだから」。

「栄光は」「今も」

「あなたから肉を受けた方のみが，浄らかであることをわれらは知る，ただ一人浄らかにして，ただ一人祝された神の母なるおとめよ。それゆえわれらは，止むことなき歌もてあなたを讃える」。

○第12アンティフォン

（第８調）「主なるイエスはユダヤの民にこう告げる。〈わが民よ。わたしが選んだ民よ！　わたしがあなたにどのような悪事を働いたというのか？　盲人の目を開き，らい病の患者を癒し，床に横たえられた手足の不自由な者を立ち上がらせた。わが民よ！　わが民よ，あたしはあなたをどのようにして傷つけたというのか？　あるいはあなたがたは，これほどのわが業に対して，あなたがたはどのような返礼をなしたというのか？　マンナには憤りを返し，岩から滴る水には酢を与えてくれた。そしてわたしがあなたがたを愛したがために，わたしを十字架に釘で磔にするというのか。あなたがたはわたしが，世の救い主だということを認めない。ならばわたしは，異邦の民を招こう。彼らはわたしを，父と聖霊とともに讃える。そしてわたしは彼らに，永遠の生命を与えよう」。

「きょう神殿の垂れ幕が，悪しき者どもを叱責するために二つに裂け，太陽はその光線を隠す，治め主が十字架に掛けられるのを目にして」

「栄光は」「今も」

「栄光の王の門よ，あなたは祝された方，いと高き方はただあなた一人を通られた。その後にもなお，あなたは封印されたままで留まられた，われらの救いのために」。

○カティズマーリオン（第８調）「救い主なるわれらの神よ。あなたはカヤファの前に立ち，ピラトゥスによる裁きの法廷の前に引き出される。あなたこそわれらすべてにとってを裁く裁き手。天の諸力は怖れゆえに震撼する。しかし十字架の木に挙げられ，二人の悪人の間にあって，あなたはただ一人罪なきものとして無実ながら，罪人の間に数えられ，罪ある人を救われる。無実にして苦難を蒙るわれらの主なるイエスよ！　あなたに栄光！」

「栄光は」「今も」　「救い主なるわれらの神よ」を繰り返す。

「聖なる福音を...」

第5朗読

信徒「あなたの受難に栄光あれ，われらが主よ，栄光あれ」

マタイ27. 3 -32（ユダの後悔：ピラトの裁き：イエスの愚弄）。

信徒「長きに及ぶあなたの忍耐に栄光あれ，われらの主よ，栄光あれ」

○第13アンティフォン

（第6調）「ユダヤ人の群れはピラトゥスに，あなたへの十字架刑をもとめ，あなたのうちに何ら過ちを見出さなかったにもかかわらず，罪のゆえに告訴されたバラバーシュを解放し，義とされたあなたに対しては，殺人の罪をなすり付けた。しかしわれらが主よ，彼らに園報いを返したまえ，彼らはあなたに虚しきたくらみを企てたのだから」。

「万物が怖れつつ讃嘆し，すべての民が歌うキリスト，神の力，神の智恵を，祭司たちは平手打ちにし，苦汁を飲ませた。師かし主は，人を愛する方として，われらを罪から贖うためにこれらすべてを耐え忍んだ」。

「栄光は」「今も」

「神の母よ，あなたは御言葉によって，どんな言葉にも尽せぬほどの仕方で，創り主をお産みになった。主に祈りたまえ，われらの霊を救いたまえと」。

○第14アンティフォン

（第8調）「われらの主よ，あなたは血に染まった手の盗賊を，自らの道連れとして受け入れられた。どうかわれらをも，善性に満ち人を愛する方として，その盗賊とともなる仲間とさせたまえ」。

「十字架上で回心した盗賊は，小さな願いを発し，大いなる信に値するものとされた。そして彼は，これと同じとき救われて，天上の開かれた門を最初に入っていった。彼の痛解を受け取られた方われらの主よ，あなたに栄光！」。

「栄光は」「今も」

「祝された方，あなたは天使の挨拶によって世の喜びをその胎に受けられた。祝された方，あなたは創り主と主を産んだ。祝された方，あなたは神の母となるに相応しき方であることを証しした」。

○第15アンティフォン

（第6調）「大地を水に掛けた方が，きょう，木に懸けられる。天使たちの王が，茨の冠をかぶせられる。天を雲で覆った方が，血の色をした外衣をまとう。ヨルダン川でアーダームの罪を洗い流した方が，鞭打ちに処せられる。母なる

聖教会の救いの許婚者が，無残にも釘で打ち付けられる。おとめの御子がやりで貫かれる。イエスよ，あなたの受難を目にして，われらは膝をかがめる。イエスよ，あなたの受難を目にして，われらは膝をかがめる。われらを，あなたの栄えある復活にも適う者となさしめたまえ」。

「ユダヤ人たちのごとくに寿ぐことは，われらはすまい。われらの過ぎ越しの小羊キリストが，われらのために自らを捧げられたのだから。むしろわれらは，あらゆる咎から自らを浄め，主に向かって浄らかにこう叫ぼう。〈主よ立ち上がり，われらを救いたまえ，人を愛する方として〉」。

「主よ，あなたの十字架は，あなたの民の生命にして復活，そのうちに希望をおきつつ，われらはあなたを復活したわれらの神として歌う。われらを憐れみたまえ」。

「栄光は」「今も」

「あなたの産みの母は，あなたが十字架に掛けられたのを見て，こうつぶやいた。〈おおわが子よ，これはなんと怖ろしき神秘であることか。そしてあなたは十字架を通して肉において十字架に懸けられ，生命を与える方として，なんという仕方で平和を与えられることか！〉」。

○カティズマーリオン（第4調）「あなたは貴いその血で，われらを律法の呪いから贖われた，十字架に釘付けにされ，槍で貫かれて。あなたは人のためにその不死性を注がれた。われらの救い主よ，あなたに栄光！」

「栄光は」「今も」

「あなたは貴いその血で，われらを律法の呪いから贖われた，十字架に釘付けにされ，槍で貫かれて。あなたは人のためにその不死性を注がれた。われらの救い主よ，あなたに栄光！」

「聖なる福音を...」

第6朗読　マルコ15.16-32a（イエスに対する愚弄：十字架への磔）。

○「幸いなる者」

「われらの主よ，あなたが御国に来られるとき，われらのことを想い起こしたまえ。霊において貧しき者たちは幸い，天国は彼らのもの。柔和な者たちは幸い，彼らは地を受け継ぐ。泣く者たちは幸い，彼らは慰められる。真理に飢え渇く者たち幸い，彼らは満たされる。憐れみ深き者たちは幸い，彼らは憐れみを受ける。心の清い者たちは幸い，彼らは神を見る。平和をもたらす者たちは

幸い，彼らは神の子らと呼ばれる。真理のために迫害を受ける者たちは幸い，天国は彼らのもの。あなた方が罵られ迫害され偽証されて，わたしのためにあなた方があらゆる悪口を浴びせられるとき，あなた方は幸いである。喜び踊れ，あなた方が天において受ける報いは計り知れない」

「栄光は」

「父と子と聖霊を，われら信徒はみなこぞって相応しく讃美し，崇めよう，三位の一なる神にして分かちがたく，絶対的に存在する方として。この方こそ，断罪の火のごとき苦しみから救ってくださる方」。

「今も」

「わがキリストよ，あなたの母は，あなたを肉において染みなく産み，出産の後にも咎なく留まられた。祈りを通してわれらは寿ぐ，大いなる憐れみに満ちたわれらの治め主よ，この方を通して，あなたに向かってこう叫ぶ者すべてのために，罪の赦しを願いながら。〈われらの救い主よ，あなたの御国において，われらのことを思い起こしたまえ〉」。

「謹んで聴こう」（ウ12）
プロキメン４「彼らは自分たちの間でわたしの衣を分け，わたしの外衣をめぐって籤を引いた」。

第７朗読　マタイ27.33-54（イエスの十字架磔：死）。　～これ以降香振りは行われない。
詩篇第50篇（ウ15）

第８朗読　ルカ23.32-49（十字架上のイエス：死）。

カーノン（ウ18－）―四旬節には，典礼があまりに長大になるのを防ぐため，カーノン部が「トリオーディオン」（３オード）と呼ばれるものに定着した。すなわち，月曜は第１，火曜は第２，水曜は第３，木曜は第４，金曜は第５歌，土曜はテトロディオン（４歌カーノン）ゆえ第６，７歌を歌い，毎日第８，９歌は歌う。すなわちこの日は金朝扱いなので―

第５〔イザヤ26.９-20〕「わたしはあなたに向かって目を覚ます。あなたは倒れた者に対する憐れみにより，紛いようもなく自らを虚しくし，もう苦しみを受けることなく，受難にいたるまで完全に自らを低くされた，神の御言葉よ！

人を愛する方として，あなたの平和をわたしに与えたまえ」。

○コンターク（第８調）「われらのために十字架に懸けられた救い主を，来たれ，われらみなで歌おう。マーリアは彼を十字架上に見て，こうつぶやいた。〈十字架に付けられて苦しみに遭おうとも，あなたはわが子，わが神！〉」
○イコス（第８調）「雌羊は，自らの小羊が屠られるために引かれてゆくのを見ると，マリアは，他の女性たちとともに髪を振り乱してあとを追い，こう叫んだ。〈わが子よ，どこへ行くのですか？　その大変な急ぎようは誰のためなのですか。おそらく別の婚姻の祝宴がガリレアのカナに用意されていて，水をぶどう酒に変えるために，そこへ急ぐのですか？　わが子よ，あなたとともにわたしも行きましょうか？　もしくはここであなたを待ちましょうか？　ひとことわたしに言って下さい。おお御言葉よ，言葉もなくわたしの傍らを通り過ぎたもうな。あなたはわたしを，浄らかさのうちに力づけた。あなたはわたしの子，わたしの神！〉」。

―「メネア」によれば，ここに長大な「シュナクサーリオン」部が挿入される。内容は，聖金曜日の起源・内容に関する朗読である。司教座聖堂での典礼では，これは省略されていた。

第８〔ダニエル３.52-88〕「神に抗う偶像を，神を畏れる若者たちは軽蔑したが，律法を破る者の集まりはキリストに抗して陰謀をめぐらし，急ぎ会議を開いてこう考えた。〈その手の内に生命を保持しておられる方，自然がこぞって，とこしえに讃美をささげつつ宿する方を，果たして殺すことができようか？〉」。
―「わが霊は主を讃え」は歌わず，イルモスの後にカタヴァスィアの第８.
第９〔ルカ１.46-55；68-79〕「ケルビムよりも尊く，セラフィムよりも類いようもなく栄えある方，あなたは神を，御言葉を，陣痛なくお産みになった。真なる神の母よ，われらはあなたを誉め歌う」
光の歌「わがキリストよ，あなたは善き道に回心した悪人を，楽園に叶う者とした。あなたの十字架の下で，わたくしをも照らし，救いたまえ」。

第９朗読　ヨハネ19.25-37（イエスの母：イエスの死，脇腹の開き）。
○「すべての霊は」（ウ29）

讃美のスティヒラ（ウ30）
○「イスラエルの民は，二種の悪しき業をわたしに対して行った，わたしの初

子であるにもかかわらず。イスラエルは，生ける水の源であるわたしを捨て去り，腐敗した泉を自分のために掘った。わたしを木に掛け，代わりにバラバスを自由の身にするよう要求した。これに天は震撼し，陽は光を隠して闇に覆われる。しかしイスラエルよ，おまえはこれを恥と考えず，わたしを死に打ち棄て嘲った。天の聖なるわが父よ！　彼らを赦したまえ，彼らは自分が何をしているのか，知らないのだから」。

○「主よ，あなたの聖なる体のすべての部分は，われらのために恥と痛みを被った。聖なる頭はいばらを，天上なる御顔は唾吐きを受け，あごは平手打ちを，唇は酢を混ぜた苦汁を，両耳は神なき誹謗を，両肩は打擲を耐え忍んだ。あなたの両の手は葦の紐で縛られ，両足には鉄の釘が打ち込まれた。わき腹には槍を突き刺され，聖なるあなたの全身は，十字架の上に力ずくで引き裂かれた。おお甘きわれらのイエスよ，あなたはわれらを永遠の苦しみから解き放つため，これらすべてをわれらのために耐え忍び，自らをわれらのためにへりくだらせた。神の御子よ！それはあなたが人を愛し，われらを自らに向けて高めるため。全能なるわれらの救い主よ，われらを憐れみたまえ！」

○「キリストよ，あなたが十字架に掛かるのを目にして，すべての被造物は震撼し，地の礎はあなたの力への怖れのために揺れ動いた。あなたがきょう挙げられた際，ユダヤの民は堕ち，神殿の垂れ幕は真っ二つに裂け，死者は開いた墓から起き上がった。百人隊長はこの奇跡を目にして驚嘆する。あなたの母はそこに立ち，母として泣きながらこう叫ぶ。〈あなたが裁かれ，衣も着ずに十字架の木に懸けられているのを見て，わたしの胸は打たれます。どのように泣けばよいのでしょうか？〉　十字架に懸けられて葬られ，死者のうちから復活したわれらの主よ，あなたに栄光！」。

「栄光は」

○「彼らはわたしから衣服を剥ぎ取り，血色のマントを着せ，茨の冠をわたしの頭にかぶせ，右の手には芦を与え，陶器のようにわたしにそれを折らせる」。

「今も」

○「わたしはわが体を鞭打つ者に任せ，わたしに唾を吐きかける者から顔をそむけない。わたしはピラトゥスの裁きの座の前に立ち，世の救いのために，十字架に懸けられる」。

第10朗読　マルコ15.43-47（イエスの埋葬）。

「われらの主なる神よ，栄光はあなたに相応しい，われらはあなたを讃える，

父と子と聖霊よ，今もいつも世々とこしえに」。
「アーメン」。
「神よ，あなたに栄光，あなたはわれらに光をもたらした」
小栄唱（ウ32）
完遂連祷（ウ37）

第11朗読　ヨハネ19.38-42（イエスの埋葬）。
先句スティヒラ（ウ33）―前半4個は金曜晩課と共通である。
①「すべての被造物は，われらの救い主キリストよ，あなたが十字架に掛かるのを目にし，恐れゆえにその様を変える。太陽は雲に隠れ，大地の基礎は震撼する。万物の創り主の受難に，万物は与かろうと急ぐ。われらの主よ，自らわれらのために苦しまれた方，あなたに栄光！」
先句「彼らは自分たちの間でわが外衣を分かち，わが衣のために籤を引いた」。
②「悪しく神なき者らは，何ゆえに虚しきことどもをめぐって争い，何ゆえに生命の主を死に定めるのか？　おお，偉大なる奇跡よ！　世の創り主が罪人らの手に自らを委ね，人を愛する方は十字架につけられる。主はこれらすべてを被る，それは苦難によって黄泉の囚われ人を解放するため。おお，長きにわたって耐え忍ぶわれらの主よ，あなたに栄光！」。
先句「彼らはわたしに食物として苦汁を与え，わが渇きのおりに，わたしに酢を飲ませた」。
③「肉を取った神の御言葉よ，きょう染みなきおとめは，あなたが十字架に掛かるのを見た。すると母の胸を鋭い剣が貫き，彼女のいとも浄らかなる心に傷を与えた。彼女は霊の深みから痛みのうちにむせび泣き，振り乱した髪で泣き叫び，胸を打ちながら悲しみつつこう叫んだ。〈ああ，わが神の子よ！　ああ，世の光よ！　神の小羊よ，何ゆえにあなたはわが眼の前に降り立ったのか？〉。
　天使らも怖れつつあなたの受難に驚愕する。われらには収めきれぬ主よ，あなたに栄光！〉」。
先句「われらの王は永遠の昔より神，世のただ中にあって解放をもたらされた」。
④「われらの救い主よ！　あなたの母，染みなきおとめは，万物の創り主にして神なるあなたが十字架に掛かるのを目にして，激しくあえぐ。〈わが愛しき子よ，わが神よ！　あなたの眼差しの美しさはどこへ行ったのか？　わたしはあなたが不当にも死に苦しめられるのを見ようとも，痛みを覚えはしない。急

ぎ，立ち上がりたまえ，死者の中からあなたが三日目に復活するのを，わたしが讃えられるように〉」。
「栄光は」
○「すべての被造物は，われらの救い主キリストよ，あなたが十字架に掛かるのを目にし，恐れゆえにその様を変える。太陽は雲に隠れ，大地の基礎は震撼する。万物の創り主の受難に，万物は与かろうと急ぐ。われらの主よ，自らわれらのために苦しまれた方，あなたに栄光！」。
「今も」
○「真理に反する治め手らは，裁きの杓をもはや打ち壊し，イエスははや裁かれて十字架に処せられる。自然は，主が十字架に懸けられるのを目にして震撼するが，あなたは自然に従って，肉のうちに，わたしのために苦難を耐え忍ぶ。善性に溢れる主よ，あなたに栄光！」

第12朗読　マタイ27.62-66（イエスの埋葬）。
「主を讃えることはよきこと，いと高き方よ，あなたの名に歌を捧げることはすばらしきこと」
「聖なる神」×３，「主の祈り」（ウ34）
トロパール（第４調）「あなたは貴いその血で，われらを律法の呪いから贖われた，十字架に釘付けにされ，槍で貫かれて。あなたは人のためにその不死性を注がれた。われらの救い主よ，あなたに栄光！」
三重連祷（ウ36）
聖金曜日の閉じの祈り（ウ38）
司祭「あなたに栄光あれ，キリスト・われらの神よ，われらの希望よ，あなたに栄光あれ」
信徒「栄光は」「今も」「主よ，憐れみたまえ」（×３）「主よ，祝福を与えたまえ」
司祭「キリスト，真なるわれらの神よ，あなたは世の救いのために，唾を吐きかけられ，傷を帯び，頬を打たれ，十字架にかけられ，死を受け入れられた（金曜前晩夜半課～木曜晩の金曜朝課，王の時課）。いとも聖なる神の母，聖生にして神の息吹を受けたわれらの師父たち，そしてすべての聖人たちの執り成しを通じて，われらを憐れみ救いたまえ，善性に満ち人を愛する方として」。
信徒「アーメン」
司祭「主の祝福が，その恵みと人への愛とともにあなた方にあらんことを。今

もいつも世々とこしえに」。　信徒「アーメン」。

B　「王の時課」

聖金曜日は，すでに前日の晩に朝課を繰り上げて執り行っているため，当日は午前7時の「1時課」より典礼が始まる。以下，午前9時に3時課，正午に6時課，午後3時に9時課，それに引き続いて「昼の奉神礼」が行われる。序に記したように，「降誕祭」「公現祭」そしてこの「復活祭」期間中には，いずれもその前日すなわち12月24日，1月5日，そして聖金曜日に「王の時課」と呼ばれる式が行われ，この最後に接続するかたちで「昼の奉神礼」が執り行われる。

ここで「時課」について一般的な解説を施しておく。4つの時課が持つ意味合いは微妙に異なり，それは各時課において用いられる「トロパール」「コンターク」の違いによって表される。これらは「テュピコン」に明記されている。すなわち，1時課では当該週の調のものを，3時課と9時課では当日の聖人のものを，また6時課は当聖堂の守護聖人のものを用いるのが原則である。3時課と9時課に関して，当日の聖人が2人ある場合には前者で2人目を，後者で1人目を記念することになっているが，ニーレジハーザの神学院では3時課と9時課は重複せず，祝日の重要度にあわせて2つの時課のどちらでも聖人のトロパールを用いるなど，臨機応変に対応していた。また同神学院は1981年10月1日「聖母の御守り」の日に献堂されたため，6時課ではこの祝日のものが用いられた。その聖堂の守護聖人は，イコノスタシスの中で，向かって最も右側のイコンにより明示される（それ以外の3枚は，左つまり北から順に，聖ミクローシュ，聖母子，「教師キリスト」―聖書を開き右手で指し示すキリスト―である）。大祝日でない場合，聖堂中央部・王門手前に置かれた「イコン接吻台」には，通常当聖堂の守護聖人のイコンが置かれている。「イコン台」上のイコンは，当日の奉神礼で用いられる讃歌を示す働きをも持つ。

各時課には共通した構造がある。―「常なる始め」（晩課参照），「（曜日ごとの）詩篇読誦」（上記参照），「栄光は」「今も」「アレルヤ，アレルヤ，アレルヤ，神よあなたに栄光」（×3）。「主よ憐れみたまえ」（×3），「栄光は」，「トロパール」（トロパールが2つの場合には「栄光は」をその間に挿入する），「今も」，「神の母讃歌」，「詩篇読誦部」，「聖なる神」～「主の祈り」「国と力と...」。「‘アーメン」，「コンターク」，「主よ憐れみたまえ」（×40），「司祭による祈り」，「アーメン」，「主よ憐れみたまえ」（×3），「栄光は」「今も」，「ケルビムより

も尊く...」　信徒「主の名において，父よ，祝福を与えたまえ」，司祭「聖なる師父たちの祈りを通して，主であるわれらの神イエス・キリストよ，われらを憐れみたまえ」，信徒「アーメン」，「司祭による聖バジルの祈り」（時課ごとに異なる），信徒「アーメン」，司祭「あなたに栄光あれ，キリスト・われらの神よ，われらの希望よ，あなたに栄光あれ」　信徒「栄光は」「今も」「主よ，憐れみたまえ」（×３）「主よ，祝福を与えたまえ」「司祭による散会句」（「キリスト，真なるわれらの神は...」）　信徒「アーメン」　「司祭による祝福」（「主の祝福が，その恵みと人への愛とともに...」）　信徒「アーメン」である。以下詳細を翻刻する。

１）１時課

１.「われらの神は祝せられる，いにしえより，今もいつも世々とこしえに」「アーメン」

「常なる始め」～「聖なる神」「主の祈り」，「来たれ」（×３）

２．聖金曜日は詩篇５，２，21〔降誕祭は詩篇５，44，45：公現祭は５，22，26：ふだんは５，89，100，45，91，92〕。

「栄光は」「今も」「アレルヤ，アレルヤ，アレルヤ，神よあなたに栄光」（×３）「主よ憐れみたまえ」（×３）

「栄光は」「今も」

３．トロパール（第１調）「キリストよ，あなたが十字架に掛けられることによって拷問は止み，敵勢の力は打ち負かされた。天使でも人間でもなく，われらの治め主なるあなた自らがわれらを救った。あなたに栄光！」。

「今も」

４．神の母讃歌（第８調）「恩寵満ち充てる方，あなたを何と名づけようか。真理の太陽を輝かせたがゆえに天としようか。不死の花を育んだがゆえに楽園としようか。傷なきままに留まったがゆえに処女としようか。万物の神である方の子をその腕に抱かれたがゆえに，純潔の母としようか。この方に祈ろう，われらの霊を救いたまえと」。

―「王の時課の際にはここにスティヒラ，プロキメン，パリミア，アポシュトル，福音書が介在する。それ以外のときにはすぐに７.に移る」。

５．スティヒラ

①「きょう神殿の垂れ幕が，悪しき者どもを叱責するために二つに裂け，太陽はその光線を隠す，治め主が十字架に掛けられるのを目にして」。

②「きょう神殿の垂れ幕が」
先句「彼らは自分たちの間でわが衣を分け合い，わが外套のためにくじを引く」
③「屠り場に引かれる羊のように，われらの王キリストよ，あなたは律法学者らにより引っ立てられてゆく。そして傷のない小羊のように，あなたは十字架に釘付けにされた，われらの罪のゆえに，人を愛する方なれば」。
先句「民の長らは集い，主に向かって，主の油注がれた者に向かって抗う」
「栄光は」
⑤「律法を破る者らがあなたを捕らえると，われらの主よ，あなたはその苦悩の合間にこう叫びを挙げた。〈もしあなたがたが牧者を殺し，12匹の羊，わが弟子たちを散らそうとも，この12匹はわたしを守る千人の天使よりも多くなるだろう。しかしわたしは忍耐強く留まる，預言者たちによってわたしに関して秘かに隠れて語られたことが，すべて成就するために〉。主よ，あなたに栄光！」
「今も」
⑥「律法を破る者らが」
6．「謹んで聴こう」
プロキメン（第4調）「彼の心は，自らに悪を重ねた」。
先句「寄る辺なき者，貧しき者に心を寄せる者は幸い」。
「叡智！」「ザカリヤの朗読」「謹んで聴こう！」　パリミア朗読（ザカリヤ書11.10-13）
同様に　使徒書朗読（ガラテヤ書6.14-18）

司祭「聖なる福音を聴くのに相応しくあれるよう，平安のうちに主に祈ろう！」　信徒「主よ憐れみたまえ，憐れみたまえ」　司祭「あなたがたすべてに平安があるように」　信徒「あなたの霊にも」　司祭「叡智！　真なる信徒たちよ，聖なる福音を聞こう。聖〜福音の朗読」　信徒「われらの主よ，あなたの長きにわたる忍耐に栄光，あなたに栄光！」　司祭「謹んで聴こう！」。
福音書朗読（マタイ27.1-56）」「われらの主よ，あなたの長きにわたる忍耐に栄光，あなたに栄光！」

7．詩篇読誦部「わが歩みをあなたの言葉に従って導きたまえ，わたしを誤りが支配せぬように。わたしを人々の非難から救いたまえ。あなたの掟を守り抜けるように。僕の上に，あなたの御顔の光を輝かせて下さい。わたしをあなたの真理に向けて諭して下さい。わたしの口があなたの讃美で満たされ，あなた

の栄光を，あなたの偉大さを一日中歌えるように」
8．「聖なる神」～「主の祈り」
9．コンタック（第8調）「われらのために十字架に懸けられた救い主を，来たれ，われらみなで歌おう。マーリアは彼を十字架上に見て，こうつぶやいた。〈十字架に付けられて苦しみに遭おうとも，あなたはわが子，わが神！〉」

――・――

10．時課の終わり（以下の各時課に共通）。
「主よ憐れみたまえ」（×40）
「いついかなる時も，天にあっても地においても，あなたは崇められ讃えられるべき方，善き方にして忍耐強く，憐れみに満ちたわれらの神よ。あなたは真理を愛し，罪びとを憐れみ，来たるべき善きことの約束を通してすべての者を救いに導かれる。あなたはわれらの主，その方！　今このとき，われらの祈りをも聞き入れ，あなたの善性を通してわれらの生を導き，あなたの掟を固く守らせたまえ。われらの霊を聖化し肉を浄め，思いを導き，われらの理解を知的で穏便なるものとなし，われらをあらゆる心労，悲嘆，痛み，霊的苦悩から救いたまえ。聖なるあなたの天使たちとともにわれらを覆い，その庇護の下に強め，彼らを通して諭し，われらが信の一致と近づきがたきあなたの栄光の理解へと導かれるように。あなたはとこしえに祝された方」。「アーメン」
「主よ憐れみたまえ」（×3）
「栄光は」「今も」
「ケルビムよりも」
「主の名によりて，神父よ，祝福を与えたまえ」
「神よ，われらを憐れみ，われらを祝し，御顔の光をわれらに注ぎ，われらを憐れみたまえ！」「アーメン」

～参考；〔四旬節期間中に用い，王の時課では用いない〕
○聖エフレムの祈り「わが生命の主にして治め主よ，わたしのうちに，意図的な怠惰，無思慮，金銭欲，あるいは中傷の思いが忍び寄ることを許したもうな。むしろあなたのしもべに，節制，謙遜，堅忍そして愛の霊を恵みたまえ。そうです，主よ，わが王よ！　わたしがわが罪を知り，わが同胞を裁くことのないようにさせたまえ。あなたは世々とこしえに到るまで祝された方」「アーメン」
「聖なる神」～「主の祈り」
「主よ憐れみたまえ」（×12）

11．聖バジルの祈り（1時課）「キリスト，真なる光よ，あなたは，この世に来たる人をすべて照らされる方。どうかわれらの上にあなたの御顔の光が輝き，そこにわれらが近づきがたき光を見ることができるように。われらの歩みをあなたの掟の道へと導きたまえ。染みなきあなたの母とすべての聖人たちの祈りによって。アーメン」

12．閉じの祈り；〔晩課・朝課などでもここから合流〕
助祭「叡智！」
信徒「祝福を与えたまえ」
司祭「キリスト，われらの神がとこしえに祝せられ，讃えられんことを」
信徒「神よ，真の普遍的信仰を，世々とこしえに力づけたまえ」
司祭「いとも聖なる神の母よ，われらを救いたまえ」
信徒「ケルビムよりも尊く，セラフィムよりも類いようもなく栄えある方，あなたは神を，御言葉を，陣痛なくお産みになった。真なる神の母よ，われらはあなたを誉め歌う」

司祭「あなたに栄光あれ，キリスト・われらの神よ，われらの希望よ，あなたに栄光あれ」
信徒「栄光は」「今も」「主よ，憐れみたまえ」（×3）「主よ，祝福を与えたまえ」
司祭「キリスト，真なるわれらの神よ，〔あなたはわれら人類のため，またわれらの救いのために，恐るべき受難と，生命を与える十字架，自らなる埋葬を肉において受け取られた。〕いとも聖なる神の母，聖生にして神の息吹を受けたわれらの師父たち，そしてすべての聖人たちの執り成しを通じて，われらを憐れみ救いたまえ，善性に満ち人を愛する方として」。
信徒「アーメン」。
司祭「主の祝福が，その恵みと人への愛とともにあなた方にあらんことを。今もいつも世々とこしえに」。
信徒「アーメン」。

2）3時課
1．「われらの神は祝せられる，いにしえより，今もいつも世々とこしえに」

「アーメン」
「常なる始め」～「聖なる神」「主の祈り」,「来たれ」(×3)
2．聖金曜日は詩篇40, 68, 50〔降誕祭は詩篇66, 86, 50：公現祭は28, 41, 50：ふだんは16, 24, 50：29, 31, 60〕。
「栄光は」「今も」「アレルヤ，アレルヤ，アレルヤ，神よあなたに栄光」(×3)「主よ憐れみたまえ」(×3)
「栄光は」「今も」
3．トロパール（第1調）「主よ，ユダヤ人は，万人にとっての生命であるあなたを死に定め，紅海を鞭で二つに分けたあなたを十字架に釘付けとし，岩から水を湧き出させたあなたに，苦い酢を飲ませた。しかしあなたは自らこの苦難を受けた。それは敵の責め苦よりわれらを解放するため。主よ，あなたに栄光！」。
「栄光は」「今も」
4．神の母賛歌（第2調）「神の母よ，あなたは真の葡萄の樹，われらに生命の果実を育まれた。あなたに向かい，われらは願う，聖なる使徒たちとともに，われらのために主なる方に祈りたまえ，われらの霊を憐れみたまえと」。
5．スティヒラ（第8調）「ユダヤ人に対する恐れゆえに，あなたの友にしてあなたの愛するペーテルは，主よ，あなたを否み，泣きながらこう叫びを挙げる。〈わが涙を拭い去りたもうな。わたしはあなたに信を約束し，それを守らなかった。われらが主よ，われらの痛悔を受け取りたまえ。そしてわれらを憐れみたまえ〉」。
先句「彼らはわたしに食物として苦汁を与え，わが渇きのおりに，わたしに酢を飲ませた」。
○「尊いあなたの十字架を前に，兵士らはあなたを嘲笑し，天の軍勢はそのために驚愕する。大地の色を花もて装ったあなたが，嘲笑の冠でもって自らを飾るがゆえに。大地の力を雲で覆ったあなたは，不名誉なる紫色の外衣を身にまとった。このような救いの計らいのうちに，あなたの善性の溢れなるキリストが現れた。主よ，あなたの恵みは偉大，あなたに栄光！」
先句「彼らは自分たちの間でわが外衣を分かち，わが衣のために籤を引いた」。
○「尊いあなたの十字架を前に，兵士らはあなたを嘲笑し，天の軍勢はそのために驚愕する。大地の色を花もて装ったあなたが，嘲笑の冠でもって自らを飾るがゆえに。大地の力を雲で覆ったあなたは，不名誉なる紫色の外衣を身にまとった。このような救いの計らいのうちに，あなたの善性の溢れなるキリスト

が現れた。主よ，あなたの恵みは偉大，あなたに栄光！」
「栄光は」「今も」
(第５調)「十字架に付けられて，主よ，あなたはこう叫ぶ。〈おおユダヤ人よ，あなた方は何ゆえにわたしを殺そうとするのか？　おそらくそれは，あなた方に属していた足の不自由な者をわたしが癒し，死者たちをあたかも眠りからよみがえらせるかのように復活させ，出血の止まらぬ婦人を健康にし，カナの役人を憐れんだためであろう。おおユダヤ人よ，あなた方は何ゆえにわたしを殺そうとするのか？〉　だがユダヤ人よ，きょうあなたがたは，自分たちが張り手を食らわせるその方こそメシアであるということを見る」。
６．「謹んで聴こう」
プロキメン（第４調)「今日，わたしは鞭打ちを受ける覚悟があり，わが苦しみは常にわが目の前にある」。先句「主よ，あなたの喜びのときにわたしを責めず，あなたの怒りのうちにわたしを叱責したもうな」。
「叡智！」「イザヤ書の朗読」「謹んで聴こう！」　パリミア（イザヤ書50．４－11)
同様に　使徒書朗読（ローマ書５．６-10)
　福音書朗読（マルコ15.16-41）……１時課を参照。
７．詩篇読誦部「主は祝されよ！主は日ごと祝されよ。われらの救いである神は，われらに幸いの道を備えられた。われらの神は，解放する神！」。
８．「聖なる神」～「主の祈り」
９．コンターク（第８調：アタナーズ本)「われらのために十字架に懸けられた救い主を，来たれ，われらみなで歌おう。マーリアは彼を十字架上に見て，こうつぶやいた。〈十字架に付けられて苦しみに遭おうとも，あなたはわが子，わが神！〉」
10.「主よ憐れみたまえ」(×40)
「いついかなる時も」。「アーメン」。
「主よ憐れみたまえ」(×３)「栄光は」「今も」「ケルビムよりも」
「主の名によりて，神父よ，祝福を与えたまえ」
司祭「神がわれらを憐れみ，われらを祝福し，われらの上に御顔の光を輝かせ，われらを憐れんでくださるように」「アーメン」。
11．聖バジルの祈り「すべてを保たれる治め主である父なる神，御独り子なるイエス・キリスト，聖霊よ，一なる神性，一なる力よ，われら罪人を憐れみ，あなたの御心に適うよう，価値なきしもべなるわれらを救いたまえ。あなたは

世々とこしえに祝される方」。「アーメン」。
12. 閉じの祈り（1時課参照）。

3）6時課

1.「われらの神は祝せられる，いにしえより，今もいつも世々とこしえに」「アーメン」
「常なる始め」～「聖なる神」「主の祈り」，「来たれ」（×3）
2. 聖金曜日は詩篇51，108，90〔降誕祭は71，131，90：公現祭は73，76，90：ふだんは詩篇53，54，90：55，56，69〕。
「栄光は」「今も」「アレルヤ，アレルヤ，アレルヤ，神よあなたに栄光」（×3）「主よ憐れみたまえ」（×3）
「栄光は」
3. トロパール（第2調）「われらの神なるキリストよ，あなたは地上に救いをもたらされた。いとも浄らかなるその手を十字架に広げ，異邦の民を集められた。彼らはあなたに叫びを挙げる。〈主よ，あなたに栄光！〉」。
「今も」
4. 神の母讃歌（第2調）「われらの罪の甚だしきがゆえに，われらは主の前に敢えて進み出ることができない。しかし汝，おとめなる神の母よ，われらのために汝の聖なる御子に祈りたまえ。なぜなら母の願いは，われらの主への嘆願となり，大いに力を持つがゆえに。おお，浄きおとめよ，罪びとらの願いを蔑ろになしたもうな。われらのために自ら苦しまれた方は憐れみ深く，われらを救いうるがゆえに」。
5. スティヒラ（第8調）「主なるイエスはユダヤの民にこう告げる。〈わが民よ。わたしが選んだ民よ！　わたしがあなたにどのような悪事を働いたというのか？　盲人の目を開き，らい病の患者を癒し，床に横たえられた手足の不自由な者を立ち上がらせた。わが民よ！　わが民よ，あたしはあなたをどのようにして傷つけたというのか？　あるいはあなたがたは，これほどのわが業に対して，あなたがたはどのような返礼をなしたというのか？　マンナには憤りを返し，岩から滴る水には酢を与えてくれた。そしてわたしがあなたがたを愛したがために，わたしを十字架に釘で磔にするというのか。あなたがたはわたしが，世の救い主だということを認めない。ならばわたしは，異邦の民を招こう。彼らはわたしを，父と聖霊とともに讃える。そしてわたしは彼らに，永遠の生命を与えよう」。（×2）

先句「彼らはわたしに食物として苦汁を与えた。そしてわが悲しみのうちに，わたしに酢を飲ませた」。

「〈イスラエルの律法学者たち，ユダヤ人とファリサイ派の者どもよ！〉　使徒たちの一団はあなたがたに向かって叫ぶ。見よ，あなたがたが打ち壊した神殿だ。見よ，あなたがたが十字架に釘付けにし，墓に収めたが，自らの力により復活した小羊だ。ユダヤ人たちよ，あやまつな。彼は，あなたがたを海の波から救い出し，あなたがたを荒れ野で養ったのと同じ存在だ。彼こそ生命，光，世の平和」。

先句「神よ，わたしを救いたまえ，水はわが霊にまで達している」。

「〈イスラエルの律法学者たち，ユダヤ人とファリサイ派の者どもよ！〉　使徒たちの一団はあなたがたに向かって叫ぶ。見よ，あなたがたが打ち壊した神殿だ。見よ，あなたがたが十字架に釘付けにし，墓に収めたが，自らの力により復活した小羊だ。ユダヤ人たちよ，あやまつな。彼は，あなたがたを海の波から救い出し，あなたがたを荒れ野で養ったのと同じ存在だ。彼こそ生命，光，世の平和」。

「栄光は」

「〈イスラエルの律法学者たち，ユダヤ人とファリサイ派の者どもよ！〉　使徒たちの一団はあなたがたに向かって叫ぶ。見よ，あなたがたが打ち壊した神殿だ。見よ，あなたがたが十字架に釘付けにし，墓に収めたが，自らの力により復活した小羊だ。ユダヤ人たちよ，あやまつな。彼は，あなたがたを海の波から救い出し，あなたがたを荒れ野で養ったのと同じ存在だ。彼こそ生命，光，世の平和」。

「今も」

「来たれ，キリストを担う民よ，見よ，裏切り者のユダは，律法を破る祭司とともに，われらの救い主に対して，何という議決に参画したことか。きょう力ある御言葉は死に定められ，ピラトに渡されて，刑場で十字架につけられ，苦難のなかで，救い主はこう叫びを挙げる。〈わが父よ，どうか彼らにこの罪を負わせたもうな。諸国の民が，死者のうちからの復活を理解するために〉」。

6．「謹んで聴こう」

プロキメン（第4調）「主よ，われらの主よ，あなたの名は地の面すべてにおいてなんとすばらしきことか」。先句「あなたの栄光は天を超えて讃えられる」。

「叡智！」「イザヤ書の朗読」「謹んで聴こう！」　パリミア（イザヤ書52.13-54.1）

同様に　使徒書朗読（ヘブル書 2.11-18）
　福音書朗読（ルカ23.32-49）……1時課を参照。
7．詩篇読誦部「主よ，あなたの憐れみにより，すみやかにわれらを覆いたまえ。われらは真に乏しくなってしまった。われらの救いの神よ，われらを助けたまえ。あなたの名の栄光をもって，われらを救いたまえ。あなたの名をもって，われらの罪を赦したまえ」。
8．「聖なる神」～「主の祈り」
9．コンターク（第8調）「われらのために十字架に懸けられた救い主を，来たれ，われらみなで歌おう。マーリアは彼を十字架上に見て，こうつぶやいた。〈十字架に付けられて苦しみに遭おうとも，あなたはわが子，わが神！〉」
10.「主よ憐れみたまえ」（×40）
「いついかなる時も」。「アーメン」。
「主よ憐れみたまえ」（×3）
「栄光は」「今も」「ケルビムよりも」
「主の名によりて，神父よ，祝福を与えたまえ」
司祭「神がわれらを憐れみ，われらを祝福し，われらの上に御顔の光を輝かせ，われらを憐れんでくださるように」「アーメン」。
11．聖バジルの祈り「諸力の主にしてその神，すべての被造物の創り主よ，あなたは書き記しがたき憐れみを通して，御独り子なるわれらの主イエス・キリストを，われらの種の救いのために遣わされた。そして主の貴い十字架を通してわれらの借用書を破棄し，闇の始まりとその支配を打ち破られた。人を愛するわれらの治め主よ，どうか自ら。われら罪人からもこの感謝と和解の祈りを受け取りたまえ。われらを，あらゆる危険で闇に満ちた罪への堕落と，霊的な腐敗をもたらす目に見えまた目に見えぬ敵より救いたまえ。あなたへの畏れでわれらの体を貫き，われらの心を悪しき思いと行いにゆだねることをなさりたもうな。むしろわれらの霊を，あなたの御後へのあこがれで満たし，つねにあなたを見つめ，あなたより来たる光に導かれ，近づきがたき永遠の光を眼前に据え，休むことなき祈りをあなたに捧げることができるように。初めなき父，あなたとともに初めなきあなたの御一人子，いとも聖にして善性に満ち，っ生命を創るあなたの霊に，今もいつも世々とこしえに。アーメン」。
12．閉じの祈り（1時課参照）。

4）9時課

1．「われらの神は祝せられる，いにしえより，今もいつも世々とこしえに」「アーメン」

「常なる始め」～「聖なる神」「主の祈り」，「来たれ」（×3）

2．聖金曜日は詩篇58，139，85〔降誕祭は109，110，85：公現祭は92，113，85：ふだんは詩篇83，84，85：112，137，139〕。

「栄光は」「今も」「アレルヤ，アレルヤ，アレルヤ，神よあなたに栄光」（×3）「主よ憐れみたまえ」（×3）

「栄光は」

3．トロパール（第8調）「悪をなした者は，生命の主が十字架に掛けられたのを見てこう言う。〈もしわれらとともに十字架に懸けられている方が，肉を受けた神でないならば，太陽が自らの光を隠すことはなく，大地も微動だにすることはないだろう。われらすべてのために苦しむ方，主よ，あなたが御国に来られるとき，わたしのことを想い起こしたまえ〉」。

「栄光は」「今も」

4．神の母賛歌（第8調）「われらのために処女より生まれ，十字架を忍ばれた善き方，死をもって死を打ち滅ぼし，神として復活を遂げた方よ，あなたの御手の業を蔑ろになしたもうな。むしろ，おお恵み深き方よ，人へのあなたの愛を示し，われらのために執り成す神の母に耳を傾け，罪深き人類を救いたまえ，救い主よ」。

5．スティヒラ（第6調）「天と地の創造者が十字架に掛かるのを見るのは怖ろしきこと。太陽は闇と化し，昼は夜と代わった。そして大地はその胎より死者の体を解放する。彼ら死者たちとともにわれらはあなたに願う，〈われらを救いたまえ〉と」。

先句「彼らは自分たちの間でわが外衣を分かち，わが衣のために籤を引いた」。

○「悪をなす者どもが，栄光の主を十字架に釘付けにすると，主は彼らに向かってこう言う。〈わたしが何ゆえにあなた方を傷つけたというのか。わたしが何ゆえにあなた方を怒らせたというのか。わたしはあなた方を心労から救ったではないか。なのに今，何ゆえにあなた方は，わたしがなした善に対して感謝を表さないのか。あなた方は火の柱に代えてわたしを十字架に釘付けとし，光り輝く雲に代えて墓の闇に閉じ込め，マンナに代えてわたしに苦汁を与え，ほとばしる水に代えて酢を与える。しかしわたしは，わたしとわが父，聖霊を讃美するであろう民を呼び招こう〉」。

先句「彼らはわたしに食物として苦汁を与えた。そしてわが悲しみのうちに，わたしに酢を飲ませた」。
○「悪をなす者どもが，栄光の主を」
「栄光は」
○「大地を水に掛けた方が，きょう，木に懸けられる。天使たちの王が，茨の冠をかぶせられる。天を雲で覆った方が，血の色をした外衣をまとう。ヨルダン川でアーダームの罪を洗い流した方が，鞭打ちに処せられる。母なる聖教会の救いの許婚者が，無残にも釘で打ち付けられる。おとめの御子がやりで貫かれる。イエスよ，あなたの受難を目にして，われらは膝をかがめる。イエスよ，あなたの受難を目にして，われらは膝をかがめる。われらを，あなたの栄えある復活にも適う者となさしめたまえ」。
「今も」
○「大地を水に掛けた方が，きょう」。
6．「謹んで聴こう」
プロキメン（第6調）「愚かしき者は，心のうちにつぶやく。〈神はいない〉」。
「叡智！」「エレミヤ書の朗読」「謹んで聴こう！」　パリミア(エレミヤ書11.18-23：12．1－5：9－11：14-15)
同様に　使徒書朗読（ヘブル書10.19-31）
　福音書朗読（ヨハネ19.23-37）……1時課を参照。
○詩篇読誦部「われらは願う，あなたの名において，どうかわれらをとこしえに見棄てたもうな。あなたの契約を打ち棄てたもうな。われらからあなたの憐れみを取り去りたもうな，あなたが愛されたアブラハムのゆえに，あなたのしもべイサクのゆえに，そしてあなたの聖なるイスラエルのゆえに」。
8．「聖なる神」～「主の祈り」
9．コンターク（第8調：アタナーズ本）「われらのために十字架に懸けられた救い主を，来たれ，われらみなで歌おう。マーリアは彼を十字架上に見て，こうつぶやいた。〈十字架に付けられて苦しみに遭おうとも，あなたはわが子，わが神！〉」
10.「主よ憐れみたまえ」（×40）
「いついかなる時も」。「アーメン」。
「主よ憐れみたまえ」（×3）「栄光は」「今も」「ケルビムよりも」
「主の名によりて，神父よ，祝福を与えたまえ」
司祭「神がわれらを憐れみ，われらを祝福し，われらの上に御顔の光を輝かせ，

われらを憐れんでくださるように」「アーメン」。
11. 聖バジルの祈り「治め主にしてわれらの神なるイエス・キリストよ，あなたはわれらの罪に対して忍耐強くあられ，われらがこの時，あなたに近づくことを許された。この時，あなたは生命を与える十字架に懸かられ，回心した悪人に，楽園に入る道を開き，死をもって死に打ち勝たれた。われら，罪人にして相応しからざるあなたのしもべらに対しても憐れみ深くありたまえ。われらは罪を犯し，あなたの掟を破った。われらは，両の目を挙げて天の高みを見つめる価値を持たない。われらはあなたの真理の道を離れ，心の傾きに従ってしまった。さらに，喩えようもなきあなたの善性に依り頼む。われらの主よ，あなたの大いなる憐れみの豊かさにより，われらに恵みを注ぎたまえ。そして聖なるあなたの名によってわれらを保ちたまえ，われらの日々は過ちに満ちたるがゆえに。われらを敵の手より守り，われらの罪をぬぐい，肉の思いを滅ぼしたまえ。われらが人の思いを打ち棄て，新たな衣をまとい，治め主また善性に満ちた方であるあなたに従って生き，それによってあなたの命に仕え，救われたすべての者たちが住まう，かの永遠なる安らいに至ることができるように。あなたは，あなたを愛する者たちすべてにとって，真なる歓喜にして喜び。われらの神キリストよ，われらはあなたに，初めなき御父とともに，讃美を歌う，生命を創るあなたの聖霊とともに，今もいつも世々とこしえに」。「アーメン」。
12. 閉じの祈り（1時課参照）。
～「主の名は今より世々とこしえに到るまで讃えられよ」（聖金曜日はなし）

5）昼の奉神礼

○「幸いなる者」
「われらの主よ，あなたが御国に来られるとき，われらのことを想い起こしたまえ。霊において貧しき者たちは幸い，天国は彼らのもの。柔和な者たちは幸い，彼らは地を受け継ぐ。泣く者たちは幸い，彼らは慰められる。真理に飢え渇く者たち幸い，彼らは満たされる。憐れみ深き者たちは幸い，彼らは憐れみを受ける。心の清い者たちは幸い，彼らは神を見る。平和をもたらす者たちは幸い，彼らは神の子らと呼ばれる。真理のために迫害を受ける者たちは幸い，天国は彼らのもの。あなた方が罵られ迫害され偽証されて，わたしのためにあなた方があらゆる悪口を浴びせられるとき，あなた方は幸いである。喜び踊れ，あなた方が天において受ける報いは計り知れない」。「栄光は」「今も」。
「主よ，あなたが御国に来られるとき，わたしのことを思い起こしたまえ。治

め主よ，あなたが御国に来られるとき，わたしのことを思い起こしたまえ。聖なる方よ，あなたが御国に来られるとき，わたしのことを思い起こしたまえ」。
「天の軍勢はあなたを歌い，こう述べる。〈聖なるかな，聖なるかな，聖なるかな，万軍の主，天と地はあなたの栄光に満つ〉」。
挿句「あなた方は彼に近づき，照らされるがよい。あなたがたの顔は，辱められることはない」。
「天の軍勢はあなたを歌い」。
「栄光は」
「聖なる天使たち，大天使たちの群れは，すべての天の諸力とともにあなたのことを歌い，讃美してこう述べる。〈聖なるかな，聖なるかな，聖なるかな，万軍の主，天と地はあなたの栄光に満つ〉」。
「今も」
使徒信条。
「わが神よ，拭い，遠ざけ，赦したまえ，あらゆる意図してのまた意図せずになしたわが罪を。言葉，行い，思いあるいは好奇心から，知りつつあるいは知らずに，夜にまた昼に犯した過ちを。善性に満ち人を愛する方として，これらすべてに関してわたしを赦したまえ」。
「主の祈り」。
コンターク（第８調）「われらのために十字架に懸けられた救い主を，来たれ，われらみなで歌おう。マーリアは彼を十字架上に見て，こうつぶやいた。〈十字架に付けられて苦しみに遭おうとも，あなたはわが子，わが神！〉」
「主よ憐れみたまえ」（×40）「栄光は」「今も」「ケルビムよりも」
「主の名によりて，神父よ，祝福を与えたまえ」
司祭「いとも聖なる聖三位一体よ，一なる力にして分かちがたき王性よ，あらゆる善の泉，いま，罪人なれどもこのわたくしに対して恵み深くあらせたまえ。わが心を浄め，知解しうるものとなしたまえ。わたくしよりあらゆる咎を洗いたまえ。わが知性を照らし，止むことなくあなたを讃美し，歌い，崇め，こう語れるように。〈聖なる方はただ一人，主はただ一人，イエス・キリスト，父なる神の栄光のために〉」。「アーメン」。
「主の名は今よりとこしえに祝されよ」（× 3）
詩篇第33篇（11節まで）
「いとも似つかわしきことかな，神の母よ，あなたを讃えることは。幸いなる方にして染みなく，われらの神の母となられたあなたを。ケルビムより浄らか

にして，セラフィムよりも，たぐいようもなくあなたは讃め称えられる。あなたは神を，御言葉を，苦しみなくお産みになった。真なる神の母よ，われらはあなたを讃える」。
司祭「あなたに栄光あれ，キリスト・われらの神よ，われらの希望よ，あなたに栄光あれ」
信徒「栄光は」「今も」「主よ，憐れみたまえ」（×３）「主よ，祝福を与えたまえ」
司祭「キリスト，真なるわれらの神よ，〔あなたはわれら人類のため，またわれらの救いのために，恐るべき受難と，生命を与える十字架，自らなる埋葬を肉において受け取られた。〕いとも聖なる神の母，聖生にして神の息吹を受けたわれらの師父たち，そしてすべての聖人たちの執り成しを通じて，われらを憐れみ救いたまえ，善性に満ち人を愛する方として」。
信徒「アーメン」。
司祭「主の祝福が，その恵みと人への愛とともにあなた方にあらんことを。今もいつも世々とこしえに」。
信徒「アーメン」。

C　晩課

司教「われらの神は永遠に祝される，今もいつも世々とこしえに」 信徒「アーメン」「来たれ，われらの王，われらの神に祈ろう。来たれ，キリスト・われらの王，われらの神に祈ろう。来たれ，伏し拝もう，そしてイエス・キリストその方，われらの王，われらの主，われらの神に祈ろう」。
詩篇第103篇（ア２）
「アレルヤ」（×３）「神よ，あなたに栄光」。
大連祷（ア３）。
信徒「主よ，あなたに向かって」（ア６）。
―続いて第６句からの導句に続き，「スティヒラ」が歌われる（ア７；カティズマはなし）。

「主よあなたに向かって」の後のスティヒラ（ア７）
①「すべての被造物は，われらの救い主キリストよ，あなたが十字架に掛かるのを目にし，恐れゆえにその様を変える。太陽は雲に隠れ，大地の基礎は震撼する。万物の創り主の受難に，万物は与かろうと急ぐ。われらの主よ，自らわ

れらのために苦しまれた方，あなたに栄光！」×２．
②「悪しく神なき者らは，何ゆえに虚しきことどもをめぐって争い，何ゆえに生命の主を死に定めるのか？　おお，偉大なる奇跡よ！　世の創り主が罪人らの手に自らを委ね，人を愛する方は十字架につけられる。主はこれらすべてを被る，それは苦難によって黄泉の囚われ人を解放するため。おお，長きにわたって耐え忍ぶわれらの主よ，あなたに栄光！」。
先句「彼らはわたしに食物として苦汁を与え，わが渇きのおりに，わたしに酢を飲ませた」。
③「肉を取った神の御言葉よ，きょう染みなきおとめは，あなたが十字架に掛かるのを見た。すると母の胸を鋭い剣が貫き，彼女のいとも浄らかなる心に傷を与えた。彼女は霊の深みから痛みのうちにむせび泣き，振り乱した髪で泣き叫び，胸を打ちながら悲しみつつこう叫んだ。〈ああ，わが神の子よ！　ああ，世の光よ！　神の小羊よ，何ゆえにあなたはわが眼の前に降り立ったのか？〉。
　天使らも怖れつつあなたの受難に驚愕する。われらには収めきれぬ主よ，あなたに栄光！〉」。
④「われらの救い主よ！　あなたの母，染みなきおとめは，万物の創り主にして神なるあなたが十字架に掛かるのを目にして，激しくあえぐ。〈わが愛しき子よ，わが神よ！　あなたの眼差しの美しさはどこへ行ったのか？　わたしはあなたが不当にも死に苦しめられるのを見ようとも，痛みを覚えはしない。急ぎ，立ち上がりたまえ，死者の中からあなたが三日目に復活するのを，わたしが讃えられるように〉」。
⑤「きょう，被造物の主はピラトゥスの前に立ち，万物の創り主が，屠り場に引かれる小羊のごとく，十字架刑に処せられる。児らの意図により十字架に釘付けにされ，そのわき腹は貫かれる。マンナを地上に降らせた方が，海綿を口に含まされる。世の贖い主の顔は張り手打ちに遭い，万物の創り主が自らの弟子たちから嘲りを受ける。おお，崇高なる人間愛よ！　主はこのときにも自分を十字架に懸けた者らのため，こう父に祈る。〈この罪に関して彼らを赦したまえ。彼ら悪を働く者どもは，何と真理に反することを自分がしているかが分からないのです〉」。
「栄光は」
○「おお，律法に悖る評議会は，なにゆえに万物の王を死に定め得たのか？
彼の善行を目にして恥ずかしくはないのか？　彼の言葉はその善行に注意を向けさせた。〈わたしがあなたがたに何をしたというのか，わが民よ。わたしは

ユデアを奇跡で満ち溢れさせなかったというのか。わたしは死者を一言のもとに蘇らせなかったか。ありとあらゆる種類の痛みや病気を癒さなかったか。これらすべてに対し，あなたがたはわたしに，何をもって感謝するのか。何ゆえにあなたがたは，わたしの行為を想い起こさないのか。癒しに対しては傷をもって，生命に対しては死をもってわたしに報いるのか。あなたがたは，善行に対しては悪行のごとく，律法に適うことに対しては律法を破ることのごとく，万物の王に対しては奴隷のごとくに裁きを行い，十字架刑に処したのだ？〉。おお，長きにわたり耐え忍ぶわれらの主よ，あなたに栄光！」

「今も」

○「きょう，わが目の前で怖ろしく特別な神秘が起こった。触れられえない方が捕らえられ，アーダームを呪いの鎖から解放した方が捕縛された。心と気質を試みる方が，真実でない試みに晒され，計り知れぬ深淵を満たす方が土牢に閉じ込められた。その前で天の諸力が怖れに立ち尽くす方が，ピラトゥスの前に立たされた。創造主の顔を被造物が打ち，生ける者死せる者の裁き手が十字架の木に定められ，黄泉に対する勝利者が墓に収められる。あなたはこれらすべてを恵み深く耐え忍び，われらすべてを呪いから解放された。無実なるままに受難されたわれらの主よ，あなたに栄光！」。

司祭「叡智！　真なる信徒たちよ！」

信徒「神の穏やかなる光」（ア８）。

１．プロキメン第４調「彼らは自分たちの間でわが衣を分け合い，わが外套のためにくじを引く」。

挿句「わが神よ，わたしの神よ，わたしを顧みたまえ。何ゆえにわたしを見棄てられるのか」。

　出エジプト33.11-23

２．プロキメン第４調「主よ，わたしに悪をなす者らを裁き，わたしに対して戦いを挑む者らを打ち破りたまえ」（詩篇34．４）

挿句「武器と楯を取りたまえ，そしてわたしの救助に立ち上がりたまえ」。

　ヨブ42.12-17　イザヤ52.13-54

３．プロキメン第６調「わたしは深い淵に，闇と死の蔭のうちに沈められた」。

　１コリント１.18-２．２

挿句「あなたはわが解放の主，その神。世に昼を継いでわたしはあなたの前に叫びを挙げる」。

司祭「あなたに平和！」
第1調「神よ，わたしを解放したまえ。水はわが霊にまで達した」。「アレルヤ」（×3）
挿句「わたしは断食でわが霊を覆った。アレルヤ」「わが目よ，見ぬために闇に覆われるがよい。アレルヤ」。
「叡智！　真なる信徒たちよ！」信徒「あなたの受難に栄光あれ，われらが主よ，栄光あれ」
　マタイ27.1-38　ルカ23.29-43　マタイ27.39-54　ヨハネ19.31-37　マタイ27.55-61
—福音の後，信徒「長きに及ぶあなたの忍耐に栄光あれ，われらの主よ，栄光あれ」
「三重連祷」（ア10）の後，先句スティヒラに移る。

先句スティヒラ（ア13）
①「わが救い主なるイエスよ，あなたはわれらすべての生命。アリマテアのヨージェフは，絶命したあなたを十字架上より取り降ろすと，腐敗を知らぬあなたの体に芳香を放つ香油を塗り，亡骸を浄らかな亜麻布に包みつつ，心のうちに，いとも浄らかなるあなたの体に対し，罪あるその唇で接吻したいと願った。だが畏れゆえにそれを控え，喜びのうちにあなたに向かってこう叫んだ。〈人を愛する方よ，あなたの謙遜に栄光！〉」。
—先句は土曜夕刻用のものを用いる（復活を目前にして意味深い）「主は王，宝石の衣に身を包む」。
②「イエスよ，あなたはわれらすべてにとっての贖い主。あなたがわれらすべてのために，新しい墓に収められたとき，常に皮肉な笑いを浮かべる黄泉は，あなたを見るや震撼し，その錠鍵は砕け，門は破壊され，墓は開き，死者は起き上がった。するとアーダームは感謝に溢れ，喜びをもってこう叫んだ。〈人を愛する方よ，あなたの謙遜に栄光！〉」。
先句「主は大地の回転を確かなものとし，それは揺らぐことがない」。
③「神的本性によれば規定されえず，また把握されえない方，キリストよ，あなたは肉の上で自ら墓に収められたとき，死の蔵を破壊し，黄泉のあらゆる領域を無に帰せしめた。これによってこの土曜日をも，あなたは神的な祝福と栄光，そしてあなたの光の溢れに適うものとされた」。
先句「主よ，聖性はあなたの家にこそ相応しい。世々とこしえに」。

④「キリストよ，神を知らぬ者どもが偽証者として誹謗し，あなたの墓の墓石を，あなたのいとも聖なる脇腹をやりで貫いた手が封印しているのを見るや，天の諸力はあなたの言葉に尽せぬ長き忍耐に驚嘆しつつも，われらの救いに喜び，あなたにこう叫んだ。〈人を愛する方よ，あなたに栄光！〉」。

「栄光は」「今も」

「主よ，外衣をまとうかのごとくに光を帯びたあなたを，ヨージェフとニコデモは十字架の木から取り降ろし，あなたが裸で亡くなられ，埋葬もされないのを見て，激しく慟哭し，むせび泣きながらこう言った。〈ああ，わたしにとってもっとも甘美なるイエスよ！　ほんのわずか以前まであなたは十字架に掛けられていた。それを見た太陽は雲のうちに隠れ，大地は怖れゆえに震撼し，神殿の垂れ幕は真っ二つに裂けた。見よ，いまわたしはあなたのこの姿を，この目で見なければならない。あなたはわたしのために，死の暴政を蒙った方。わが神よ，わたしはあなたをどのように葬ればよいのか？　あるいは，どのような亜麻布で尊いあなたの体を包めばよいのか？　どのようにして，このわが両の手であなたのいとも浄らかなる手足に触れればよいのか？　そして恵み深き方よ，あなたの死去のために，どのような讃歌を歌うべきなのだろうか？〉わたしはあなたの受難を讃え，あなたの葬礼と復活とを讃美する。主よ，あなたに栄光！」。

テュピコン「スティヒラを歌う間に，司祭は祭壇に，亡きキリストの姿を描いた布を広げる。「主よ，いまあなたはわたくしを...」「聖なる神」以下の間に，司祭は布の像に香を振り，上の二つの角の内側で頭と背中を包み，下の部分は司祭の後に歩く助祭，ないしその教会共同体の誰か重要な成員が持つ。「主の祈り」の唱和の後，トロパールの開始とともに，行列が出発し聖堂の周囲を巡る。トロパールは必要に応じて度々繰り返す」。

「主よ，あなたはいま」（ア14）

「聖なる神」（×３）（ア15）

○トロパール「神を畏れるヨージェフは，あなたのいとも浄らかなる亡骸を十字架から取り降ろし，浄らかな亜麻布に包み，相応しき添え具を添え，新しき墓に葬った」

行列が聖堂に戻るとき

「栄光は」「今も」

○「油を携える女性たちを前に，墓に現れた天使はこう語った。〈油は死者に相応しい。キリストは虚無とは無縁なまま留まる〉」。

布を聖墳墓に置いた後

司祭「膝をかがめ，主に祈ろう」　信徒「主よ，憐れみたまえ」

○司教の祈り「治め主なるわれらの主，イエス・キリスト！　われらはあなたを，われらの贖い主として祝し，讃える。それは浄らかにして神的なる四旬節を満たすことに向け，われらに開かれた豊かなあなたの助けのゆえ。その断食の挙行のために，あなたは自らの規範を通してわれらを促し，その内実を，救いをもたらすわれらの回心のため，われらの霊と肉体の浄めのために，40日間にわたって取り決められた。尽きることのなきあなたの恵みのうちに，あなたはわれらに対し，四旬節の痛悔の道の中で，あなたの尊い十字架の像の前にぬかずき，その像に，相応しからざるわれらの唇を近づけることをもって，あなたを十字架に掛けられたわれらの神として讃え，接吻するように励まして下さる。

われらはあなたを祝し，ほめ讃える。あなたはわれらに，あなたの愛するラーザールの４日目の復活を目にし，あなたが荘厳にエルサレムへと入城するのを見ることを叶えてくださった。その入場のおり，棕櫚の枝を両手に持ち，あなたにホザンナと叫んだユダヤ人の子供たちに従うことをわれらは許された。」

われらはあなたを祝し，ほめ讃える。あなたはわれらに対し，あなたのいとも聖なる，救いをもたらす受難の奇跡に讃嘆することを叶え，同時にきょうの聖なる日，血を流す胸もてあなたの神的な十字架，槍，芦の鞭，酸い海綿，生命をもたらすあなたの死，聖なるあなたの脇腹の傷の前にぬかずくに値する者とされた。その脇腹からは，世の救いのために血と水とが流れ出た。そしてわれらは，痛む心もて十字架からの降下と，肉体上の墓への葬りとの証人となることが叶えられた。

われらはあなたを祝し，われらを贖う神よ，あなたをほめ讃える。われらはあなたが，その恵み深さのゆえに，あなたの復活の輝かしき記念を寿ぐことができるという，幸いな希望のゆえ。この喜びに満たされ，われらはあなたを，大天使，天使，ケルビム，セラフィム，すべての天の諸力と聖人，とりわけあなたの染みなき母，神の母なるおとめとともに，讃美しほめたたえる。いま，救いをもたらすあなたの死と葬りをたたえつつ，あなたの聖なる墓の前で，深く身をへりくだらせつつぬかずき，聖なる幕屋に集うあなたのしもべたちのために，祈りをもってこいねがう。恵み深くわれらの回心，祈り，断食，涙，あえぎとひざまずきを受け取りたまえ。これらは，，われらの心の痛悔と，われらの霊のへりくだりのうちに，われらが罪の赦しを求めてあなたに献げるもの。

恵み深くわれらの告白と，罪の痛悔とを受け取りたまえ。あなたは税吏のへりくだりをもっての祈願を受け入れられた。どうかあなたの三日目なる復活のゆえに，意図してまた意図せずしてわれらが犯した罪をことごとく赦したまえ。御足を涙の波で濡らした罪深い女を赦されたように，われらをも浄めたまえ。またざると，；のために，あなたを否み，のちに罪を上回る苦い涙のうちに悔いたペーテルをあなたが受け入れられたように，われらをも受け入れたまえ。われらの心にあなたへの畏れを注ぎ，まったき心をもってあなたを尊び崇めさせたまえ。そしてこの後，浄らかならざる悪しき行いに戻ることなく，むしろあなたの掟を生涯のすべての日々にわたって守り，あなたの意向にしたがって歩むことができるよう，叶えたまえ。さらにわれらをして，断罪を受けることなく，いとも聖なるあなたの体と尊い血に与かるに相応しき者とさせたまえ。その与かりによって，三日目なるあなたの復活と，すべての聖人たちとともなる天の御国にもわれらが相応しき者となれるように。あなたは憐れみと救いの神，われらはあなたに讃美，感謝，敬愛と崇拝とを捧げる。始めなきあなたの父，いとも浄らかにして善性に満ち，生命を与えるあなたの霊とともに，今もいつも，世々とこしえに至るまで」。
信徒　「アーメン」。

助祭「叡智！」～　信徒「主よ，祝福を与えたまえ」　司教「キリスト，真なるわれらの神よ，あなたはわれら人類のため，またわれらの救いのために，恐るべき受難と，生命を与える十字架，自らなる埋葬を肉において受け取られた。いとも聖なる神の母，聖生にして神の息吹を受けたわれらの師父たち，そしてすべての聖人たちの執り成しを通じて，われらを憐れみ救いたまえ，善性に満ち人を愛する方として」。　信徒「アーメン」　司祭「主の祝福が，その恵みと人への愛とともにあなた方にあらんことを。今もいつも世々とこしえに」。
信徒「アーメン」。

D　小終課

序にも記したように，「小終課」はこの受難の金曜日の晩のものが，一年に一度，司教座聖堂で信徒を交えたかたちでなされる。
―「常なる始め」
詩篇50篇，詩篇69篇，詩篇142篇
小栄唱（ウ32）

使徒信条（エ21参照）

テュピコン：「聖金曜日・小終課のカーノンは〈乾いた土地を〉（第6調の「復活カーノンのイルモス」と同一）。第6歌の後のコンタークとイコスは，受難の朝課のものを取る（〈われらのために十字架に掛かった救い主を〉）。「似つかわしきかな」の代わりには第9イルモスを繰り返す。「聖なる神」の後はコンターク〈われらのために...〉。他は規定どおり，死者のための記憶はない。夜半課でのトロパールは「神を畏れるヨージェフは」。コンタークは〈われらのために...〉。それ以外は通常の土曜日用の規定に従う」。

カーノン：

1「乾いた土地を進むかのごとくに，イスラエルは海を進んだ。そしてファラオが溺れるのを目にしてこう叫んだ。〈われらは神に，勝利の歌を歌おう！〉」。

3「主よ，わが神よ！　あなたのごとく聖なる方はいない。あなたは信ずる者たちの力を高め，あなたに置いた信によって，われらを力づけて下さる」

4「〈キリストこそわが力，主よ，わが神よ！〉　浄らかなる教会は，祈りをもってこう叫ぶ，喜びの心で主を讃えつつ」。

5「神なるあなたの光により，おお善き方よ，あなたに目覚める者たちの霊を，愛で照らしたまえ。神の御言葉よ，あなたを真なる神として知ることができるように。あなたは罪の闇からわれらを救い出す方」。

6「生の海が，誘惑の嵐に荒れ狂うのを見て，あなたの静穏なる波止場に逃れる者たちは，あなたに向かって叫びを挙げる。〈おお憐れみ深き方よ，わが命を破滅より救い出したまえ！〉」。

コンターク（第8調）「われらのために十字架に懸けられた救い主を，来たれ，われらみなで歌おう。マーリアは彼を十字架上に見て，こうつぶやいた。〈十字架に付けられて苦しみに遭おうとも，あなたはわが子，わが神！〉」

イコス（第8調）「雌羊は，自らの小羊が屠られるために引かれてゆくのを見ると，マリアは，他の女性たちとともに髪を振り乱してあとを追い，こう叫んだ。〈わが子よ，どこへ行くのですか？　その大変な急ぎようは誰のためなのですか。おそらく別の婚姻の祝宴がガリレアのカナに用意されていて，水をぶどう酒に変えるために，そこへ急ぐのですか？　わが子よ，あなたとともにわたしも行きましょうか？　もしくはここであなたを待ちましょうか？　ひとことわたしに言って下さい。おお御言葉よ，言葉もなくわたしの傍らを通り過ぎ

ないで下さい。あなたはわたしを，浄らかさのうちに力づけた。あなたはわたしの子，わたしの神！〉」。

7「神を畏れる若者らの燃え盛るかまどを，天使は露を滴らせるものとした。一方神の命は，カルデア人たちに火を燃え移らせた。このことを知った暴君は，こう叫んだ。〈イスラエルの神よ，あなたは祝された方！〉」
「われらは主を讃え，祝し，崇め，主を歌い，世々とこしえに主を誉め歌う」。
8「炎の間にいる聖なる若者らに，あなたはしずくを滴らせ，正しき者のいけにえを，水とともに燃え上がらせた。キリストよ，あなたはすべてをあなたの望みのままに為すことができる。それゆえわれらはあなたをとこしえに讃える」。
9「人間には神を見ることは叶わず，天使の群れはあえて神に目を向けようとはしない。しかし浄らかなる方よ，あなたを通して肉を取った御言葉はわれらに現れた。われらは天の軍勢とともにこの御言葉を讃えつつ，あなたを讃美する」。

「人間には神を見ることは叶わず，天使の群れはあえて神に目を向けようとはしない。しかし浄らかなる方よ，あなたを通して肉を取った御言葉はわれらに現れた。われらは天の軍勢とともにこの御言葉を讃えつつ，あなたを讃美する」。
「聖なる神」「主の祈り」
コンターク（第8調）「われらのために十字架に懸けられた救い主を，来たれ，われらみなで歌おう。マーリアは彼を十字架上に見て，こうつぶやいた。〈十字架に付けられて苦しみに遭おうとも，あなたはわが子，わが神！〉」
「主よ憐れみたまえ」（×40）

○「いついかなる時も，天にあっても地においても，あなたは崇められ讃えられるべき方，善き方にして忍耐強く，憐れみに満ちたわれらの神よ。あなたは真理を愛し，罪びとを憐れみ，来たるべき善きことの約束を通してすべての者を救いに導かれる。あなたはわれらの主，その方！　今このとき，われらの祈りをも聞き入れ，あなたの善性を通してわれらの生を導き，あなたの掟を固く守らせたまえ。われらの霊を聖化し肉を浄め，思いを導き，われらの理解を知的で穏便なるものとなし，われらをあらゆる心労，悲嘆，痛み，霊的苦悩から救いたまえ。聖なるあなたの天使たちとともにわれらを覆い，その庇護の下に

強め，彼らを通して諭し，われらが信の一致と近づきがたきあなたの栄光の理解へと導かれるように。あなたはとこしえに祝された方」。「アーメン」。
「主よ憐れみたまえ」×3，「栄光は」「今も」「ケルビムよりも尊く」「主の名によりて，神父よ，祝福を与えたまえ」司祭「神よ，われらを憐れみ，われらを祝し，われらの上に御顔を輝かせ，われらを憐れみたまえ」「アーメン」。
○いとも聖なる神の母に向けた修道士パール・エウエルゲテスの祈り：
「染みなく，苦悩と腐敗を知らず，浄らかにして汚されぬおとめ，神の許嫁，われらの偉大なる婦人よ，あなたは神の御言葉を超自然的な出産により，人間と一体化させ，われらの種の倒れていた本性を天上的なものとの結合へともたらした。あなたは絶望に陥った者の希望，迫害を蒙る者の助け手，あなたに訴える者の快き執り成し手，あらゆるキリスト者の逃れ場。どうか，罪人にして不浄な人間なるわたくしを忌み嫌いたもうな。わたくしは悪しき思い，言葉，行いにより，キリスト者すべてに対して自らを相応しからざるものとし，愚かな行動のよって生の快楽の囚われ人となった。しかし人を愛する神の母として，どうかあなたの人間愛を通じてわたしを憐れみたまえ。わたしは腐敗した生を送る罪びと。そしてこの穢れたわが唇があなたに捧げる懇願を受け入れ，われらの主なるあなたの御子に祈りたまえ。主に対し，あなたは母としての確信により近づくことができる。そしてどうか，わたしのためにも，善意に発し人を愛する憐れみを垂れ，数え切れぬわが罪を見逃し，赦しへと導き，主の掟に真に従う者となさしめたまえ。

どうか，恵み深く憐れみに満ち，善を好む方として，つねにわが傍らに立ちたまえ。あなたは生涯においてわれらの厚き守護者にして助け手。あなたは敵の抗いに遭ってもわれらをかばい，救いへと導かれる。あなたはわれらの死のときにも，逡巡するわが霊をあなたの祭壇へと導き，そこから悪しき思いの闇の悪夢を取り去ってくださる。裁きの怖ろしき日に，永遠の断罪から守り，われらの神なるあなたの御子の，言葉に尽くしがたい栄光の継承者としてわたしを示したまえ。

わが偉大なる婦人，万物のかなたに座す聖なる神の母よ，どうかわたしにおいて，これらのことを叶えさせたまえ。あなたの執り成しと守護を通じ，あなたの御ひとりご，われらの主にして神，救い主なるイエス・キリストの恵みと人間愛によって，主にこそすべての栄光，敬愛，崇敬は相応しい。その初めなき父，生命を創る善き聖霊とともに，今もいつも世々とこしえに至るまで。アーメン」。

○われらの主イエス・キリストに向けた修道士パンデクトス・アンティオコスの祈り：

「そして，われらの治め主よ，いまや眠りに就こうとするわれらに，肉体的および霊的な安らぎを与えたまえ。われらを，罪の闇の眠りと，夜のあらゆる汚らわしき肉の想いから守りたまえ。われらの苦しみによる心痛を散らし，われらの敵が欺きをもって撒き散らす悪の燃えるような矢を消したまえ。われらより，すべての肉なる欲望を遠ざけ，この世の質料的な思いを鎮めさせたまえ。われらの神よ，われらに注意深き知性と，健全なる思考，静穏なる心を与え，悪魔のもたらすあらゆる妄想より救い，安らかなる眠りを送りたまえ。そしてわれらをして，祈りの時には目を覚まさせ，あなたの掟のうちにわれらが強められ，あなたの裁きの記憶をつねにわれらが心に抱くことができるように。われらを夜半の讃美にも適わしきものとなさしめたまえ。すべてに勝るあなたの敬愛すべき，いと高き名を，われらが歌い，祝し，讃えることができるように。父と子と聖霊よ，今もいつも世々とこしえに至るまで。アーメン」。

「栄光ある神の母，常世におとめなるマーリア，われらの神なるキリストの母よ，われらの祈りを聞き，この祈りを，われらの神なるあなたの御子に届けたまえ。〈われらを照らし，あなたのゆえにわれらの霊を救いたまえ〉と！」

「父なる神こそわが信，子なる神こそわが逃れ場，聖霊なる神こそわが守り。聖三位一体にして一なるわれらの神，あなたに栄光！」。

「われらの神なるキリスト，あなたに栄光，われらの希望よ，あなたに栄光！」

「栄光は」「今も」「主よ憐れみたまえ」（×３）「主よ，祝福を与えたまえ！」

司祭「キリスト，真なるわれらの神よ，あなたは世の救いのために，唾を吐きかけられ，傷を帯び，頬を打たれ，十字架にかけられ，死を受け入れられた（金曜前晩夜半課～木曜晩の金曜朝課，王の時課）。あなたはわれら人類のため，またわれらの救いのために，肉の上で自ら墓に収められ黄泉に降られた（聖金曜小終課～復活直前の夜半課）。いとも聖なる神の母，聖生にして神の息吹を受けたわれらの師父たち，そしてすべての聖人たちの執り成しを通じて，われらを憐れみ救いたまえ，善性に満ち人を愛する方として」。

信徒「アーメン」

司祭「主の祝福が，その恵みと人への愛とともにあなた方にあらんことを。今もいつも世々とこしえに」。　信徒「アーメン」。

E　夜半課

序にも記したように，「夜半課」は，一年を通じて司教座聖堂で執り行われることはないが，「夜半課」を聖金曜日のテキストに沿ってここに挿入し，紹介することとした。すなわち，聖金曜日に限って夜半課が司教座聖堂で行われるというわけではない。

常なる始め（ア１参照）

詩篇50篇

詩篇第64-66；67-69編〔第９カティズマ；ア４参照〕

各々の終わりに「栄光は」「今も」，アレルヤ（×３），「神よ，栄光はあなたに」（それぞれにはアレルヤあり），末尾は「栄光は」「今も」，（アレルヤなし）

使徒信条（エ21参照）

「聖なる神」（×３）（ウ33など）。「主の祈り」　司祭「国と力と栄光は，父と子と聖霊よ，あなたのもの，今もいつも世々とこしえに」　信徒「アーメン」。

○トロパール「神を畏れるヨージェフは，あなたのいとも浄らかなる御身を外し，浄らかなる布にくるみ，芳しき香料を施したのち，新しい墓に置いた」（聖金曜日の場合）。

～通常は○トロパール「見よ，花婿は真夜中にやって来る。目覚めて待つしもべは幸い。見出されて恥じ入る者は相応しくないしもべ。おおわが霊よ，目覚めよ。そして襲い来る眠気に自らを託すなかれ。死に定められて天国から締め出されぬように。むしろ目を覚まし，叫ぶがよい。〈聖なるかな，神よ，聖なるかな，聖なるかなあなたは！〉。神の母のため，われらを憐れみたまえ」。

「栄光は」「今も」

○コンターク「われらのために十字架に懸けられた救い主を，来たれ，われらみなで歌おう。マーリアは彼を十字架上に見て，こうつぶやいた。〈十字架に付けられて苦しみに遭おうとも，あなたはわが子，わが神！〉」（聖金曜日）。

「主よ憐れみたまえ」×40。

司祭「いついかなる時も」。「アーメン」。

「主よ憐れみたまえ」×３，「栄光は」「今も」

「ケルビムよりも尊く」「主の名によりて，神父よ，祝福を与えたまえ」司祭「神よ，われらを憐れみ，われらを祝し，われらの上に御顔を輝かせ，われらを憐れみたまえ」「アーメン」。

○大殉教者聖エウストラトスの祈り〔通常は土曜日に使用〕：

「主よ，わたしはあなたを崇め，讃美する。あなたはわたしの謙遜を見そなわ

し，わたしが敵の手に落ちることを許さなかった。そればかりでなく，わが霊を絶望から解き放ちまでして下さった。わが治め主よ，今このときにも，あなたの御手が守り，わたしの上にあなたの恩寵の降り注がんことを。わが霊は悩みのうちにあり，この頑なで不定なる肉は，一挙手一投足に際して苛まれる。どうかわたしが，敵勢の悪しきはかりごとに動揺せぬよう，そしてわが生涯における意図してのまた意図せざる過ちのゆえに，わたしが闇に沈むことのないようにさせたまえ。わが治め主よ，わたしに対して憐れみ深くあらせたまえ。そしてわが霊が，邪なる悪魔による敵意に満ちた嘲笑に注意を払わぬよう，むしろ光に輝ける天使たちに保護されるよう，計らいたまえ。聖なるあなたの名に栄光を付与し，あなたの力もて神的なる裁きの座の前へと導かせたまえ。そしてあなたが裁く間，世の君主の手に陥り罪ある者として黄泉の深みへと追放されるようなことなく，むしろわが傍らに立ち，わが救い主また守り手とならせ給え。主よ，生涯にわたる苦難により渇いたわが霊を憐れみ，罪の痛悔をとおして浄め，告白を受け取りたまえ。あなたは世々とこしえに祝された方」。
「アーメン」。
「来たれ，われらの王，われらの神に祈ろう。来たれ，キリスト・われらの王，われらの神に祈ろう。来たれ，伏し拝もう，そしてイエス・キリストその方，われらの王，われらの主，われらの神に祈ろう」。

～〔以下第２部〕
詩篇120編，詩篇133編。「栄光は」「今も」「聖三位一体よ，われらを憐れみたまえ。われらの主よ，われらを罪から浄めたまえ。創造主よ，われらの罪を赦したまえ。聖なる者よ，われらを顧み，あなたの名によってわれらの病を癒したまえ」。「主よ，憐れみたまえ」（×３）。「栄光は」「今も」「主の祈り」　司祭「国と力と栄光は，父と子と聖霊よ，あなたのもの，今もいつも世々とこしえに」「アーメン」。
「われらの主よ，善き方として，あなたのしもべらのことを心に留めたまえ。そして彼らがその生涯のうちに犯した罪について，彼らを赦したまえ。あなたを除いては，誰ひとり罪を免れることはできず，あなたはすでに世を去った者たちにも安らぎを与える方なれば」。「深遠なる智慧をもって万物をみそなわす，唯一なるわれらの創造主よ，あなたは有用なるものを，人を愛する方として，われらすべてにお与えになる。亡くなったあなたのしもべらの霊魂を安らわせたまえ。なぜなら，われらの創り主よ，彼らはその信頼を，われらの主にして

神なるあなたのうちに置いていたのだから」。
「栄光は」。
「キリストよ，あなたのな聖なる者たちとともに，あなたのしもべらの霊魂を安らわせたまえ。苦しみも，怒りも，嘆きもなく，ただ終わりなき生命のある場所に」。
「今も」。
「われら，すべての民は，神の母なるおとめよ，あなたを讃える。なぜなら人には容れることの不可能な神なるキリストが，憐れみ深くもあなたのうちに場を占めることを諾われたのだから。われらもまたいとも幸い，あなたはわれらの仲介者，あなたは夜に日を継いでわれらのために執り成す方。あなたの祈りは国々の力を強める。それゆえわれらは感謝をもってあなたにこう叫ぶ。〈祝された方，恩寵に満たされたおとめよ，主はあなたとともにおられる！〉」。
「主よ憐れみたまえ」（×12）
○死者のための祈り（通常時）：司祭「主よ，永遠なる生命に向けての復活への希望のうちに亡くなったわれらの父祖，兄弟，そして敬虔と篤信のうちにこの世を生きたすべての人々を心に留めたまえ。そして彼らによる，意図してのあるいは意図せざる罪を赦したまえ。彼らを光の場，歓喜の地へと，あらゆる苦しみ，心痛，嘆きとは無縁なる場所へと移させたまえ。そこでは，あなたの御顔を仰げることが，すべての聖なる者たちを永遠の昔から悦ばせてきた。彼にあなたの御国を与え，彼らをして，言葉に尽せぬあなたの永遠の善きもの享受者，そして終わりなき永遠の生命の与かり手となさせたまえ。われらの神なるキリストよ，あなたは，亡くなったあなたのしもべの復活，生命，そして安らい。われらはあなたに向け栄光を歌う。初めなきあなたの父，いとも美しく，善性に満ち，生命を創造するあなたの霊とともに，今もいつも世々とこしえに。アーメン」。
「わが神よ，わが意図してまた意図せずしての罪を拭い去り，遠ざけ，赦したまえ。それらは言葉，行い，思い，ないし欲望により，自ら知ってないし知らずして，夜にまた昼に犯せしもの。善き方また人を愛する方として，これらすべてについてわたくしを赦したまえ」。
「人を愛するわれらの主よ，われらを憎みまた傷つける者たちを赦したまえ。われらに慈善を施す者たちに恵みを与え，われらの友人，親族，それに孤独にある人々に対しても，彼らの救いへの願いを聞き入れ，永遠の生命を与えたまえ。病に伏せる者たちをみそなわして癒し，囚われの身で憔悴する者たちを解

放したまえ。海を行く者たちの導き手，旅人たちの共連れとなりたまえ。真なる信のうちにわれらと信を同じくする囚われの兄弟たちを想い起こし，彼らをあらゆる悪しき攻撃から救いたまえ。主よ，われらに祈りを求めている者たちすべてを憐れみたまえ。主よ，われらに奉仕し，またわれらに憐れみをかける者たちすべてに憐れみを注ぎたまえ。彼らに対し，救いの願いを満たし，永遠の生命をもって恵みを賜りたまえ。主よ，すでに亡くなったわれらの師父，兄弟，真なる信と浄らかさのうちにこの世を去った者たちすべてを想い起こしたまえ。われらの主よ，われらの貧しさをも心に留めたまえ。われらの心をあなたの聖なる福音の光で照らし，あなたの掟を歩む道へと導きたまえ。あなたの浄らかなる母，すべての聖なる者たちの祈りを通して。アーメン」。（以上69頁の指示による）

「栄光ある神の母，常世におとめなるマーリア，われらの神なるキリストの母よ，われらの祈りを聞き，この祈りを，われらの神なるあなたの御子に届けたまえ。〈われらを照らし，あなたのゆえにわれらの霊を救いたまえ〉と！」

「父なる神こそわが信，子なる神こそわが逃れ場，聖霊なる神こそわが守り。聖三位一体にして一なるわれらの神，あなたに栄光！」。

「われらの神なるキリスト，あなたに栄光，われらの希望よ，あなたに栄光！」

「栄光は」「今も」「主よ憐れみたまえ」（×3）「主よ，祝福を与えたまえ！」

「キリスト，真なるわれらの神，いとも聖なるあなたの母の祈りを通じて，またすべての聖人たちの執り成しを通して，善き方また人を愛する方として，われらを憐れみ救いたまえ」「アーメン」。「主の祝福が，その恵みと人への愛とともに，あなたがたの上にあらんことを。常に，今も，いつも世々とこしえに」「アーメン」。

Ⅳ　聖土曜日

A　朝課（「エルサレムの朝課」：聖墳墓前にて）

序に記したように，これは「エルサレムの朝課」とも呼ばれ，非常に古い初期キリスト教時代の典礼を留めるものである。

―司祭「聖にして一，生命を与え分かれざる三位一体に，変わることなく，今もいつも世々とこしえに栄光あれ」。

信徒「アーメン。いと高きところには神に栄光，地には平和，人には慈愛あれ。いと高きところには神に栄光，地には平和，人には慈愛あれ。いと高きところには神に栄光，地には平和，人には慈愛あれ。主よ，わが唇を開きたまえ，わ

が口はあなたの誉れを告げよう。主よ，わが唇を開きたまえ，わが口はあなたの誉れを告げよう」。
詩篇142編（ウ２）
「栄光は」「今も」「アレルヤ×３」「神よ，栄光はあなたに」。
「大連祷」（ウ３）
司祭「主は神」（ウ４）。―信徒はこの句を２度繰り返す。
○トロパール第２調「神を畏れるヨージェフは，あなたのいとも浄らかなる御身を外し，浄らかなる布にくるみ，芳しき香料を施したのち，新しい墓に収めた」。
「栄光は」
○トロパール第２調「死すことなき生命よ，あなたは死に降りられたとき，黄泉をあなたの神性の光で打ち砕かれた。そして死者たちを，その深みから蘇らせたとき，天のすべての力が喜びに叫んだ。〈われらの神，生命を与えるキリストよ，あなたに栄光あれ〉」。「今も」
○「油を携えた婦人たちの前で，墓に現れた天使はこう言った。〈油は死者に相応しい。キリストは腐敗とは無縁なままに留まる〉」。
～以下「エンコーミア」と呼ばれる死者のための祈祷がキリストの墓の前で歌われる。*テュピコン：「信徒たちは灯した蝋燭を手に，聖墳墓の前に並ぶ。司祭は墳墓に香を振り，固有の節でこう歌う」。*
〈第１スターツィオ〉
○トロパール第５調「生命を与えるキリストよ，われらはあなたを讃える。あなたはわれらのために葬られ，苦難を被った。そして死者たちを栄光のうちに生命へと呼び起こされた」。信徒はこれを繰り返す。
　～司祭は第17カティズマすなわち詩篇第118篇を一句ずつ歌う。第17カティズマは，平日の夜半課で唱えられるほか，20個あるカティズマを朝課で２ヶ，晩課で１ヶずつ唱えて一週間で一巡する年間システムでは，やや順序をずらす関係で，土曜朝課の２番目に配される。これは土曜晩課が主日前晩晩課に当たるこのシステムにあって，復活を迎える直前を意味する（ウ６参照）。
　「その道に責められるところなく，主の掟にしたがって歩む者は幸い」。
民「生命を与えるキリストよ，われらはあなたの受難を讃え，あなたの栄光ある葬りを讃美する」。
司祭「主の証しを確かめ，まったき心もて主をたずね求める者は幸い」。
民「生命を与えるキリストよ，われらはあなたを讃える。あなたはわれらのた

めに葬られ，苦難を被った。そして死者たちを栄光のうちに生命へと呼び起こされた」。
司祭「わたしはあなたに，直き心もて感謝を捧げる。わたしはあなたの真なる裁きを学んだ」。
民「生命を与えるキリストよ，われらはあなたの受難を讃え，あなたの栄光ある葬りを讃美する」。
司祭「わたしはあなたの言葉を，わが心のうちに隠す。あなたに反して罪を犯すことがないように」
民「生命を与えるキリストよ，われらはあなたを讃える。あなたはわれらのために葬られ，苦難を被った。そして死者たちを栄光のうちに生命へと呼び起こされた」。
司祭「わが目を開きたまえ，幾多の奇跡をあなたの掟のうちに想い起こすことができるように」。
民「生命を与えるキリストよ，われらはあなたの受難を讃え，あなたの栄光ある葬りを讃美する」。
司祭「わたしはこの地にあって新参者，わたしからあなたの掟を取り去りたもうな」。
民「生命を与えるキリストよ，われらはあなたを讃える。あなたはわれらのために葬られ，苦難を被った。そして死者たちを栄光のうちに生命へと呼び起こされた」。
司祭「わたしから恥と嘲りを取り除きたまえ，あなたの徴を求めるがゆえに」。
民「生命を与えるキリストよ，われらはあなたの受難を讃え，あなたの栄光ある葬りを讃美する」。
司祭「主よ，あなたの真理の道へとわたしを教え導きたまえ，わたしはつねにその道に従おう」。
民「生命を与えるキリストよ，われらはあなたを讃える。あなたはわれらのために葬られ，苦難を被った。そして死者たちを栄光のうちに生命へと呼び起こされた」。
司祭「あなたがしもべに対してなさった約束を思い起こしたまえ。その約束はわたしに希望を与えてくれた」。
民「生命を与えるキリストよ，われらはあなたの受難を讃え，あなたの栄光ある葬りを讃美する」。
司祭「その約束は失意にあってわたしを慰め，あなたの言葉はわたしに生命を

与えた」。
民「生命を与えるキリストよ，われらはあなたを讃える。あなたはわれらのために葬られ，苦難を被った。そして死者たちを栄光のうちに生命へと呼び起こされた」。
司祭「主よ，わたしは夜にあなたの名を思い起こし，あなたの掟を固く守る」。
民「生命を与えるキリストよ，われらはあなたの受難を讃え，あなたの栄光ある葬りを讃美する」。
司祭「主よ，大地はあなたの憐れみに満つ。わたしをあなたの真理に向けて教え導きたまえ」。
民「生命を与えるキリストよ，われらはあなたを讃える。あなたはわれらのために葬られ，苦難を被った。そして死者たちを栄光のうちに生命へと呼び起こされた」。
司祭「あなたがわたしを卑しめられたのは，わたしがあなたの真理を学び取るうえで，わたしにとって善きこと」。
民「生命を与えるキリストよ，われらはあなたの受難を讃え，あなたの栄光ある葬りを讃美する」。
司祭「栄光は」
民「万物の神としてわれらはあなたを歌う，御言葉よ，父また聖霊とともに。そしてあなたの葬りを讃える」。
司祭「今も」
民「浄らかなる神の母よ，われらはあなたを幸いなる方と呼び，群れをなしてあなたの御子の三日間に及ぶ葬りを寿ぐ。主はわれらの神なれば」。
民「生命を与えるキリストよ，われらはあなたを讃える。あなたはわれらのために葬られ，苦難を被った。そして死者たちを栄光のうちに生命へと呼び起こされた」。

小連祷　司祭の結句「権威，国，力そして栄光は，今もいつも世々とこしえに」
　信徒「アーメン」。

〈第2スターツィオ〉
トロパール「生命を与えるキリストよ，あなたを讃えることは相応しい。あなたは黄泉の門を廃し，悪魔の力を打ち砕いた」。
司祭「あなたの御手がわたしを創り，立てた。あなたの掟を学び尽せるように，

わたしに知解を授けたまえ」。
民「生命を与えるキリストよ，あなたを讃えることは相応しい。あなたは十字架上にその腕を拡げ，敵の力を無に帰さしめた」。
司祭「あなたの憐れみが，わたしの慰めとならんことを。あなたのしもべへの言葉に従って」。
民「生命を与えるキリストよ，あなたを讃えることは相応しい。あなたは黄泉の門を廃し，悪魔の力を打ち砕いた」。
司祭「わたしの心が，あなたの真理にあって染みなきものとならんことを。わたしが辱めを受けることのないように」。
民「生命を与えるキリストよ，あなたを讃えることは相応しい。あなたは十字架上にその腕を拡げ，敵の力を無に帰さしめた」。
司祭「わたしの霊は，あなたの救いを待ち望み，あなたの言葉により頼む」。
民「生命を与えるキリストよ，あなたを讃えることは相応しい。あなたは黄泉の門を廃し，悪魔の力を打ち砕いた」。
司祭「もしあなたの掟をわたしが観想しないのであれば，わたしは自らの卑しさのうちに，すでに自らを失っているであろう」。
民「生命を与えるキリストよ，あなたを讃えることは相応しい。あなたは十字架上にその腕を拡げ，敵の力を無に帰さしめた」。
司祭「わたしはとこしえにあなたの真理を忘れない。それらを通してあなたはわたしを生かされる」。
民「生命を与えるキリストよ，あなたを讃えることは相応しい。あなたは黄泉の門を廃し，悪魔の力を打ち砕いた」。
司祭「わたしはあなたのもの，わたしを解放したまえ，わたしはあなたの真理を捜し求める」。
民「生命を与えるキリストよ，あなたを讃えることは相応しい。あなたは十字架上にその腕を拡げ，敵の力を無に帰さしめた」。
司祭「罪ある者らがわたしを待ち伏せする，わたしを亡きものにしようと企んで。だがわたしはあなたの真理のうちに耳を澄ます」。
民「生命を与えるキリストよ，あなたを讃えることは相応しい。あなたは黄泉の門を廃し，悪魔の力を打ち砕いた」。
司祭「いかなる完全な業にも終わりがあることをわたしは知った。しかしあなたの掟には限りがない」。
民「生命を与えるキリストよ，あなたを讃えることは相応しい。あなたは十字

架上にその腕を拡げ，敵の力を無に帰さしめた」。
司祭「わたしはいかなる悪の道に対しても，おのが足を向けることを禁ずる。あなたの掟を守るために」。
民「生命を与えるキリストよ，あなたを讃えることは相応しい。あなたは黄泉の門を廃し，悪魔の力を打ち砕いた」。
司祭「あなたへの畏れで，わが体を貫きたまえ。わたしはあなたの裁きを怖れる」。
民「生命を与えるキリストよ，あなたを讃えることは相応しい。あなたは十字架上にその腕を拡げ，敵の力を無に帰さしめた」。
司祭「主よ，今こそ行動を起こされるべき時。あなたの掟は蔑ろにされている」。
民「生命を与えるキリストよ，あなたを讃えることは相応しい。あなたは黄泉の門を廃し，悪魔の力を打ち砕いた」。
司祭「あなたの証しは驚嘆すべきもの，それゆえわが霊はその証しを確かめる」。
民「生命を与えるキリストよ，あなたを讃えることは相応しい。あなたは十字架上にその腕を拡げ，敵の力を無に帰さしめた」。
司祭「栄光は」
民「初めなき父よ，御父とともに一にして，永遠の生命を持つ御言葉，そして聖霊よ，真なる信もつ統治者たちの杓，善き方として，あなたの民を力づけたまえ」。
司祭「今も」
民「生命をお産みになった方，染みなく浄らかなるおとめよ，教会から不和を遠ざけ，善き方として平和を与えたまえ！」。
民「生命を与えるキリストよ，あなたを讃えることは相応しい。あなたは黄泉の門を廃し，悪魔の力を打ち砕いた」。

小連祷　司祭の結句：「あなたは聖にして栄光のケルビムの座に座し，われらはあなたに讃歌を歌う。初めなきあなたの御父と，いとも聖にして善性に満ち，生命を与えるあなたの霊とともに，今もいつも世々とこしえに」と，通常の朝課ともやや異なる。「アーメン」。

〈第3スターツィオ〉
○トロパール「おお憐れみ深き方よ，すべての民は，あなたの葬りを歌う」。

司祭「主よわたしを顧み，あなたの名を愛する者たちの裁きに従って，わたしを憐れみたまえ」。
民「キリストよ，永遠の生命であるあなたは墓に葬られ，天使らの群れは，あなたのへりくだりを目にして驚嘆する」。
司祭「あなたの言葉に従ってわたしの歩みを導きたまえ。わたしのうちに，いかなる過ちも支配せぬように」。
民「おお憐れみ深き方よ，すべての民は，あなたの葬りを歌う」。
司祭「人々の誹謗よりわたしを救いたまえ。あなたの掟を守れるように」。
民「キリストよ，永遠の生命であるあなたは墓に葬られ，天使らの群れは，あなたのへりくだりを目にして驚嘆する」。
司祭「あなたの御顔の光をあなたのしもべの上に輝かせ，わたしにあなたの真理を覚らせたまえ」。
民「おお憐れみ深き方よ，すべての民は，あなたの葬りを歌う」。
司祭「わたしはとるに足りず，軽蔑される者，しかしあなたの真理は忘れない」。
民「キリストよ，永遠の生命であるあなたは墓に葬られ，天使らの群れは，あなたのへりくだりを目にして驚嘆する」。
司祭「わたしの事績を裁き，わたしを解放したまえ。あなたの言葉に従ってわたしを生かしめたまえ」。
民「おお憐れみ深き方よ，すべての民は，あなたの葬りを歌う」。
司祭「わたしは日ごとに七度，あなたの真理をめぐり，あなたに讃美を語る」。
民「キリストよ，永遠の生命であるあなたは墓に葬られ，天使らの群れは，あなたのへりくだりを目にして驚嘆する」。
司祭「あなたの掟を愛する者には限りなき平安があり，彼らがつまづくことはない」。
民「おお憐れみ深き方よ，すべての民は，あなたの葬りを歌う」。
司祭「わが願いがあなたの御顔の前に届かんことを。あなたの言葉に従ってわたしを救いたまえ」。
民「キリストよ，永遠の生命であるあなたは墓に葬られ，天使らの群れは，あなたのへりくだりを目にして驚嘆する」。
司祭「わが唇は讃美に溢れるであろう，わたしをあなたの真理に向けてあなたが教え導かれるときに」。
民「おお憐れみ深き方よ，すべての民は，あなたの葬りを歌う」。
司祭「あなたの御手がわたしを解放してくださらんことを。わたしはあなたの

掟を選び取った」。
民「キリストよ，永遠の生命であるあなたは墓に葬られ，天使らの群れは，あなたのへりくだりを目にして驚嘆する」。
司祭「わたしの霊は生き，あなたを讃える。そしてあなたの裁きはわたしを助ける」。
民「おお憐れみ深き方よ，すべての民は，あなたの葬りを歌う」。
司祭「わたしは見失われた小羊のごとく，さまよっている。どうかあなたのしもべを捜し求めたまえ。わたしはあなたの掟を忘れない」。
民「キリストよ，永遠の生命であるあなたは墓に葬られ，天使らの群れは，あなたのへりくだりを目にして驚嘆する」。
司祭「栄光は」
民「三位一体の一なる神，父と子と聖霊よ，この世を憐れみたまえ」。
司祭「今も」
民「神の母なるおとめよ，われらをして，あなたの御子の復活を目にすることに適う者となさしめたまえ」。
民「おお憐れみ深き方よ，すべての民は，あなたの葬りを歌う」。

復活讃歌（通常には主日に歌われるもの：ウ10）：
（先句）「主よ，あなたは祝された方，あなたの真理へとわたしを教え諭したまえ」。
①「天使らの集いは，驚きに立ち尽くす。われらの救い主なるあなたが，死者のうちに数えられていたのに，死の力を打ち砕き，アダムをも自らとともに助け起こし，黄泉からすべての者を解放したのを目にして」。
②「おお弟子たちよ，なにゆえあなた方は高価な香油を虚しい涙に混ぜるのか。墓に現れた天使は，香油を携える女性たちにこう告げた。〈空の墓を見て，救い主が墓から復活したということを理解せよ〉と」。
③「朝早く，香油を携える女性たちは，泣きながらあなたの墓へと急ぐ。しかし彼女たちの前に天使が立ち，喜びのうちにこう語る。〈嘆きの時は過ぎ去った。泣くのではない。むしろ復活を弟子たちに告げよ〉」。
④「香油を携える女性たちは，われらの救い主よ，あなたの墓にやって来て泣いていた。しかし天使が彼女たちに向かってこう告げた。〈生ける方をなぜ死者たちの間に探すのか。あの方は神として，墓より復活した〉」。
「栄光は」

「われらは，父と子と聖霊に，一なる聖三位一体に祈り，セラフィムとともに声を挙げる。〈主よ，あなたは聖，聖，聖なる方！〉」「今も」
「おおおとめよ，あなたは生命の与え主を産み，アダムを罪から清め，エヴァには痛みの代わりに喜びを授けた。生命を失った者たちは，あなたから肉を受けた真の神人が，ふたたび生に値するものとした」。
「アレルヤ，アレルヤ，アレルヤ！　主よ，栄光はあなたに！」

小連祷　司祭の結句「われらの神なるキリストよ，あなたは平和の王，われらはあなたに讃歌を歌う。初めなきあなたの御父と，いとも聖にして善性に満ち，生命を与えるあなたの霊とともに，今もいつも世々とこしえに」と，通常の朝課ともやや異なる。「アーメン」。

○カティズマーリオン
「ヨージェフはあなたの尊い体をピラトよりもらい受け，それを浄らかな亜麻布にくるみ，芳香のバルサムを備えて，新しい墓に収めた。それゆえに朝早く，香油を携えて墓に着いた婦人たちは，こう叫びを挙げた。〈キリストよ，かねてより述べておられたように，あなたの復活をここでわれらに示したまえ〉」。
「栄光は」「今も」
「天使たちは，死者として墓に葬られた方が，父のふところに住むのを見て驚嘆した。それは不死なる方。この方を天使たちは取り囲み，黄泉に棲む死者たちとともに，主また創造主として賛美する」。
詩篇第50篇（ウ15）

カーノン
Ⅰ「かつて海の泡をもって，追いすがる暴君を沈めた方を，救われた者たちの恩を知らぬ裔は，墓に収めた。しかしわれらは，当時の少女とともに，主に向かって歌おう。主は栄光をもって挙げられた」。
Ⅲ「水の上に大地の回転を基礎づけたあなたが刑場に吊るされるのを，あなたの被造物は目にして，大いなる恐れにとらわれる。〈主よ，あなたを除いて他に聖なるものはいない〉と声を挙げて」。
○カティズマーリオン「われらの救い主よ，あなたの墓を守る兵士らは，現れた天使のまばゆい光に打ち倒される。天使は婦人たちに，栄光に満ちたあなたの復活を告げる。それゆえわれらはあなたを，虚無に対する征服者として讃え，

死者のうちから復活した唯一なるわれらの神としてあなたに額づく」。
Ⅳ「十字架上で成し遂げられる神の摂理を予知したハバクク預言者は，驚嘆のうちにこう叫びを挙げる。〈善性にあふれる方よ，あなたは力ある者どもの権威を打ち倒し，万能なる方として，黄泉に横たわる者たちと交わった〉」。
Ⅴ「われらに起こるべき，恵みに満ちたあなたの顕現に関して，われらの主なるキリストよ，イザヤは目を見張り，陰ることのない光がきらめくのを見てこう叫ぶ。〈死者は復活し，墓に横たわる者は目を覚まし，塵のうちに棲む者たちは讃美を語る〉」。
Ⅵ「生の海が誘惑の嵐にかき乱されるのを目にして，あなたの静穏なる波止場に逃れる者たちは，あなたに向かってこう叫びを挙げる。〈おお大いに憐れみ深き方よ，あなたはわが生を腐敗から導き出す〉」。
○コンターク「深淵の深みを閉ざされた方は，不死なる者として没し，芳香を放つ亜麻布に包まれ，墓に収められる。師かし夫人たちは来て，香油を携えて主を探しに来て，悲しき涙を流す間にこう叫びを挙げる。〈きょうこそ最も祝された土曜日。キリストよ，あなたは亡きものとされたが，3日目に復活された〉」。
○イコス「万物を維持する方が，十字架に挙げられ，被造物はすべて，主が十字架に懸けられるのを目にしてむせび泣く。太陽は光を隠し，星は輝きを失い，大地は大いなる怖れのうちに震撼し，海は高波を起こし，岩は裂け，幾多の墓は開き，死者の亡骸は蘇って小躍りする。黄泉は卑しめられて呻吟し，ユダヤ人たちはキリストの復活を秘そうと協議する。しかるに婦人たちはこう叫ぶ。〈きょうこそいとも祝された土曜日，キリストは眠りに就き，三日目に復活した！〉」。

―「メネア」によれば，聖金曜日朝課と同様，ここに長大な「シュナクサーリオン」部が挿入される。内容は，聖土曜日の起源・内容に関する朗読である。司教座聖堂での典礼では，これは省略されていた。

Ⅶ「言葉に尽せぬ神秘！　かまどにて若者らを燃え盛る火の中から解放した方は，いま死者としてわれらの救いのために墓へと赴句。そのわれらは彼に向かってこう歌う。〈解放の主なるわれらの神，あなたは祝された方！〉」。
Ⅷ「おお天よ，おののくがよい，地の基よ，震撼せよ！　見よ，いと高き方なる生命が死者のうちに数えられ，狭い墓に収められる。この主を，幼子らは祝

し，司祭たちは歌い，民はとこしえに讃美するがよい！」。

テュピコン：受難期間には，Ⅸの前の部分では「わたしの霊は」（ウ24）から「ケルビムよりも尊く」は歌わず，第9歌に移る。

Ⅸ「おお母よ，精子によらずしてあなたの胎に宿った御子を墓に見出そうと，わたしのことで泣かぬがよい。わたしは復活し，神化される。そして神として，あなたを信と愛のうちに讃える者たちを，栄光のうちに包む」。

司祭「主は聖，われらの神は」（ウ27）　民はこれを2度繰り返す。光の歌（ウ28）はない。

「すべての霊は主を讃えよ。あなた方は天において主を讃えよ。いと高きところにおいて主を讃えよ。神よ，歌はあなたに相応しい」。「すべての天使は主を讃えよ。すべての軍は主を讃えよ。神よ，歌はあなたに相応しい」（ウ29）

讃美のスティヒラ〔平日用〕

先句①「力強く主を讃えよ，大いなる群れを成して主を讃えよ」

①「きょう墓はおのれのうちに，被造物を維持する方を収め，一つの石が，天を力でもってたわめた方を覆う。生命は横たわり，黄泉は震え，アーダームは自らの縛めより解き放たれるわれらの神よ，あなたによる救いの計らいに栄光あれ。あなたはその計らいにより永遠の安らいに終わりをもたらし，われらには，死者のうちからのあなたのいとも美しき復活を賜った」。

先句②「ラッパの音で主を讃えよ。竪琴とツィタラで主を讃えよ」

②「なんという光景！　なんという慰め！　永遠なる時間の王が，その苦難を通して世の救いの計画を果たす。彼は墓の中で土曜を過ごし，新たなる土曜日をわれらに与えられた。われらは彼に向かって歌う，〈神よ立ち上がれ，世を裁いて。あなたは永遠なる王，計りがたく豊かな恵みを備えておられる〉」。

先句③「ドラムを打ち，聖歌隊で主を讃えよ。輪になって，楽器を打ち鳴らして主を讃えよ」

③「来たれ，見よ，墓に安らう永遠の生命を。彼は墓に横たわる者どもを生命へと目覚めさせる。今こそ来たれ，ユダ族の眠りを目にして，預言者らとともに彼に向かって叫びを挙げよう。〈あなたは獅子のごとくに，横たわり安らっておられる。王よ，誰があなたを起こすのか？　むしろあなた自ら立ち上がりたまえ，自らあなた自身をわれらのために与えられた方よ！　主よ，あなたに栄光！」。

先句④「音の巨大なシンバルを鳴らして主を讃えよ。シンバルの陽気な音で主を讃えよ。すべての霊は主を讃えよ！」
④「ヨージェフは救い主の遺体をもらい受け，誰も入れられたことのない新しい墓に収めた。キリストは，あたかも館から出で立つかのごとくに，墓より出ることが必然であった。主は死の支配を打ち砕き，人のために楽園の門を開いた。主よ，あなたに栄光！」。
「栄光は」
○「きょうの日を，偉大なるモーゼシュは神秘のうちに予め思い描き，こう述べた。〈そして神は7日目を祝された〉。この日こそ祝された土曜日，これこそ安らぎの日。この日こそ神の独り子がすべての業から休息した日。苦しみによる死のゆえに，肉の上では土曜日を寿ぎつつ，復活によって再び刷新し，われらに永遠の生命を賜った。唯一善き方にして人を愛する方なれば」。
「今も」
○「神の母である乙女よ，あなたは祝福に満たされた方，あなたから肉を受けた方が黄泉を征し，アダムを呼び起こし，呪いを終わらせ，エヴァを解放し，死を死したものとされ，われわれを新たな生命へと目覚めさせた。それゆえわれらはこう歌いつつ叫ぶ。〈われらの神キリスト，あなたは祝された方。あなたはこれらのことをこう望まれた。あなたに栄光！〉」。
大栄唱（ウ32）

「謹んで聴こう！　あなた方みなに平安！　叡智！　謹んで聴こう！」
トロパール「神を畏れるヨージェフは，あなたのいとも浄らかなる御身を外し，浄らかなる布にくるみ，芳しき香料を施したのち，新しい墓に収めた」。
プロフェティコン「世界の果てまで保持される方，キリストよ，あなたは自らが墓に収められることを是認した。それは人類を黄泉の危険から解放し，復活させ，不死なる神として，われらを生命へと覚醒させるため」。
司祭「謹んで聴こう！　あなた方みなに平安！　叡智！　謹んで聴こう！」
プロキメン1「主よ立ち上がれ，われらを助け，あなたの名によってわれらを解放したまえ」。
挿句「神よ，われらはこの耳で聞く，師父たちはわれらに告げ知らせてくれた，あなたがいにしえの日，かつて行われた業を」。
パリミア　「叡智！」　エゼキエル37，1-14　「謹んで聴こう！」
プロキメン2「主なる神よ，立ち上がれ，あなたの手を挙げて，貧しき者たち

のことを忘れたもうな」
挿句「主よ，わたしはあなたに，まったき心もて感謝を捧げる。わたしはあなたのくすしき業を語る」。
使徒書～　「叡智！」　1コリント5，6－8＆ガラテヤ3，13-14　「謹んで聴こう！」「あなたに平安！　叡智!!　謹んで聴こう！」
アレルヤ×3　「神よ立ち上がれ，主の敵は逃げさり，主を憎む者は主の御顔より走り去れ」。
挿句「霧が晴れるがごとくに，消え去るがよい」。
「叡智！　真なる信徒たちよ！　聖なる福音を聴こう！　聖マタイ福音書の朗読」
「あなたの受難に栄光あれ，われらの主よ，栄光あれ！」
「謹んで聴こう！」　　マタイ27，62-66
「あなたの長き忍耐に栄光あれ，われらの主よ，栄光あれ！」

三重連祷（ウ36）
完遂連祷（ウ37）

助祭「叡智！」
信徒「祝福を与えたまえ」
司祭「キリスト，われらの神がとこしえに祝せられ，讃えられんことを」
信徒「神よ，真の普遍的信仰を，世々とこしえに力づけたまえ」
司祭「いとも聖なる神の母よ，われらを救いたまえ」
信徒「ケルビムよりも尊く，セラフィムよりも類いようもなく栄えある方，あなたは神を，御言葉を，陣痛なくお産みになった。真なる神の母よ，われらはあなたを誉め歌う」
司祭「あなたに栄光あれ，キリスト・われらの神よ，われらの希望よ，あなたに栄光あれ」
信徒「栄光は」「今も」「主よ，憐れみたまえ」（×3）「主よ，祝福を与えたまえ」
司祭「キリスト，真なるわれらの神よ，〔あなたはわれら人類のため，またわれらの救いのために，恐るべき受難と，生命を与える十字架，自らなる埋葬を肉において受け取られた。〕いとも聖なる神の母，聖生にして神の息吹を受けたわれらの師父たち，そしてすべての聖人たちの執り成しを通じて，われらを

憐れみ救いたまえ，善性に満ち人を愛する方として」。
信徒「アーメン」。
司祭「主の祝福が，その恵みと人への愛とともにあなた方にあらんことを。今もいつも世々とこしえに」。
信徒「アーメン」。

B　大晩課十バジル典礼

次第は聖木曜日と同様であり，カティズマはない。

—司祭「父と子と聖霊の王国は祝せられる，今もいつも世々に」 信徒「アーメン」「来たれ，われらの王，われらの神に祈ろう。来たれ，キリスト・われらの王，われらの神に祈ろう。来たれ，伏し拝もう，そしてイエス・キリストその方，われらの王，われらの主，われらの神に祈ろう」

詩篇103篇，「栄光は」「今も」「アレルヤ」，大連祷（ア３）。

信徒「主よ，あなたに向かって」（ア６）

スティヒラ　先句；⑩「わが霊を牢獄より引き出したまえ，あなたの名を讃えることができるように」⑨「真理に就く人々がわたしを待つ，あなたがわたしに善き報いを下さるまで」⑧「主よ，深き処よりあなたに向かってわたしは叫ぶ。主よ，わが言葉を聞き届けたまえ」⑦「あなたの耳に，わたしの願いの言葉が届かんことを」⑥「主よ，主よ。もしあなたが罪に目を留められるなら，誰があなたの前に立てようか？　しかし恵みはあなたの許にある」⑤「主よ，わたしはあなたの掟のゆえに，あなたに希望を置く。わが霊はあなたの言葉のゆえに請い願う。わが霊は，主により頼む」④「朝の見張りのときから夜更けまで，イスラエルは主により頼む」③「憐れみは主にあり，贖いは主にあって豊か。主はイスラエルをすべての悪から解放される」②「すべての国民は主を讃えよ，すべての民よ，彼を讃えよ」①「主の憐れみはわれらの上に増し，彼の正義はとこしえに留まる」。

○「〈主よあなたに〉の後のスティヒラ」（ア７）第１調　土曜晩課より３個スティヒラ（後述の考察を参照）

①「われらの夕の祈りを，聖なる主よ，受け入れたまえ。そしてわれらの罪の赦しを与えたまえ。あなたは復活をわれらに明らかにされた」。

②「民よ，シオンを求めよ。その城壁を取り囲め。そこで死者の中から復活した救い主を讃えよ。彼はわれらの神，われらを罪から贖う方！」。

③「おお民よ。来たれ。われらは歌い，キリストを熱心に崇めよう。その死者からの復活を讃えて。彼はわれらの神，世界を悪の欺きから救われた方！」

○「先句スティヒラ」第1調

④「あなたの受難によって，キリストよ，われらは苦難より解放された。あなたの復活によって，われらは腐敗からのがれた。主よ，あなたに栄光！」

○「祝日スティヒラ」(第8調)

⑤「きょう，黄泉は悲しみのうちに叫ぶ。〈マリアの子を受け入れていなければよかったのに！　彼はここへ来てわが力を滅ぼし，剛鉄の扉を砕いた。そしてここに留め置かれていた霊たちを，神の力で解放してしまった〉。主よ，あなたの十字架と復活とに栄光あれ」(×2)。

⑦「きょう，黄泉は嘆きのうちに叫ぶ。〈わが力は打ち砕かれた。わたしは死者の一人として，一人の死者を受け取った。だが彼を自分の許に留めおくことは到底無理だった。それまでわたしが支配していた他の死者たちともども，わたしは彼を手放さねばならなかった。わたしの許には永遠の昔から死者がいた。だが見よ，彼がそれらをみな復活させてしまった〉。キリストよ，あなたの十字架と復活とに栄光あれ」。

⑧「きょう，黄泉は嘆きのうちに叫ぶ。〈わが力はすべて無に帰した。牧者が十字架に掛けられた。だが彼はアーダームを復活させた。わたしが権力を振るっていた者どもをわたしは失い，わたしが自分の力のうちに飲み込んでいた者どもを，わたしはすべて送り出してしまった。十字架に掛けられた方が，墓を空にし，死の国にはもう何も力が残っていない〉。キリストよ，あなたの十字架と復活とに栄光あれ」。

「栄光は」

○「偉大なるモーゼシュは，きょうの日を神秘のうちに予め思い描き，こう述べた。〈そして神は7日目を祝された〉。この日こそ祝された土曜日，これこそ安らぎの日。この日こそ神の独り子がすべての業から休息した日。苦しみによる死のゆえに，肉の上では土曜日を寿ぎつつ，復活によって再び刷新し，われらに永遠の生命を賜った。唯一善き方にして人を愛する方なれば」。

「今も」

○「人類より生まれたこの世の栄光，神の母，天の門，天使らの誉れ，信徒らの名誉なるおとめマーリアを，われらは歌う。彼女は神性の園また幕屋となった。彼女はいにしえの対立を打ち砕き，われらに平和をもたらし，天の王国をわれらの前に開いて見せた。信は彼女のうちに力を獲得し，彼女より生まれた

われらの主こそ，われらの守り手。あなたがたは信頼せよ，神の民よ，信頼せよ。主は力満てる者として，敵意に打ち勝った」。

テュピコン：香振りを伴い，福音書を掲げて行列。

司祭「叡智！　真なる信徒たちよ！」。

信徒「神の穏やかな光」（ア８）。

「神の穏やかな光」の後，プロキメンはなく，直ちに朗読がつづく。

司祭「叡智！」朗読者「～書の朗読」司祭「謹んで聴こう！」。

～聖土曜日の晩課＆聖体礼儀では『出エジプト記』より「モーゼの歌」の朗読があった（『出エジプト記』14.29-15.18；歌の部分のみに短縮してある）。１～２節ごとに信徒は「われらは主に歌う。あなたは栄光を帯びて復活された」と唱和する。そののち朗読者，もしくはパリミアを歌唱者自身が読んだ場合には司祭が，パリミアの末尾より先句を先唱する。「馬と戦士とを，主は生みに投げ込まれた」。民はこれに呼応して「われらは主に歌う。あなたは栄光を帯びて復活された」を一句ずつの末尾に歌う。最後に司祭ないし朗読者がもう一度これを歌う。

続く朗読は『ダニエル書』より「三童子の歌」（『ダニエル書』３.46-88；こちらも歌の部分のみに短縮してある）であった。こちらには，数節ごとに信徒が「あなた方は主を誉めよ，主をとこしえに讃えよ」と唱和する。

盛式の聖土曜日の典礼であれば，朗読は順に①創世記１.１-13　②イザヤ60.１-16　③出エジプト12.１-12　④ヨナ１.１-４.11　⑤ヨシュア５.10-15　⑥出エジプト13.20-15.19　⑦ゼファニア３.８-15　⑧列王記上17.８-24　⑨イザヤ61.10-62.５　⑩創世記22.１-19　⑪イザヤ61.１-９　⑫列王記下４.８-37　⑬イザヤ63.11-64.４　⑭エレミヤ38.31-34　⑮ダニエル３.１-88となる。つまり第６朗読と第15朗読のみに短縮しているわけである。

こののち小連祷。

続いて司祭「われらの神よ，あなたは聖なる方，われらはあなたを讃える。父と子と聖霊よ，今もいつも世々とこしえに」　信徒「アーメン」。

～「聖なる神」（エ12）の代わりに

司祭「キリストにおいて洗礼を受けた者は，キリストを着る者となった。アレルヤ」。　信徒は同じ句を２度繰り返す。「栄光は」「今も」をはさみ，後半部分「キリストを着る者となった。アレルヤ」を繰り返したのち，再び「キリストにおいて洗礼を受けた者は，キリストを着る者となった。アレルヤ」と歌

う。

司祭「謹んで聴こう！あなた方すべてに平安あれ！叡智！謹んで聴こう！」と促し，先唱者が「プロキメン」（第８調）「全地はあなたを讃え，あなたに歌え。あなたの名に誉れを語れ！」　挿句「すべての地よ，主に向かって喜べ，主の名に讃美を語れ」。司祭「叡智！」朗読者「～書の朗読」司祭「謹んで聴こう！」　「ローマ書」6.3b-11　司祭「あなたに平安。叡智！謹んで聴こう！」

信徒（第７調）「神よ立ち上がれ，地を裁きたまえ。あなたはすべての民を嗣業として有される」　挿句「神は神々の集いに立ち，そこで神々を裁かれる」「あなた方はいつまで誤った思いを抱き，罪ある人を重んじるのか」「彼らはこれを知らず，理解もせず，闇の中を歩く」。

～聖土曜日には，この句のやり取りの間に司祭は香部屋に順次退き，赤色の衣を白色のものに代え，福音前の祈りを静かに唱え，福音書朗読は祝日色の衣で行う。

司祭黙祷：「人を愛するわれらの主よ，われらの心に，あなたの神性をめぐる知識の浄らかな光を燃え立たせたまえ。われらの霊の目を，あなたの福音の教えを理解するために開かせたまえ。われらのうちに，幸いをもたらすあなたの掟への畏れを注ぎ，あらゆる肉の欲に打ち克ち，霊的な生を生き，すべてをあなたの同意のもとに考え行うことができるように。あなたはわれらの霊と肉の照らし手，神なるキリストよ，われらはあなたを讃える。初めなきあなたの御父，いとも聖にして善性に満ち，生命を与える聖霊とともに，今もいつも世々とこしえに。アーメン」

助祭（歌いつつ）「主よ，聖～福音記者を告げる者を祝したまえ」

司祭「神が，誉れ高き聖～（使徒）福音記者のとりなしを通して，福音の告知者であるあなたに，力ある言葉を授けて下さるように。神の愛しき御子，キリスト・イエスの福音の告知のために」

助祭「叡智！　真なる信徒たちよ，聖なる福音を聞こう」

司祭「聖～による福音書の朗読」　信徒「主よ，あなたに栄光！」　助祭「謹んで聴こう」。

「マタイ福音書」28.1-20

朗読が終わると司祭は福音書の裾に接吻し，助祭に対し静かにこう述べる ～

「福音の告げ手なるあなたに平安」。

信徒は「あなたに栄光，わが主よ，あなたに栄光」と応じ，司祭による説教が

行われる。

つづいて「三重連祷」（ア10＝エ15）である。この連祷は聖書朗読のあとにおかれ，聖体礼儀と晩課の構造を「聖入」を介して類比させ，結びつける働きをする。聖土曜日の場合，ここからは聖バジル典礼の「信徒礼儀」となる。

ケルビムの歌（エ19）の代わりに

○トロパール「すべて肉を帯びた人よ，聞け。おそれおののいて立ち，地の思いを何ら抱くなかれ。王たちの王，治め主たちの主が来られる。自らを捧げ，信徒らのための食物とするために」。

○「天使らの群れ，すべての始まりと諸力はその前に赴き，多眼のケルビム，六翼もつセラフィムはその面を隠し，この歌を呼び交わす。アレルヤ」

○「おお母よ，咎なきあなたの胎に宿された子を墓に見て，わがために泣きたもうな。わたしは復活し，讃えられ，神として，あなたを信と愛のうちに崇める者たちを，栄光でまとうのだから」

○「いわば眠りから醒めたかのように主は目覚め，復活し，われらを救った。アレルヤ」

～アンボンの祈りの際に，アーメンを長く伸ばして呼応する。その間に司祭は，リティアの備えがあるテトラポドの前に赴く。「主に願おう！」との呼びかけののち，通常のリティアの祝福で司祭はパン，小麦，ぶどう酒，オリーヴを祝福する。「主の名は祝されよ」の歌の間に香を振り，その後聖体礼儀の通常の方式に戻る。

聖体礼儀が終わるまで，厳格な断食をおこない，いかなる食物も摂ってはならない。唯一許される食物は，パン，果物，ワインである。

—テュピコンより，終課に関する部分だけを取り出しておく。「終課では，朝課で歌ったのと同一のカーノンを行う。「いとも相応しきかな」の代わりに第9イルモスを繰り返す。「聖なる神」の後も，第6歌の後も，聖土曜日のコンターク。その後『使徒行録』の朗読を，夜半の4時まで続ける（夜の11時）。その後呼び鈴の合図とともに，聖土曜日の夜半課を始める」。

続いて夜半課である。「トロパールは「死すことなき生命よ，あなたは死に降られたとき，黄泉をあなたの神性の光で打ち砕かれた。そして死者たちを，その深みから蘇らせたとき，天のすべての力が喜びに叫んだ。〈われらの神，生命を与えるキリストよ，あなたに栄光あれ〉」。その間に司祭は墓布に香を振

り，祭壇に運び，復活祭の閉じ祝日までそこに広げたままとする。夜半課の連祷，聖土曜日の閉祭の祈り。司祭はここで完全に白い典礼衣を身につけ，鐘の音とともに，十字架と，火を灯した蝋燭を手に持ち，行列行を始める。助祭は福音書と復活の主イエスのイコンを持ち，民は火を灯した蝋燭をもって続く。王門は，翌週土曜の聖体礼儀が終わるまで開かれたままとする」。

第2章　光の週

この復活の時点をもって，使用する祈祷書が「トリオーディオン」から「ペンテコスターリオン」と呼ばれるものに替わる。

I　復活の主日

A　朝課（復活徹夜祭：土曜深夜より）

スティヒラ，第6調「キリスト，われらの救い主よ，あなたの復活を天使たちは天にて歌う。われらをも，地にてそれに適う者とせよ，われらは清き心もてあなたを歌い，讃えまつるがゆえに」。

「主よ，あなたに栄光」

—以下，朝課の次第に移る（当日は司教司式であったため，忠実に翻刻する）。
司教「聖にして一，生命を与え分かれざる三位一体に，変わることなく，今もいつも世々とこしえに栄光あれ」。会衆「アーメン」。
司教：トロパール（第5調）「キリストは死者の中から復活し，死をもって死を打ち滅ぼし，墓の中にいる者たちに生命を賜った」。会衆は同じ句を2度繰り返す。
司教（先句）「神よ立ち上がれ，その敵は散るがよい。神を忌む者らは，その御顔の前より走り去れ」。
「キリストは死者の中から復活し，死をもって死を打ち滅ぼし，墓の中にいる者たちに生命を賜った」。
「霧が失せるように，姿を消すがよい。蝋が火の前に溶け去るように」
「キリストは死者の中から復活し，死をもって死を打ち滅ぼし，墓の中にいる者たちに生命を賜った」。
「そのように，罪ある者らは神の眼前に滅び，正しき者たちは喜ぶがよい！」
「キリストは死者の中から復活し，死をもって死を打ち滅ぼし，墓の中にいる

者たちに生命を賜った」。
「きょうこそ神が創られた日。ともに喜び祝おう！」
「キリストは死者の中から復活し，死をもって死を打ち滅ぼし，墓の中にいる者たちに生命を賜った」。
「栄光は」「今も」
「キリストは死者の中から復活し，死をもって死を打ち滅ぼし，墓の中にいる者たちに生命を賜った」。
　この後司教はより高い声で：司教「キリストは死者の中から復活し，死をもって死を打ち滅ぼし」
　この祈祷句をもって司教は聖堂の扉を開け，助祭に先導させつつ，聖堂に入りまっすぐに祭壇に向かう（開いたままになった王門を通る）。民は行列の間，トロパールを終わりまで，必要なだけ繰り返す。会衆「墓の中にいる者たちに生命を賜った」。
会衆「キリストは死者の中から復活し，死をもって死を打ち滅ぼし，墓の中にいる者たちに生命を賜った」。
大連祷（ウ３）

◎ダマスコの聖ヨハネによる復活カーノン（ウ18参照）
　参照される聖書箇所は，①出15．1-19　②申命32．1-43　③サム上２．1-10　④ハバクク３．２-19　⑤イザヤ26．9-20　⑥ヨナ２．３-10　⑦ダニエル３.26-45　⑧ダニエル３.52-88　⑨ルカ１.46-55；68-79　である。
１「過ぎ越しは復活の日，それは主の過ぎ越し。われわれ民は光を受けよう，キリストわれらの神は，われわれを死から生命へ，地から天へ移された。われらは主の勝利を歌う」
「キリストは死者の中から復活した」「われらは思いを浄めよう，そして復活の近づきがたき光に輝くキリストを仰ごう，そして浄らかに聴こう，主がこう言われるのを。〈喜べ！〉。われら，主の勝利を歌う者なれば」
「キリストは死者の中から復活した」「諸々の天は相応しく喜ぶがよい，大地は歓喜せよ。すべて目に見えまた目に見えざる世界は寿ぐがよい，キリストは復活された，永遠の喜びが」。
（カタヴァースィア）「過ぎ越しは復活の日，それは主の過ぎ越し。われわれ民は光を受けよう，キリストわれらの神は，われわれを死から生命へ，地から天へ移された。われらは主の勝利を歌う」

小連祷。司祭「繰り返して平安のうちに主に願おう」　信徒「主よ，憐れみたまえ」(以下司祭の各導句に続ける)　司祭「神よ，あなたの憐れみによって，われらを守り，救い，憐れみ，強めたまえ」　「いとも聖にして浄らか，いとも祝せられし栄えあるわれらの王妃，神の母にして常に処女なるマリアを，すべての聖人とともに思い起こしつつ，われら自身とお互いを，そしてわれらの生命すべてを，われらの神なるキリストに献げよう」　信徒「主よ，あなたに」　司祭「権威，国，力そして栄光は，今もいつも世々とこしえに」　信徒「アーメン」。

3「来たれ，新しい飲み物を飲もう。それは硬い岩から不思議なあり方で滴ったものではなく，キリストの墓からほとばしる不死性の泉。われらはここに力を得る」

「キリストは死者の中から復活した」「きょう，万物は光に満たされる。天，地，そして黄泉までも。被造物はすべて，キリストの復活を寿ぐがよい，主の復活に力を得て」

「キリストは死者の中から復活した」「キリストよ，昨日わたしはあなたとともに葬られた。きょう，蘇りであるあなたとともに，わたしは目覚める。昨日，わたしはあなたとともに十字架に付けられた。救い主よ，あなたの御国でわたしにも誉れを授けたまえ」

(カタヴァースィア)「来たれ，新しい飲み物を飲もう。それは硬い岩から不思議なあり方で滴ったものではなく，キリストの墓からほとばしる不死性の泉。われらはここに力を得る」

小連祷　(末尾) 司祭「あなたは善性に満ち人を愛する神，われらはあなたを讃える，父と子と聖霊よ，今もいつも世々とこしえに」 信徒「アーメン」。

イパーコイ (第4調)「マーリアとともにいた女性たちは，朝まだきに家を出て，墓に置かれていた石が取り除けられているのを目にし，天使より次のような言葉を聞いた。永遠の光のうちにおられる方を，何故人間として，死者のうちに探すのか。墓での出来事を見て，急いで行って世に告げよ。主は死に打ち勝って復活した。まことに彼は，人類を救う神の子であるから」。

4「聖なる墓の見張り場に，きょう，神の預言者ハバククよ，われらとともに立て。そして光に瞬きつつ，明らかにわれらに告げる天使を指し示せ。〈きょう，世の救いが訪れた。全能のキリストが復活された〉」。

「キリストは死者の中から復活した」「おとめの胎を開く御子として，われらにキリストが現れた。彼は，人としてはきずなき小羊と名づけられ，神としてはまったき存在と呼ばれる。主は罪なきわれらのいとも浄らかなる過ぎ越しなれば」。

「キリストは死者の中から復活した」「主イエス，われらの祝された冠は，1歳の小羊として，われらすべてのために，自らを進んで犠牲とされた。それは和解の過ぎ越し。そして朱は，輝く真理の太陽として，墓より新たに光を放たれた」。

「キリストは死者の中から復活した」「神の父祖ダーヴィドは，証しの櫃の前で喜びのうちに踊った。しかしわれら神の聖なる民は，前表の成就を目にして，霊的に喜び祝う。キリストは復活された，万能の方が」。

（カタヴァースィア）「聖なる墓の見張り場に，きょう，神の預言者ハバククよ，われらとともに立て。そして光に瞬きつつ，明らかにわれらに告げる天使を指し示せ。〈きょう，世の救いが訪れた。全能のキリストが復活された〉」。

小連祷　（末尾）司祭「あなたはわれらの神，われらはあなたを讃える，父と子と聖霊よ，今もいつも世々とこしえに」　信徒「アーメン」。

5「われらは朝まだきに目覚め，バルサムの代りに讃美の歌を主に向かって献げ，キリストにまみえよう。真理の太陽，永遠の生命をわれらすべてに注がれた方に」。

「キリストは死者の中から復活した」「キリストよ，あなたの尽きせぬ善性を目にして，黄泉の鎖に繋がれていた者たちは，喜びの足取りで光の世界に歩み出る，永遠の過ぎ越しをほめたたえつつ」。

「キリストは死者の中から復活した」「われらは天上の灯を手に歩もう，墓より立ち上がられたキリストに向け，あたかも着飾った花婿のもとへと進むように。そして救いをもたらす神の過ぎ越しを，誉れを歌う天上の歌隊とともに寿ごう」。

（カタヴァースィア）「われらは朝まだきに目覚め，バルサムの代りに讃美の歌を主に向かって献げてキリストにまみえよう。真理の太陽，永遠の生命をわれらすべてに注がれた方に」。

小連祷　（末尾）司祭「あなたの名は聖にしてほめ讃えられ，いとも浄らかにしていと高きもの，父と子と聖霊よ，今もいつも世々とこしえに」　信徒「アーメン」。

6「キリストよ，あなたは地の底にまで降り，囚われ人を繋ぐ監獄の鍵を打ち

砕いた。そして三日目に，魚の腹から蘇ったヨナのように，墓から復活された」。「キリストは死者の中から復活した」「キリストよ，あなたは封印を見事に抜け，墓より復活された。ちょうど誕生の際にも，あなたは処女性の鍵を砕くことがなかったように。そして復活を通してわれらに楽園の扉を開かれた」。
「キリストは死者の中から復活した」「わが救い主よ，あなたは神として，まだ捧げられたことのない生ける犠牲として，自らを進んで父へと献げられた。そして墓より三日目に復活し，アダムをも，その民とともに蘇らせた」。
（カタヴァースィア）「キリストよ，あなたは地の底にまで降り，囚われ人を繋ぐ監獄の鍵を打ち砕いた。そして三日目に，魚の腹から蘇ったヨナのように，墓から復活された」。
　小連祷　（末尾）司祭「あなたは平安の王にしてわれらの霊の救い主，われらはあなたを讃える，父と子と聖霊よ，今もいつも世々とこしえに」　信徒「アーメン」。

コンターク（第８調）「不死なる方よ，あなたは墓までも降られたが，黄泉の支配を打ち砕かれた。そしてあなたは，神なるキリストよ，勝利者として復活し，香油を携える女たちにこう言われた，〈喜びなさい〉。そして使徒たちに平和を賜り，打ちひしがれていた者たちを蘇らせた」。
イコス「日が昇る前，墓に宿った太陽を，香油を携えた女たちは朝まだきに探し，互いにこう言い合った。〈女たちよ！　来て，生命を与える方の葬られた亡骸を，香油でぬぐおう〉。その体とは，死して墓に眠るアダムを蘇らせたもの。われらは急ぎ参じよう，東方の賢者たちのごとくに。そして主をあがめ，香油は贈り物として携え，塗るのではなく墓の脇に備えるものとしよう。そして涙をぬぐい，こう叫ぼう。〈おお治め主よ，立ち上がりたまえ。そして倒れていた者たちを立ち上がらせたまえ！〉」。　信徒「倒れていた者たちを立ち上がらせたまえ！」。

―聖金曜日朝課，聖土曜日朝課に記したように，ここは「シュナクサーリオン」の部分である。復活の主日の「シュナクサーリオン」は極めて短い。「復活祭の聖にして偉大なる日曜日には，われらの主，われらの神にしてわれらの救い主，イエス・キリストによる生命を与える復活を記念する」。以下，通常の日曜日に唱えられる下記の唱句を唱える（ウ14）。

司祭「キリストの復活を目にし，われらはただ一人罪なき主イエスを崇敬する。あなたの十字架を前に，われらはキリストにぬかずき，あなたの聖なる復活を歌い寿ぐ。あなたはわれらの聖なる神，あなたを措いてわれらは他のものを知らず，ただあなたの名を唱える。すべての信徒よ，来たれ。われらはキリストの聖なる復活に身をかがめよう。見よ，十字架を通じて全世界の喜びが到来する。絶えず神を祝しつつ，われらは主の復活を歌う。主は磔刑の苦難を忍び，死をもって死を打ち滅ぼした」。

信徒は同じ句を二度繰り返す。

司祭「イエスは墓より復活された，かつて述べられたように。われらに永遠の生命と平安，そして豊かな恵みを与えて」（第 6 調）。

信徒は同じ句を二度繰り返して歌う。

7「若者たちをかまどから救い出した方は，人の肉をまとい，死すべきものとして苦しみを受け，その苦難を通して，死すべき人間に不朽性の装いをまとわせた。彼こそただ一人祝された方，われらの師父の誉れある神」。

「キリストは死者の中から復活した」「神を畏れる女性たちは，油を携えてあなたの許へと急ぐ。あなたを死したものとして，彼女たちは涙のうちに探した。しかしキリストよ，あなたは生ける神として喜びのうちに崇められ，神秘なる過ぎ越しとして，弟子たちに喜びをもって告げられる」。

「キリストは死者の中から復活した」「われらは死に対する勝利を寿ぐ，黄泉の滅びを。それは第二の永遠なる生命のはじまり。われらは喜びのうちに，この恵みあふれる計らいをなした方を崇める。われらの師父たちにとって，唯一祝せられ，讃えられた神を」。

「キリストは死者の中から復活した」「これは真にいとも聖にして寿ぎに適う，救いの夜。復活の太陽が指し初める，前触れの光なれば。これこそ永遠の光，われらすべてのため，墓より肉をもって立ち上がられたもの」。

（カタヴァースィア）「若者たちをかまどから救い出した方は，人の肉をまとい，死すべきものとして苦しみを受け，その苦難を通して，死すべき人間に不朽性の装いをまとわせた。彼こそただ一人祝された方，われらの師父の誉れある神」。

小連祷　（末尾）司祭「あなたの御国の支配は，常に祝され讃えられよ，父と子と聖霊よ，今もいつも世々とこしえに」　信徒「アーメン」。

8「きょうこそ類なく聖なる日，安息日の後の最初の日，祝日の中でも王たる

卓越した祝日，祝祭のうちの祝祭。この日，われらはキリストを永遠にほめたたえる」。
「キリストは死者の中から復活した」「来たれ，復活の証しの日に。ぶどうの木の新たな実りに与かろう，キリストの王国の神的な喜びに。彼を神として，永遠に讃えつつ」。
「キリストは死者の中から復活した」「シオンよ，あなたの目を挙げよ，そして目にするがよい。見よ，あなたの子らはこぞってあなたの許に集う，神の光に照らされたものとして，西，北，南そして東から。そしてあなたのうちにキリストを永遠にほめ讃える」。

「聖なる三位にして，一なるわれらの神，あなたに栄光！」
「全能の父と御言葉と霊，三つなる位格にして一，あらゆる存在を超え，最も神的な一なる本性，われらはあなたの名において洗礼を受け，あなたを永遠にあがめる」。
（先唱者）「われらは主を讃え，祝し，崇め，主を歌い，世々とこしえに主を誉め歌う」。

（カタヴァースィア）「きょうこそ類なく聖なる日，安息日の後の最初の日，祝日の中でも王たる卓越した祝日，祝祭のうちの祝祭。この日，われらはキリストを永遠にほめたたえる」。
　小連祷　（末尾）司祭「崇敬に値し，いと高きあなたの名は祝せられ，いとも聖なるもの，父と子と聖霊よ，今もいつも世々とこしえに」　信徒「アーメン」。

司祭「神の母と光の母を歌でほめたたえよう」。
9（先句）「天使は恩寵満ち満てる方に叫ぶ。〈いとも浄らかにして聖なるおとめよ，喜べ。繰り返して言う，喜べ。あなたの子は三日目に墓より復活した。そして死せる者たちを復活させた。あなたがたはともに祝うがよい」。
イルモス「光り輝け，天上のエルサレムよ。主の栄光があなたを覆った。さあ喜び祝うがよい，新しきシオンの山よ。浄らかなる神の母よ，喜びに満たされよ。あなたの子の復活のゆえに」。―この両句は，翌主日の聖体礼儀でのマリア讃歌としても歌われる。
「キリストは死者の中から復活した」「キリストよ，あなたの言葉は，真に神

的にして真に優しく，いとも甘美。あなたはわれらにまごうことなく約束された，自らの言葉は世の終わりまでわれらとともにあると。われらは，この希望の実現をまったき信もて待ち望みつつ，喜び歌おう」。
「キリストは死者の中から復活した」「おお，真に偉大にしていとも聖なる過ぎ越し，キリストよ！　おお智恵，神の言葉そして力よ。どうかあなたのうちに，真に与かることを叶えさせたまえ。あなたの御国の蔭ることなき太陽に」。
（カタヴァースィア）「光り輝け，天上のエルサレムよ。主の栄光があなたを覆った。さあ喜び祝うがよい，新しきシオンの山よ。浄らかなる神の母よ，喜びに満たされよ。あなたの子の復活のゆえに」。
○光の歌「肉においては，われらの主にして王よ，死者として眠りにつきつつ，あなたは三日目に復活し，アダムを腐敗から呼び覚まし，死を打ち滅ぼされた。不死なる過ぎ越しよ，世の救いよ」。

「すべての霊は主を讃えよ。あなた方は天において主を讃えよ。いと高きところにおいて主を讃えよ。神よ，歌はあなたに相応しい」「すべての天使は主を讃えよ。すべての軍は主を讃えよ。神よ，歌はあなたに相応しい」。

讃美のスティヒラ〔第1調〕（ウ30）
（先句④）「力強く主を讃えよ，大いなる群れを成して主を讃えよ」
①「キリストよ，われらは救いをもたらすあなたの受難を歌う。そしてあなたの復活を誉めたたえる」
（先句③）「ラッパの音で主を讃えよ。竪琴とツィタラで主を讃えよ」
②「あなたは十字架を耐え忍び，死の力を打ち砕き，死者のうちから復活し，力に満ちた方として，われらの生を慰めたまえ」。
（先句②）「太鼓を打ち，聖歌隊で主を讃えよ。輪になって，楽器を打ち鳴らして主を讃えよ」
③「復活によって黄泉の力を打ち砕き，人を復活させた方，われらの神なるキリストよ，われらを相応しい者となさせたまえ，浄らかな心であなたを歌い，ほめたたえることができるように」
（先句①）「音の巨大なシンバルを鳴らして主を讃えよ。シンバルの陽気な音で主を讃えよ。すべての霊は主を讃えよ！」
④「あなたの神的な現れをほめたたえつつ，われらはあなたを歌う，キリストよ。あなたはおとめより生まれ，父と変わるところはない。あなたは人として

苦しみを受け，自ら十字架を背負った。そしてあたかも輝く館より進み出るかのように，世を救うために墓より復活された。主よ，あなたに栄光！」

復活祭スティヒラ

—これは年間週日の場合「先句スティヒラ」としてここに置かれるものである（ウ33)。復活祭期間中すなわち「光の週」には，同一の句が晩課・朝課でともに歌われ，昼と夜の差異が解消されたことを象徴的に示している。

（司祭　先句１）「神よ立ち上がれ，その敵は散るがよい。神を忌む者らは，その御顔の前より走り去れ」。

信徒「聖性の過ぎ越しがきょう，われらに証しされた。新しい聖なる過ぎ越し，神秘に満ち，いとも浄らかなる過ぎ越しが。贖い主キリストこそ過ぎ越し，染みなき過ぎ越し，偉大なる過ぎ越し，信じる者たちの過ぎ越し，楽園の扉を開く過ぎ越し，すべての信徒を聖化する過ぎ越し」。

（司祭　先句２）「霧が失せるように，姿を消すがよい。蝋が火の前に溶け去るように」。

信徒「来たれ，誉れある光景を告げ知らせる女性たちよ，シオンにこう告げるがよい。〈われらより，キリストの復活の喜ばしき知らせを聞きなさい。エルサレムよ，喜び踊れ，歓喜せよ。王たるキリストが，着飾った花婿のごとくに墓から立ち上がられるのを見たのだから〉」。

（司祭　先句３）「そのように，罪ある者らは神の眼前に滅び，正しき者たちは喜ぶがよい！」

信徒「油を携える女性たちは，朝まだきに生命を与える方の墓に着き，天使が墓石の上に座っているのを見た。天使は彼女らにこう言った。〈生ける方をなぜ死者たちのうちに探すのか。虚無には帰しえぬ方を，なぜ虚無のうちに求めて嘆くのか。さあ行って，主の弟子たちにこのことを告げよ！〉」。

（司祭　先句４）「この日は神が創られた日。ともに喜び祝おう！」

信徒「麗しき過ぎ越し，主の過ぎ越し，過ぎ越し！　最も浄らかなる過ぎ越しがきょう，われらに明らかにされた。過ぎ越しだ，互いに喜びをもって愛しあおう！　おお過ぎ越し，悲しみの変容！　きょう墓より，あたかも館より出でるかのように，キリストが輝き出で，女性たちを喜びで満たし，彼女らにこう言われた。〈このことを使徒たちに告げよ！〉」。

（司祭　先句５）「栄光は父と子と聖霊に。今もいつも世々とこしえに。アーメン」

信徒「復活の日，われらはこの日を寿ぎ祝い，あたかも兄弟のごとく，互いに愛し合おう。復活をもって，われらの敵をも赦そう。そしてこう歌おう」。
〈キリストは死者の中から復活し，死をもって死を打ち滅ぼし，墓の中にいる者たちに生命を賜った〉（×３）

三重連祷（ウ36）
完遂連祷（ウ37）

司祭「あなたがたすべてに平安のあらんことを」　信徒「あなたの霊にも」
司祭「主に頭を垂れよう」　信徒「主よ，あなたに」
司祭の黙祷「聖なる主よ，いと高きところに住まわれる方よ，あなたは下界に住める者たちにも目を注ぎ，すべてをみそなわすその目ですべての被造物に目を注がれる。われらは霊的にも肉体的にも，あなたに礼拝を捧げ，さらに（霊的に）願いを注ぐ。聖なる者たちの聖なる方よ，どうか，目には見えぬあなたの腕を聖なるあなたの住まいから広げ，われらすべてを祝福したまえ。もしわれらが何か，意図的にあるいは心にもなく罪を犯したならば，善き方にして人を愛する神たるあなたは，どうか赦したまえ，そしてこの大地と大地を越えた賜物をわれらに与えたまえ」。
司祭「われらの神よ，あなたには，われらを憐れみ，われらを救うことが相応しい。父と子と聖霊よ，われらはあなたを讃える，今もいつも世々とこしえに」。
信徒「アーメン」。

司祭「叡智！」　信徒「祝福を与えたまえ」
司祭「キリスト，われらの神がとこしえに祝せられ，讃えられんことを」　信徒「神よ，真の普遍的信仰を，世々とこしえに力づけたまえ」
司祭「いとも聖なる神の母よ，われらを救いたまえ」　信徒「喜び踊れ，天上のエルサレムよ，主の輝きはあなたの上に照り映える。新しきシオンの山よ，さあ喜び，歓喜するがよい。そして浄らかなる神の母よ，あなたの御子の復活に喜びたまえ」
司祭「キリストは死者のうちから復活し，死をもって死を滅ぼし」　信徒「墓の中に眠る者たちに生命を賜った」
司祭「キリスト，真なるわれらの神よ，あなたは死者のうちから復活し，死をもって死を打ち滅ぼし，墓に眠る者たちに生命を賜った。主のいとも浄らかな

る聖母の祈りを通じ，また聖なる生涯を送り神の息吹を受けたわれらの師父たちと，すべての聖人のとりなしを通じて，善意に満ち人を愛する方として，われらを憐れみ救いたまえ」。　信徒「アーメン」
司祭「キリストは復活された」　信徒「まことに復活された」（×３）
司祭「主の祝福が，その恵みと人への愛とともにあなた方にあらんことを。常に，今もいつも世々とこしえに」。
信徒「アーメン」。

B　聖体礼儀

これまで，金口の聖ヨハネ典礼を解説する場面がなかった。本来，復活を寿ぐ聖体礼儀の典礼としては，クリュソストモス典礼がそれに適わしいと認識されている。バジル典礼と重複する部分も多いが，以下にクリュソストモス典礼の全体を翻刻することにしよう。

助祭「人々があなたがたの善き行いを見て，あなたがたの天の父をほめ讃えるようになるために，あなたがたの光を人々の前に輝かせよ。今もいつも世々とこしえに」。　司教「主よ，主よ。天より見そなわし，あなたのぶどう園をご覧あれ。これはあなたの御手が備えたもの。これを力づけたまえ。あなたの御目を，あなたが強めてこられた人の子らの上に常に注ぎたまえ」。　会衆：スティヒラ（第６調）「キリスト，われらの救い主よ，あなたの復活を天使たちは天にて歌う。われらをも，地にてそれに適う者とせよ，われらは清き心もてあなたを歌い，讃えまつるがゆえに」（×２）
助祭「主よ，祝福を与えたまえ」　司教「父と子と聖霊の王国は，今もいつも世々とこしえに祝せられる」。　会衆「アーメン」　司教：トロパール（第５調）「キリストは死者の中から復活し，死をもって死を打ち滅ぼし，墓の中にいる者たちに生命を賜った」 会衆はこのトロパールを２度繰り返して歌う。
続いて大連祷（エ４）。
第１・第２アンティフォン：「すべての大地よ，主に向かって喜べ！　その名に讃美を語れ。その誉れを栄光とせよ。神の母の祈りを通して，救い主よ，われらを救いたまえ。神よ，われらを憐れみ祝したまえ。その御顔をわれらに輝かせ，われらを憐れみたまえ。神の子よ，われらを救いたまえ。あなたは死者のうちから復活された方。われらはあなたに歌う，アレルヤ，アレルヤ，アレルヤ」。

続いて「栄光は父と子と聖霊に。今もいつも世々とこしえに。アーメン」と唱えられると，皇帝ユスティニアヌスⅠ世（在位527-565）により挿入された句が歌われる。「神のひとり子にしてその御言葉，あなたは不死，われらの救いのため，聖なる神の母・とこしえに処女なるマリアより肉を受けることを肯われた。あなたは変わることなく人となり，十字架に架けられた，われらの神キリスト。あなたは死をもって死に打ち勝った，聖なる三位一体の一，父と聖霊とともに讃えられるべき方。われらを救いたまえ」。

この間に福音の到来を具現する「小聖入」が行われ，会衆は起立する。司教と司祭は福音書を捧げて祭壇を左回りに廻り，イコノスタスの北門から出て王門前のアンボンに至り，福音書に接吻した後高く挙げ「叡智，真なる信徒たちよ」と呼びかける。

司教「キリスト，真なる光，あなたはこの世に来たすべての人を照らす方。あなたの御顔の光がどうかわれらの上に注がれるように。われらがそこに近づきがたき光を認めることができるように。あなたの命を遂げることができるように，われらの歩みを導きたまえ。染みなきあなたの御母の祈りを通して。われらの救い主よ，われらを救いたまえ」。続いて歌唱の調子で「死者の中から復活された神の子よ，われらはあなたに向かって歌う。アレルヤ！」。

これに会衆は聖入歌「イスラエルの幹より出でた者たちよ，集いをなして主なる神を讃えよ」と応え，さらにトロパール（第5調）　「キリストは死者の中から復活し，死をもって死を打ち滅ぼし，墓の中にいる者たちに生命を賜った」を歌う。「栄光は」「今も」に続き，コンターク（第8調）「不死なる方よ，あなたは墓までも降られたが，黄泉の支配を打ち砕かれた。そしてあなたは，神なるキリストよ，勝利者として復活し，香油を携える女たちにこう言われた，〈喜びなさい〉。そして使徒たちに平和を賜り，打ちひしがれていた者たちを蘇らせた」。司教「われらの神よ，あなたは聖なる方。父と子と聖霊よ，われらはあなたを讃える。今もいつも」　助祭「世々とこしえに」　会衆「アーメン」。

司教「キリストにおいて洗礼を受けた者は，キリストを着る者となった。アレルヤ」（ふだんは「聖なる神」）。　会衆は同じ句を2度繰り返す。「栄光は」「今も」をはさみ，後半部分「キリストを着る者となった。アレルヤ」を繰り返したのち，再び「キリストにおいて洗礼を受けた者は，キリストを着る者となった。アレルヤ」と歌う。　助祭「謹んで聞こう」　司教「あなたがたすべてに平安あれ」　助祭「叡智，謹んで聞こう」　プロキメン（第8調）「この

日は神が創られた日。ともに喜び祝おう！」　会衆「ともに喜び祝おう！」（後半部の繰り返し）　助祭が「叡智！」　朗読者「聖～使徒～書の朗読」　助祭「謹んで聴こう！」　この日は「使徒行録」より第１区分，すなわち同書１．１-８の朗読であった。　司教は朗読者に「あなたに平安」　助祭「叡智！謹んで聴こう！」　会衆「アレルヤ」（×３）　〔助祭「主よ，聖×福音記者を告知する者を祝福したまえ」

ここに司教の「神が，誉れ高き聖×（使徒）福音記者のとりなしを通して，福音の告知者であるあなたに，力ある言葉を授けて下さるように。神の愛しき御子，キリスト・イエスの福音の告知のために」という言葉が挿入される。助祭「叡智。真なる信徒たちよ，聖なる福音を聞こう」　司教「聖～による福音書の朗読」　会衆「主よ，あなたに栄光！」　助祭「謹んで聴こう！」

司教と助祭によりハンガリー語とギリシア語により「ヨハネ福音書」冒頭の朗読（１．１-17）が行われた。朗読が終わると会衆「あなたに栄光，主よ，あなたに栄光」。その後，説教が行われる。

説教が終わると「三重連祷」となる（エ15）。

続いて聖体礼儀の後半部分を構成する「信徒礼儀」に移り，会衆は「ケルビムの歌」を歌う。「われらはケルビムを神秘的にかたどり，生命を与える聖三位一体に，三度歌を捧げ，いまあらゆる世の思いを打ち棄てよう」。この間に，キリストの葬り・葬礼を表す「大聖入」が行われ，会衆は起立する。

助祭「真なる信もつキリスト教徒たちよ，主なる神がその国において，常にあなた方すべてのことを想い起こしてくださるように。」今もいつも世々とこしえに」。司祭も同じ句を繰り返したのち，司教が「聖なる，われわれの首たる牧者～教皇，神を愛するわれらの～司教，全司祭団，全教会の組織，この聖なる家の幸いにして永遠に記憶さるべき創設者と善業者たち，そして，真なる信を持つキリスト教徒たちよ，あなた方すべてのことを，主なる神がその王国において常に思い起こして下さるように，今もいつも世々とこしえに」と唱え，会衆は「アーメン」と唱えたのち，ケルビムの歌の後半を歌う。「われらは万物の王を抱く，天使の群れが目に見えぬあり方で運ぶその方を。アレルヤ，アレルヤ，アレルヤ」。これに続き，司祭は「あなたの御一人子の憐れみにより，そのゆえにあなたは祝される，いとも聖にして善性に満ち，生命を与えるあなたの霊とともに，今もいつも世々とこしえに」。　会衆は「アーメン」。以下次のように「平和の接吻・挨拶」が続く。司教「あなた方皆に平和があらんこと

を」　会衆「あなたの霊にも」　助祭「われらが一致のうちに，告白できるよう，互いに愛し合おう」　会衆「父と子と聖霊を。一にして分かれざる聖三位一体を」　司祭「扉，扉！　叡智のうちに身をつつしもう」。

ここで会衆は「使徒信条」を唱える。続いて助祭「憂いなく立ち，畏れをもって立ち，聖なる犠牲を平和のうちに捧げることができるよう，身をつつしもう」　会衆「平和の憐れみを，誉れの犠牲を」　司教「われらの主イエス・キリストの憐れみ，父なる神の愛，聖霊の交わりがあなた方皆さんとともに」　会衆「あなたの霊とも」。

ここから，聖体礼儀はその中核部を成す「アナフォラ」（奉献文）部に入る。司教「われらの心を挙げよう」　会衆「主に向けて挙げよう」　司教「主に感謝を捧げよう」　会衆「父と子と聖霊を，一にして分れざる聖三位一体を崇めることは，相応しく正しきこと」。

以下，クリュソストモス典礼より司祭（司教）の黙唱部も訳出する。（司祭は腕をひろげ，静かに次の祈りを読む）「あなたを讃え，あなたを寿ぎ，あなたを誉め歌い，あなたに感謝を捧げ，あなたの支配の場すべてにおいてあなたに跪拝することは，相応しく正しきこと。あなたは神，言葉に尽くせず，人の考えも及ばず，目に見えず，把握できず，常に在り，常に同一である方。それはあなたとあなたのひとり子，そしてあなたの聖なる霊。あなたは私たちを無から存在へと導き，倒れていた者たちを再び立ちあがらせ，すべてをなし遂げるまでは見捨て置かなかった。私たちを天に導き，来たるべきあなたの御国をたまわるまで。これらすべてのことのゆえに，私たちはあなたと，あなたのひとり子，そしてあなたの聖なる霊に感謝を捧げる。私たちが知りえたもの，知りえていないもの，私たちのものとなった目に見える恵み，見えざる恵みのゆえに。私たちはこの聖体礼儀のためにもあなたに感謝を捧げる。あなたはこれを，私たちの手から受け取るに値するものとされました。あなたの傍らには幾千の大天使，幾万の天使，ケルビム，セラフィム，六翼，多眼，宙舞，有翼の者たちが立ち」，（司祭は声を挙げ，その間にディスコスにチッラグ（星）で十字を切る）「勝利の歌を歌い，叫び，呼ばわって述べる」。すると会衆は「勝利の歌」を歌う。「聖なるかな，聖なるかな，聖なるかな，万軍の主，天と地はあなたの栄光に満つ。いと高きところには栄光，主の名によりて来たる者は祝される，いと高きところには栄光」。

続いて司祭は「主の晩餐の制定句」を唱える。（司祭は痛解し，パンとぶど

う酒の聖変化，および聖なる犠牲を献げる意向について少しく思い起こす。そののち腕をひろげ静かに）「人への愛に満ちた主よ，われらもまた，これらの幸いなる諸権能とともに，叫びを上げて述べる。あなたは聖にして至聖なる方，そしてあなたのひとり子，あなたの聖なる霊も。あなたは聖にして至聖なる方，あなたの栄光は偉大。あなたは，御ひとり子を与えるまでにこの世を愛されました。それはそのひとり子を信ずる者がすべて，滅びに至ることなく永遠の生命を持つようになるためです。あなたは，私たちのための救いの歴史（経綸）をすべて成就させるために来られ，裏切られる夜，いな世のいのちのためにすすんで自らを裏切りに委ねられた夜」，（司祭は左手にディスコスを取り，聖パンとともに，少し捧げ持ち，静かに祈りを続ける）「聖にしてけがれも染みもなきその手でパンを取り，感謝を捧げ，祝福し†，聖化し†，割き†，聖なる弟子の使徒たちに与えてこう言われました」，（声を挙げて）「取って，食べなさい。これはわたしの体，あなた方のため，罪の赦しのために裂かれるもの」

会衆は「アーメン」と応える。司祭は続ける。（深く身をかがめ，杯を覆い，静かに）「食事の後，杯も同じようにして†，こう言われました」，（声を挙げて）「みなここから飲みなさい，これはわたしの血，新しい契約の血，あなた方と多くの人々のため，罪の赦しのために注がれるもの」　会衆は「アーメン」と応える。司祭は続ける。（深く身をかがめたのち，腕をひろげ，小声で）「いまわれらは，救い主のおきて，われらのために為されたすべてのこと，十字架，埋葬，三日目の復活，昇天，父の右への着座，栄光を帯びての再度の到来を想い起こす」　（司祭は右手にディスコスを，左手に杯を取り，両腕を交差させてその聖パン・聖杯をささげ持ち，こう宣べる）「われらはあなたのものをあなたのものからあなたに捧げる。われらすべてのため，すべてのもののために」。会衆は「われらの主よ，あなたをほめ歌い，あなたを祝し，あなたに感謝を捧げ，われらの神よ，あなたを崇める」と応える。

次いで司祭は「エピクレーシス」（聖霊降臨祈願）部に入る。―（司祭は深く身をかがめ，腕をひろげ，静かに祈る）「さらに私たちは，あなたに向かってこの知と霊による奉仕を献げ，あなたを呼び求め，あなたに乞い願う。あなたの聖なる霊を，私たちと，ここに献げる捧げものの上にお遣わし下さい」。ここにスラブ起源による挿入句が入る。（司祭は助祭とともに，3度身をかがめ，その間に十字を切り，小声でこう祈る）「主よ，あなたのいとも聖なる霊を，第3時にあなたの使徒たちの上に遣わした善き方よ，この霊をわれらから取り去らず，あなたに願い求めるわれらのうちに新たにして下さい」。司祭は

これを3度繰り返す間に，「神よ，わたしのうちに浄い心をつくり，わたしの内に直き霊を新たにして下さい」「あなたの御顔からわたしを遠ざけず，あなたの聖なる霊をわたしから取り去らないで下さい」との唱句を挿む。以下，聖霊による変容のための祈願が続く—。（司祭は聖パンを祝福し，静かに唱える）「このパンを†，あなたの子キリストの尊い体に」，（聖ぶどう酒を祝福し）「この杯のうちにあるものを†，あなたの子キリストの尊い血に」，（両者をともに）「あなたの聖なる霊によって変容させてください」　（改めて腕をひろげ，小声で祈る）「ここに与かる者たちに，霊魂の目覚め，罪の赦し，あなたの聖なる霊の共有，天の御国の成就が実現し，裁きや断罪ではなく，あなたとの自由な語らいが叶わんことを」。

続いて「聖人の記憶」部に入り，司祭は黙唱を続ける。「さらにあなたに，知によるこの奉仕を献げる。信仰のうちに眠りに就いた者たち，先祖，父祖，族長，預言者，使徒，告知者，福音記者，殉教者，証聖者，修道者，そして信仰のうちに生を全うしたすべての正しき霊のため」　（司祭は聖パン・聖ぶどう酒に香を振り，その間に声を挙げて宣べる）「とりわけいとも聖にして，いとも浄らか，いとも祝せられし誉れあるわれらが王妃のため，神の母にして常世に処女なるマリアのため」　会衆「天使は恩寵満ち満てる方に叫ぶ。いとも浄らかにして聖なるおとめよ，喜べ。繰り返して言う，喜べ。あなたの子は三日目に墓より復活した。そして死せる者たちを復活させた。あなたがたはともに祝うがよい」。ふだんは「まことにふさわしきかな，神の母よ，あなたを讃えることは。いとも幸いにして咎なき方，われらの神の御母よ，ケルビムよりも尊く，セラフィムよりも類いようもなく栄えある方，あなたは神を，御言葉を，陣痛なくお産みになった。真なる神の母よ，われらはあなたを誉め歌う」。

続いて（助祭がいる場合には，歌の間に祭壇に香を振る。司祭は腕をひろげ，静かに祈る）「洗礼者にして預言者なる聖ヨハネと先駆者たちのため，聖にして栄えある，いとも誉れにみちた使徒たちのため，今日われらがその記憶を記念する聖〜のため，またあなたの全聖人たちのため，彼らのとりなしによって恵み深くわれらをみそなわしたまえ，われらの神よ」。

次に「死者の追憶」に移る。司祭は「そして永遠なる生命への復活の希望のうちに亡くなった者たちを，すべて御心に留めたまえ」と唱え，亡くなった者をその意向・意思に従って思い起こす。（静かに唱える）「われらが主よ，亡くなったあなたの僕×を御心に留めたまえ」，続いて腕をひろげ，祈りを続ける。「そして彼らを，あなたの御顔の光が輝く場所に憩わせたまえ」。

その後「生者の追憶」に移り，「主よ，われらは願う。真なる信仰を保ち，あなたの真理の御言葉をふさわしく教える全司教たち，全司祭たちを心に留めたまえ。キリストにおける司祭団を，教会の全組織を」。「さらにわたしたちはあなたに向かい，この知による奉仕を，全世界のため，聖にして普遍，使徒継承の教会のため，また清く浄らかな生のうちにその日々を送った人々のために献げる」。

（声を挙げて）司祭「まず初めに，われらの主よ，聖なる，われわれの首たる牧者～教皇，神を愛するわれらの～司教に御心を留めたまえ，そして彼らを聖なるあなたの教会で，平和，安寧，品位，健康そして長命のうちに，あなたの真理の言葉を相応しく述べ伝えられるよう，守りたまえ」。（会衆は次の黙祷が続く間にこう歌う）「光り輝け，天上のエルサレムよ。主の栄光があなたを覆った。さあ喜び祝うがよい，新しきシオンの山よ。浄らかなる神の母よ，喜びに満たされよ。あなたの子の復活のゆえに」。ふだんは「われらみなをも，みなの者をも」。

（歌の間に，司祭は生ける者をその意向・意思に従って思い起こし，そののち手を合わせ，静かに祈る）「われらの主よ，われらが住むこの町（共同体），全ての町，共同体，村，そしてそこに住む信徒たちを御心に留めたまえ。われらの主よ，船に乗る者，旅する者，病める者，疲れし者，囚われし者らを，そして彼らの解放を心に留めたまえ。われらの主よ，あなたの聖なる教会に献げ物を携え，慈善をなし，貧しき者たちを助ける者たちを御心に留め，またわれらすべてにあなたの恵みを遣わしたまえ」。

（続いて声を挙げ）司教「そして一つの口，一つの心で，父と子と聖霊よ，われらがあなたのいとも尊く高貴なる名を讃え，ほめ歌うことの叶わんことを，今もいつも世々とこしえに」　そして会衆が「アーメン」と応じ，「アナフォラ」部は終了する。

続いて司祭は「われらの偉大なる神にして救い主，われらのイエス・キリストの恵みがあなた方皆さんとともに」と促し，会衆が「あなたの霊とも」と応え，以下「懇願連祷」が続く（エ31）。

ここで会衆は「主の祈り」を唱える。司祭はこれを承け「国と力と栄光は，父と子と聖霊よ，あなたのもの，今もいつも世々とこしえに」と応じ，会衆は「アーメン」と結ぶ。続けて，司祭「あなたがたすべてに平安があるように」

会衆「あなたの霊にも」　司祭「主に頭を垂れよう」　会衆「主よ，あなた

に」　司祭「あなたの御一人子の恵み，憐れみ，人への愛を通して，あなたはその故に祝せられる，いとも聖にして善き方，生命を与えるあなたの霊とともに，今もいつも世々とこしえに」　会衆「アーメン」　司祭「身を謹もう。聖なるものは聖なる者に」　会衆「聖なるものは一，主は一，イエス・キリスト，父なる神の栄光のために。アーメン」。

会衆はここで「聖体拝領前の唱句」を唱える（エ33）。

この唱句に続き，当日の「拝領唱」が歌われる。

続いて司祭（助祭）の「キリストの体を受け，不死性の泉を味わうがよい。アレルヤ！」（ふだんは「神への畏れと信と愛をもって近づくがよい」）との呼びかけに，会衆「キリストは死者の中から復活し，死をもって死を打ち滅ぼし，墓の中にいる者たちに生命を賜った」。ふだんは「主の名によりて来たる者は祝される。われらに現れた主こそ神」と歌い，聖体拝領の行列となる。

拝領が終わると司祭は「神よ，あなたの民を救い，あなたが遺されたものを祝福したまえ」と『詩篇』二七9を唱える。これに会衆は「わが主よ，幾とせにもわたって！」と応じてから「キリストは死者の中から復活し，死をもって死を打ち滅ぼし，墓の中にいる者たちに生命を賜った」。ふだんは「われらは真の光を見た。天の聖なる霊を受けた。真の信仰を見出した。分かれざる聖三位一体を崇めよう。彼こそわれらを救われた方」と歌う。なお聖体は，酵母入りのパンをぶどう酒に浸したものである。

司祭は「（われらの神は祝せられる，）永遠の昔より今もいつも世々とこしえに」と唱え，会衆は「アーメン」と応じてから「キリストは死者の中から復活し，死をもって死を打ち滅ぼし，墓の中にいる者たちに生命を賜った」。ふだんは「われらの唇があなたへの讃辞で満ちんことを，あなたの栄光を歌わんがために。あなたはわれらが，不死にして生命を与え聖なる天上の神秘に与ることを許された。あなたの秘跡により，われらを強めたまえ。この一日，あなたの真理を観想することができるように」と歌う。

以下，「感謝連祷」（エ37）。

ここから「閉祭」の部に入る。末尾の部分がバジル典礼とは異なる。司祭（主日）「死者のうちより復活したキリスト，真なるわれらの神が，そのいとも浄らかなる母，誉れあり万物にまさって讃えられるべき使徒たち，コンスタンティノポリスの首たる司教金口の聖ヨハネ，聖にして神の霊感を受けたわれらの師父たち，それにすべての聖人たちのとりなしにより，われらを憐れみ，われらをお救い下さるように，善き方にして人を愛する神なれば」。　会衆「アー

メン」。

司祭「キリストは復活された」　信徒「まことに復活された」（×３）

司祭「主の祝福が，その恵みと人への愛とともにあなた方の上にあらんことを。今もいつも世々とこしえに」　会衆「アーメン」。

Ⅱ　復活の月曜日

A　前晩大晩課

これより，基となるデータは，2009年春，３月23日以降のものとなる。

司祭「われらの神は永遠に讃えられる，今もいつも世々とこしえに」

信徒「アーメン」

復活のトロパール（第５調）「キリストは死者の中から復活し，死をもって死を打ち滅ぼし，墓の中にいる者たちに生命を賜った」を司祭が１度朗誦し，信徒が２度繰り返す。

続いて，復活徹夜祭の際に用いられたのと同じ先句を司祭が歌い，そのたびごとに上掲の復活トロパールを信徒が繰り返す。（先句１）「神よ立ち上がれ，その敵は散るがよい。神を忌む者らは，その御顔の前より走り去れ」。（先句２）「霧が失せるように，姿を消すがよい。蝋が火の前に溶け去るように」。（先句３）「そのように，罪ある者らは神の眼前に滅び，正しき者たちは喜ぶがよい！」。（先句４）「この日は神が創られた日。ともに喜び祝おう！」。（先句５）「栄光は父と子と聖霊に。今もいつも世々とこしえに」。

最後に司祭が「キリストは死者の中から復活し，死をもって死を打ち滅ぼし」と促すと，信徒が「墓の中にいる者たちに生命を賜った」と応唱する。

次いで「大連祷」（ア３）

次いで「主よ，あなたに向かって」（ア６）

続いて，スティヒラである。「光の週」には，晩課・朝課で歌われるスティヒラの「調」の構成が，下記のように年間を代表するかたちで一巡する。

	朝　課 〔讃美スティヒラ〕	晩　課 〔主よあなたに後〕	〔先句スティヒラ〕
聖土曜		土晩１×３＋先句１	
日曜	日朝１×４	土晩２×６	土晩２×１
月曜	日朝２×４	土晩３×６	土晩３×１

火曜	日朝 3 × 4	土晩 4 × 6	土晩 4 × 1
水曜	日朝 4 × 4	土晩 5 × 6	土晩 5 × 1
木曜	日朝 5 × 4	土晩 6 × 6	土晩 6 × 1
金曜	日朝 6 × 4	土晩 8 × 6	土晩 8 × 1
土曜	日朝 8 × 4	〔タマーシュの主日〕1 調	—

このように，復活月曜前晩晩課（＝日曜晩課）には，主日前晩（土曜）晩課の第 2 調のものを用いる。

⑥（先句）「主よ，主よ，もしあなたが罪に目を留められるなら，誰があなたの前に立てようか？　しかし恵みはあなたの許にある」

①「来たれ，拝もう。父より永遠の昔に生まれ，おとめマリアより肉を受けた御言葉を。この方は自ら十字架の苦しみを受け，埋葬へと自らを委ねたのち，死者たちのうちから復活した。道を見失った者として，われらを救いたまえ」。

⑤（先句）「主よ，わたしはあなたの掟のゆえにあなたに希望を置く。わが霊はあなたの言葉のゆえに請い願う。わが霊は，主により頼む」

②「キリスト，われらの救い主，あなたはわれらに定められた罪状書きを十字架に釘付けとして無効とし，死の支配を打ち滅ぼした。われらは彼の三日目なる復活を讃える」。

④（先句）「朝の見張りのときから夜更けまで，イスラエルは主により頼む」

③「大天使らよ。われらはキリストの復活を歌う。彼はわれらの霊の贖い主にして救い主。主は大いなる栄光を伴い，力を帯びて，再びこの世を，自ら創られたこの世を裁くために来られる」。

③（先句）「憐れみは主にあり，贖いは主にあって豊か。主はイスラエルをすべての悪から解放される」（ここから第 6 調）

④「十字架に付けられ，葬られた治め主なるあなたを，天使は婦人たちにこう言って告げ知らせた。〈来て，見るがよい。主が葬られた場所を。主はあらかじめ告げておられたように，力強く復活された〉。それゆえわれらはあなたを，唯一不死なる方として拝む。生命を与えるキリストよ，われらを憐れみたまえ」。

②（先句）「すべての国民は主を讃えよ，すべての民よ，彼を讃えよ」

⑤「あなたは十字架をもって，果実の木に由来する呪いを滅ばし，墓を通して死の支配を覆し，復活を通して人類を照らされた。それゆえわれらはあなたに叫ぶ。〈キリスト，善性あふれるわれらの神よ，あなたに栄光！〉」。

①(先句)「主の憐れみはわれらの上に増し，彼の正義はとこしえに留まる」。

⑥「主よ，あなたの前に，死の門は畏れをもって開かれ，黄泉の門番はあなたの姿を目にして，恐怖に陥る。あなたは地獄の扉を打ち砕き，鉄の鍵を無用とし，われらを闇と死の悲しみから引き出し，われらの桎梏を解き放たれた」。

A「栄光は父と子と聖霊に」

「救いの歌を歌いつつ，われらはこう声を挙げる。〈来たれ，皆の者，主の家にあって膝をかがめ，こう言おう。「十字架に付けられ，死者のうちから復活し，父のふところに住まう方よ，われらを罪から浄めたまえ」と〉」。

B「今もいつも世々とこしえに」

（大ドグマティコン）「悲しみの律法は過ぎ去り，恵みの掟が到来した。ちょうど，燃える芝が燃えながらも燃え尽きないように，あなたもまた，おとめとして出産しつつおとめのまま留まり，燃える柱の代わりに真の太陽がわれらに輝き出で，モーセに代わってキリストが，われらの霊の救いとして現れた」。

司祭による「叡智！　真なる信徒たちよ！」との促しから，晩課における「聖入」が始まる。

信徒「神の穏やかな光」（ア８）

司祭「謹んで聴こう！あなた方すべてに平安あれ！叡智！謹んで聴こう！」（ア９）

先唱者「プロキメン」：「われらの神にまさって，これほどにまで偉大な神があろうか？　あなたこそ神，幾多の奇跡を起こす方」信徒はこれを繰り返す。

～「光の週」には，上記の８調スティヒラと，このプロキメンだけが入れ替わる。これは，特別に「大プロキメン」と呼ばれる。

月夕：「われらの神は，天においても地にあっても，望むことをすべて完遂なさる」。⇒お告げの日と重なってもこれを用いた。

火夕：「わたくしは，わが言葉で主に向かって叫ぶ。神に向かって〈わたしを心に留めたまえ〉と」

水夕：「神よ，わたしの祈りに耳を傾け，わが願いを打ち棄てたもうな」

木夕：「主よ，わが力よ，わたしはあなたを愛する。主こそわが力，わが祭壇」。

金夕：「主よ，あなたを畏れる者たちに，あなたはその嗣業を与える」。

司祭「聖なる福音を聴くのに相応しくあれるよう，平安のうちに主に祈ろう！」

信徒「主よ憐れみたまえ，憐れみたまえ」
司祭「あなたがたすべてに平安があるように」
信徒「あなたの霊にも，あなたの霊にも」
司祭「叡智！　真なる信徒たちよ，聖なる福音を聞こう。聖ヨハネ福音書の朗読」
信徒「あなたに栄光あれ，主よ，あなたに栄光」
司祭「謹んで聴こう！」
〈福音書朗読〉：ヨハネ福音書　20.19-25
「三重連祷」（ア10）
信徒の歌（第4調）。「われらの主よ」
「完遂連祷」（ア12）

第2調先句スティヒラ第1句「われらの救い主キリストよ，あなたはその復活を通して，万物をすべて照らし，あなたの被造物を立て直された。全能の主よ，あなたに栄光！」。
以下，復活祭スティヒラである。復活徹夜祭の項を参照。

司祭「叡智！」　信徒「祝福を与えたまえ」　司祭「キリスト，われらの神がとこしえに祝せられ，讃えられんことを」　信徒「神よ，真の普遍的信仰を，世々とこしえに力づけたまえ」　司祭「いとも聖なる神の母よ，われらを救いたまえ」　信徒「喜び踊れ，天上のエルサレムよ，主の輝きはあなたの上に照り映える。新しきシオンの山よ，さあ喜び，歓喜するがよい。そして浄らかなる神の母よ，あなたの御子の復活に喜びたまえ」　司祭「キリストは死者のうちから復活し，死をもって死を滅ぼし」　信徒「墓の中に眠る者たちに生命を賜った」　司祭「キリスト，真なるわれらの神よ，あなたは死者のうちから復活し，死をもって死を打ち滅ぼし，墓に眠る者たちに生命を賜った。主のいとも浄らかなる聖母の祈りを通じ，また聖なる生涯を送り神の息吹を受けたわれらの師父たちと，すべての聖人のとりなしを通じて，善意に満ち人を愛する方として，われらを憐れみ救いたまえ」。　信徒「アーメン」
司祭「キリストは復活された」　信徒「まことに復活された」（×3）
司祭「主の祝福が，その恵みと人への愛とともにあなた方にあらんことを。常に，今もいつも世々とこしえに」。
信徒「アーメン」。

B　朝課

司祭「聖にして一，生命を与え分かれざる三位一体に，父と子と聖霊とに，変わることなく，今もいつも世々とこしえに栄光あれ」。信徒「アーメン」。

司祭：トロパール（第5調）「キリストは死者の中から復活し，死をもって死を打ち滅ぼし，墓の中にいる者たちに生命を賜った」。信徒は同じ句を2度繰り返す。

司祭（先句）「神よ立ち上がれ，その敵は散るがよい。神を忌む者らは，その御顔の前より走り去れ」　信徒は以下，上掲の復活トロパールを各先句の後に繰り返す。

「霧が失せるように，姿を消すがよい。蝋が火の前に溶け去るように」「そのように，罪ある者らは神の眼前に滅び，正しき者たちは喜ぶがよい！」「この日は神が創られた日。ともに喜び祝おう！」「栄光は父と子と聖霊に。今もいつも世々とこしえに」

司祭「キリストは死者の中から復活し，死をもって死を打ち滅ぼし」　信徒「墓の中にいる者たちに生命を賜った」。

大連祷（ウ3）

ダマスコの聖ヨハネの復活カーノン（復活徹夜祭を参照）。

讃美スティヒラ

（先句④）「力強く主を讃えよ，大いなる群れを成して主を讃えよ」

第2調「主よ，すべての霊とすべての被造物はあなたを讃える。あなたは十字架を通して死を打ち滅ぼし，人類に，死者のうちからの自らの復活を示された。唯一人を愛する方として」。

（先句③）「ラッパの音で主を讃えよ。竪琴とツィタラで主を讃えよ」

「ユダヤ人たちをして語らしめよ。〈見張りの男たちがわれらの王を隠してしまった〉と。なにゆえ，墓石が生命の岩を留めおけようか。むしろあなた方は，死者を差し出すのか，もしくは復活された方に対し，われらとともにこう祈るのか。〈救い主よ，あなたの憐れみの大きさに栄光あれ。あなたに栄光〉」。

（先句②）「太鼓を打ち，聖歌隊で主を讃えよ。輪になって，楽器を打ち鳴らして主を讃えよ」

「民は喜び，踊るがよい。墓石の上に座っていた天使がわれらの前に姿を現

し，こう言った。〈キリスト，世界の救い主は，死者たちのうちから復活し，すべての者たちを芳香で包んだ。民は喜び，踊るがよい！〉」。

（先句①）「音の巨大なシンバルを鳴らして主を讃えよ。シンバルの陽気な音で主を讃えよ。すべての霊は主を讃えよ！」

「主よ，天使はあなたが懐胎される前に，恩寵に満たされた方に祝辞をもたらした。天使は，あなたの復活に際しては，誉れあるあなたの墓から石を転がしもした。大きな哀しみに代えて喜びの様を告げ知らせて。これはすなわち，死に代えて生命を与える治め主を讃えること。それゆえわれらもあなたに叫ぶ。われらすべてに幸いをもたらす方，われらの主，あなたに栄光〉」。

—この後，復活祭スティヒラが続く（復活徹夜祭参照）。

「三重連祷」（ウ36）

「完遂連祷」（ウ37）

司祭「あなたがたすべてに平安があるように」～司祭「主の祝福が，その恵みと人への愛とともにあなた方にあらんことを。常に，今もいつも世々とこしえに」まで，復活徹夜祭を参照。

信徒「アーメン」。

C　聖体礼儀

プロキメンと聖書朗読箇所を除き，復活の主日の聖体礼儀と次第は同一である。

月曜プロキメン（第８調）「彼らの宣教は全地におよび，その言葉は地球の果てにまで届く」。

火曜「わたしの霊は主をあがめ，わたしの霊はわが救い主なる神のうちに喜ぶ」。

水曜「わたしはあなたの名を代々にわたって思い起こす」。

木曜「あなたがたは歌うがよい，われらの神に歌うがよい。あなたがたは歌うがよい，われらの王に歌うがよい」。

金曜　月曜に同じ。

土曜「主こそわが光，わが解放。わたしは誰を恐れよう？」

聖書朗読箇所は，下記のとおりであった。

月曜　使徒行録１.12-17，１.21-26；ヨハネ福音書１.18-28。

火曜　使徒行録２.14-21；ルカ福音書24.12-35。ただこの年は復活の火曜日が３月25日と重なったため，福音書朗読のほうは祝日のもの，すなわちルカ

福音書の1.24-38であった。

水曜　使徒行録2.22-38a；ヨハネ福音書1.35-51。

木曜　使徒行録2.38-43a；ヨハネ福音書3.1-15。

金曜　使徒行録3.1-8；ヨハネ福音書2.12-22。

土曜　使徒行録3.11-16；ヨハネ福音書3.22-33。

Ⅲ　復活の火曜日

A　前晩大晩課

2008年は，3月25日すなわち聖母への天使による「受胎告知」（お告げ）の祝日が「光の週」に含まれるという，大変珍しい暦となった。これにともない，当日に関わる典礼は，復活を祝う基調に聖母の祝日性を加味するという性格を帯びるものとなった。

スティヒラの可変部分から翻刻しよう（第3調）。

⑧「主よ，深き処よりあなたに向かって叫ぶ。主よ，わが言葉を聞き届けたまえ」

「救い主なるキリストよ，あなたはその十字架を通して死の支配を打ち砕き，悪魔のたくらみは消え去った。信によって救われる人類は，歌をもって常にあなたを讃美する」。

⑦「あなたの耳に，わたしの願いの言葉が届かんことを」

「主よ，あなたの復活を通して万物は照らされ，楽園は再び開かれ，すべての被造物はあなたを讃え，あなたに讃美の歌を捧げる」。

⑥「主よ，もしあなたが罪に目を留められるなら，誰があなたの前に立てようか？　しかし恵みはあなたの許にある」

「わたしは父と子の力を讃美し，聖霊の支配を歌いあげる。分かれずして創られざる神性，一体なる聖三位一体を。その方は世々とこしえに治められる」。

⑤「主よ，わたしはあなたの掟のゆえに，あなたに希望を置く。わが霊はあなたの言葉のゆえに請い願う。わが霊は，主により頼む」

「キリストよ，われらはあなたの尊い十字架の許に駆け寄る。そしてあなたの復活を歌い，讃美する。われらはすべて，あなたの傷を通じて癒されたのだから」。

④「朝の見張りのときから夜更けまで，イスラエルは主により頼む」

「わたしは，おとめより肉を取った救い主を歌う。主はわれらのために十字架につけられ，三日目に復活し，われらに豊かな恵みを与えられた」。

③「憐れみは主にあり，贖いは主にあって豊か。主はイスラエルをすべての悪から解放される」（ここから第6調）

（～祝日）「幸いなるおとめよ，天の父は永遠の決意をあなたに明らかにしようと望まれた。大天使ガーボルをあなたの許に遣わし，彼は天の接吻をもってあなたに臨み，こう告げた。〈めでたし，似つかわしき花。めでたし，枯れることなき森。めでたし，見透すことのできぬ深み。めでたし，天に架かる橋，ヤーコブが目にした高き梯子。めでたし，いにしえの呪いの滅却。めでたし，アダムの呼び戻し。主はあなたとともにおられる〉」。

②「すべての国民は主を讃えよ，すべての民よ，彼を讃えよ」

「染みなきおとめは大天使に言った。〈あなたは人間のごとくにわたしの前に現れ，人智を超えた言葉を何故わたしに告げるのですか。あなたによれば「主がわたしのうちにおられ」「わたしの胎に宿られた」と。でもどうかおっしゃってください。なぜわたしに懐妊するが叶うのか，そしてケルビムよりも誉れある聖櫃となりうるのか。わたしをからかわないでください。わたしは肉の夫を知りませんし，婚姻関係にも入っていませんし，両親の家を出ていないのですから〉」。

①「主の憐れみはわれらの上に増し，彼の正義はとこしえに留まる」。

「知的実体はこう答えた。〈神は望みの場所で，自然の秩序にまさることができる，人の力を超えて起こる事柄すべてにおいて。いとも聖なるおとめよ，わたしの真なる言葉を信じなさい〉。そこで彼女はこう叫んだ。〈どうかわたしに，あなたのお言葉どおりのことが起こりますように。そしてわたしが，肉体を持たぬ方を産み，その方がわたしを通して肉を取り，力ある方として，人類をかつての相応しき姿にまで高めることができるように〉」。

A「栄光は父と子と聖霊に」B「今もいつも世々とこしえに」

「大天使ガーボルは天より遣わされた。おとめマーリアに懐妊を告げ，ナザレトに来て，輝きが始まったことを知らせるために。〈おお，いと高き方・捉えられえない方がおとめマーリアより生まれる。その方の玉座は天，足台は大地。その方を，六翼のケルビム，多眼のセラフィムも目にすることができようか？　神の子の受肉を一言の力で言い表せえようか？　しかし御言葉は神より生まれ，それをわたしは，おとめにこう告げることしかなしえない。〈めでたし，恩寵に満ち満てる方，主はあなたとともにおられる。めでたし，浄らかなるおとめ，めでたし，夫を知らぬ女性，めでたし，生命を生む方。あなたの胎の実は祝される〉」。

司祭「叡智！　真なる信徒たちよ！」。

信徒「神の穏やかな光」（ア８）。

次に司祭は「謹んで聴こう！あなた方すべてに平安あれ！叡智！謹んで聴こう！」と促し，先唱者により「プロキメン」が歌われる。「われらの神は，天においても地においても，望むことをすべて成し遂げられる」。信徒はこれを繰り返す。

司祭「叡智！」　朗読者「～書の朗読」　司祭「謹んで聴こう！」

〈聖書朗読〉　創世記28.10-17；エゼキエル43.27-44.４；箴言９.１-11〔祝日用〕

――・――

「リティアのスティヒラ」

（第１調）「６ヶ月目に，おお浄らかなるおとめよ，大天使があなたの許に遣わされた，あなたに救いの言葉を告げ知らせるために。そして真っ先にこうあなたに叫んだ。〈めでたし，恩寵に満ち満てる方，主はあなたとともにおられる。あなたは父により，永遠の生命をもつ御子を産む。その方は民を罪から贖う〉」。

「栄光は父と子と聖霊に。今もいつも世々とこしえに」。

「きょう，大天使ガーボルが喜びの知らせを恩寵満ち満てる方に告げる。〈めでたし，染みなく，婚姻の関係を知らぬ母よ。尋常ならぬわが姿を恐れず，わたしから身を遠ざけるな。わたしは大天使，かつて蛇はエヴァを罪へと誘惑した。だがわたしはいまあなたに喜びを告げる。あなたは染みなきままに留まり，おお浄らかなる方よ，主を産む〉」。

――・――

第３調先句スティヒラ第１句「キリストよ，あなたはその受難を通して太陽を暗くし，復活の光をもって万物を照らした。人を愛する方として，われらの夕べの歌を受け取りたまえ」。

～以下，復活祭スティヒラである（復活徹夜祭を参照）。先句４に続く「麗しき過ぎ越し」まで歌ってから，「栄光は」の後，祝日用を挿入する。

先唱者「栄光は」（第４調）

信徒（祝日用）「きょうこそ喜びの告知，おとめごらの祝日，地のものと天上のものとの一体化，アダムは新たにされ，エヴァは悲しみから解放される。

そしてわれら人類の本性は刷新され，神性と一致され，神の神殿となる。おお天上の神秘よ！　一致のあり方は言葉に尽せず，神の善性の豊かさは言い表しようもない。天使はこの奇跡に奉仕し，おとめはその胎に御子を宿し，聖霊が遣わされる。父は天上より祝福を送り，変容が二者の共なる決意により起こる。われらを通して人類が救いに与かり，われらは聖ガーボルとともにこう叫ぶ。〈めでたし，恩寵満ち満てる方。この方を通してキリスト，われらの救い主なる神が，人間の本性を担い，われらを自らの許にまで高める。われらの霊の救いのため，この方に祈りたまえ〉」。

先唱者「今もいつも世々とこしえに。アーメン」（第5調）

信徒「復活の日，われらはこの日を寿ぎ祝い，あたかも兄弟のごとく，互いに愛し合おう。復活をもって，われらの敵をも赦そう。そしてこう歌おう」。

〈キリストは死者の中から復活し，死をもって死を打ち滅ぼし，墓の中にいる者たちに生命を賜った〉（×3）。

先唱者「栄光は父と子と聖霊に。今もいつも世々とこしえに。アーメン」（第4調）

祝日トロパール（第4調）「今日こそわれらの救いの初め，永遠なる神秘の開示。神の子がおとめの子となり，大天使ガーボルは神の恩寵を告げる。それゆえわれえらも彼とともに，神の母にこう叫ぶ。〈めでたし，恩寵満ち満てる方。主はあなたとともにおられる〉」。

——・——

司祭「主に願おう」

信徒「主よ憐れみたまえ」

司祭「主にしてわれらの神なるイエス・キリスト，あなたは5つのパンを祝福し，それによって5千人を満たされた」。

（司祭はパンの一つを手に取り，接吻してから，祝福を受ける供え物にそのパンで十字を切り，もう一度接吻して元の位置に戻す。その間に祈りを続ける）

司祭「神なるわれらの創造主，あなたが自らこのパンと（†），小麦と（†），ぶどう酒と（†），オリーブとを（†），祝福したまえ。この共同体（町），そして全世界において，これらすべてのものを増やし，これらを味わう信徒たちを聖化したまえ。われらの神キリスト，あなたはすべてを祝福し聖化する方。われらは始めなきあなたの父，いとも聖なる善き方にして生命の創造者なるあなたの霊とともに，あなたに讃歌を歌う。今もいつも世々とこしえに」　会衆「アーメン」

（司祭は供え物に再度香を振り，その間にトロパール第４調の節で）

〈キリストは死者の中から復活し，死をもって死を打ち滅ぼし，墓の中にいる者たちに生命を賜った〉（※この句も，通常のリティアの「主の名は～」ではなく，復活句である）と歌う。同じ句を会衆は２度繰り返して歌う。

司祭「叡智！」　信徒「祝福を与えたまえ」　司祭「キリスト，われらの神がとこしえに祝せられ，讃えられんことを」 信徒「神よ，真の普遍的信仰を，世々とこしえに力づけたまえ」　司祭「いとも聖なる神の母よ，われらを救いたまえ」　信徒「喜び踊れ，天上のエルサレムよ，主の輝きはあなたの上に照り映える。新しきシオンの山よ，さあ喜び，歓喜するがよい。そして浄らかなる神の母よ，あなたの御子の復活に喜びたまえ」　司祭「キリストは死者のうちから復活し，死をもって死を滅ぼし」　信徒「墓の中に眠る者たちに生命を賜った」　司祭「キリスト，真なるわれらの神よ，あなたは死者のうちから復活し，死をもって死を打ち滅ぼし，墓に眠る者たちに生命を賜った。主のいとも浄らかなる聖母の祈りを通じ，また聖なる生涯を送り神の息吹を受けたわれらの師父たちと，すべての聖人のとりなしを通じて，善意に満ち人を愛する方として，われらを憐れみ救いたまえ」。　信徒「アーメン」。

司祭「キリストは復活された」　信徒「まことに復活された」（×３）

司祭「主の祝福が，その恵みと人への愛とともにあなた方にあらんことを。常に，今もいつも世々とこしえに」。

信徒「アーメン」。

B　朝課（2008.03.25お告げの祝日）

復活の寿ぎの基調と，聖母への祝賀性がどのように融合されているかに注目したい。基調は復活の月曜日朝課を参照。

プロキメン「日に日を継いで，われらの神の解放を告げ知らせよ」

福音書朗読はルカ１.39-49；56であり，祝日固有である。

カーノン部分は，第３オードの後，イパーコイとコンタークが復活用であった（ウ19参照）。

イパーコイ（第４調）「マーリアとともにいた女性たちは，朝まだきに家を出て，墓に置かれていた石が取り除けられているのを目にし，天使より次のような言葉を聞いた。永遠の光のうちにおられる方を，何故人間として，死者の

うちに探すのか。墓での出来事を見て，急いで行って世に告げよ。主は死に打ち勝って復活した。まことに彼は，人類を救う神の子であるから」。

コンターク（第8調）「不死なる方よ，あなたは墓までも降られたが，黄泉の支配を打ち砕かれた。そしてあなたは，神なるキリストよ，勝利者として復活し，香油を携える女たちにこう言われた，〈喜びなさい〉。そして使徒たちに平和を賜り，倒れていた者たちを蘇らせた」。

また第6オードの後のコンタークとイコスは祝日用である（ウ21，22）。

コンターク「神の母よ，果敢な指揮官としては勝利の歌を，あらゆる悪からわれらを解放される方としては，感謝の祈りをわれらはあなたに歌う。あなたは打ち負かされぬほどに力をもつ，われらはあなたにこい願う，あなたの僕らをあらゆる災いから救い，まったき心よりあなたにこう歌えるように，〈めでたし，神の染みなき許婚者よ〉と」。

イコス「玉座に立つ天使は天より遣わされ，神の母にこう挨拶した。〈めでたし！〉　そしてわれらが主よ，まだ受肉以前のあなたを目にし，驚嘆して立ち尽くし，内的な声で次のように彼女に挨拶した。〈めでたし，あなたを通してわれらのうちに喜びがもたらされる。めでたし，あなたを通して呪いがなきものとされる。めでたし，あなたを通して，倒れていたアダムが新たな生命に招かれる。めでたし，あなたを通してエヴァが涙から解放される。めでたし，高みにして深み，それは天使の眼も見通しえない。めでたし，あなたは天の王の玉座。めでたし，あなたは万物を保つ主を宿す方。めでたし，星よ，あなたは先んじて太陽を示される。めでたし，あなたを通して被造物が刷新される。めでたし，あなたを通してわれらは膝をかがめて創造主をあがめる。めでたし，染みなき神の婚約者！〉」。

光の歌は，先に復活用，続いて祝日用であった（ウ28）。

光の歌①「肉においては，われらの主にして王よ，死者として眠りに就きつつ，あなたは三日目に復活し，アダムを腐敗から呼び覚まし，死を打ち滅ぼされた。不死なる過ぎ越しよ，世の救いよ」。

「栄光は」「今も」

光の歌②「天使の力の率い手を，全能の神は染みなきおとめの許に遣わし，彼女に驚くべく言葉に尽せぬ不思議な知らせを告げさせた。〈神が人として，種なくして彼女より生まれ，人類を新たにする〉と。人々よ，世の刷新を寿ぐがよい！」

続いて「すべての霊は」（ウ29）をはさみ，先句スティヒラであるが，これ

は前半に復活期用，後半に祝日用を用いた（ウ30）。

（先句⑥）「これは，主のすべての聖なる者たちの栄光」

「すべての民よ，来たれ。恐るべき秘義の力を理解するがよい。われらの救い主キリスト，初めにあって御言葉なる方が，われらのために十字架に付けられ，意志により葬られ，死者のうちから復活された，われらを救うために。それゆえわれらは彼を崇める」

（先句⑤）「主を讃えよ，その聖所にあって，彼を讃えよ，天の力強き蒼穹にあって」

「主よ，いにしえの者たちはあらゆる奇跡を語った。しかし不信なる者たちの集いは，贈り物をもって彼らを買収し，あなたの復活を秘すようにさせた。世はその復活を讃える。主よ，われらを憐れみたまえ」

（先句④）「力強く主を讃えよ，大いなる群れを成して主を讃えよ」

「あなたの復活の知らせを受け，万物は喜びに満たされる。マーリア・マグドルナは墓に着くと，光り輝く天使が墓石の上に座っているのを目にした。天使は彼女に語りかけ，こう言った。生ける方を死者たちの間に何故探すのか？かつて語っておられたように，主はあなた方に先んじてガリレアにおられる」

（先句③）「ラッパの音で主を讃えよ。竪琴とツィタラで主を讃えよ」

「大天使ガーボルは天の高みより降り，ナザレトのおとめマーリアの許にやって来ると，彼女にこう言った。〈めでたし，あなたは御子を宿しておられる。アダムよりも昔よりおられ，永遠性の創造主で彼ら祖先の解放者である方を。彼らはあなたに向かってこう叫ぶ。「めでたし，染みなき方よ」と〉」

（先句②）「太鼓を打ち，聖歌隊で主を讃えよ。輪になって，楽器を打ち鳴らして主を讃えよ」

「大天使ガーボルは天よりおとめマーリアに喜びの知らせをもたらし，こう叫んだ。〈めでたし，あなたはその胎に，あなたによって宿されうる御子を抱いておられる。この方は全世界も宿すことができぬ方。あなたは父より，夜明けの星に先駆けて光を放つ救い主をお産みになる〉」

（先句①）「音の巨大なシンバルを鳴らして主を讃えよ。シンバルの陽気な音で主を讃えよ。すべての霊は主を讃えよ！」

「すべての霊の上なる御言葉が，肉においてあなたのうちに宿られた。神の母なるおとめよ，父は決断とともに，いにしえの呪いの下に倒れていたわれら人類を高められる。それゆえキリストの母よ，われらは天使とともにこぞってあなたに叫ぶ，〈めでたし，恩寵に満たされた方！〉と」

以下，復活祭スティヒラである。先句4に続く「麗しき過ぎ越し」まで歌ってから，「栄光は」の後，祝日用を挿入する。

（司祭　先句5）「栄光は父と子と聖霊に」

信徒「いにしえの時より隠されていた秘密が，きょうこの日，明らかにされた。神の御子が人となられる。それはか弱きものを抱くことで，われらにより善きものを与えんがため。アーダームは，いにしえの傲慢により，神にならんと欲してなりえなかった。いま神が人となる，それは人を神に向けて高め，被造物が喜び，自然が小躍りせんがため。天使が畏れをもっておとめの前に現れ，喜びのメッセージとともに彼女に挨拶する。憐れみにより肉を取られたわれらの神よ，あなたに栄光あれ！」

「今もいつも世々とこしえに。アーメン」

信徒「復活の日，われらはこの日を寿ぎ祝い，あたかも兄弟のごとく，互いに愛し合おう。復活をもって，われらの敵をも赦そう。そしてこう歌おう」。

〈キリストは死者の中から復活し，死をもって死を打ち滅ぼし，墓の中にいる者たちに生命を賜った〉（×3）。

この後「三重連祷」以下は，復活徹夜祭を参照。

C　聖体礼儀

以下，留意点のみ注記するに留める。

開祭

「キリストは復活し」司祭が1度，信徒が2度。

大連祷

第1第2アンティフォン〔主日〕

聖入歌「イスラエルの幹より出でた者たちよ，集いをなして主なる神を讃えよ」〔復活節〕

トロパール「キリストは死者の中から復活し，死をもって死を打ち滅ぼし，墓の中にいる者たちに生命を賜った」〔同〕

「栄光は」「今も」

祝日トロパール（第4調）「今日こそわれらの救いの初め，永遠なる神秘の開示。神の子がおとめの子となり，大天使ガーボルは神の恩寵を告げる。それゆえわれえらも彼とともに，神の母にこう叫ぶ。〈めでたし，恩寵満ち満てる方。主はあなたとともにおられる〉」。

司教「われらの神よ，あなたは聖なる方。父と子と聖霊よ，われらはあなた

を讃える。今もいつも」

会衆「アーメン」。

「キリストにおいて...」

プロキメン「わたしの霊は主をあがめ，わたしの霊はわが救い主なる神のうちに喜ぶ」〔復活節〕

使徒行録 2.14-21〔復活節〕

アレルヤ

聖書朗読　ルカ福音書　1.24-38〔祝日〕　のあと，24.12-35〔復活節〕を続けた。

～他は前日と同様である。

D　大晩課

復活の主日晩の晩課を参照。8調スティヒラとプロキメンのみ異なる。

スティヒラは第4調である。

⑥「主よ，もしあなたが罪に目を留められるなら，誰があなたの前に立てようか？　しかし恵みはあなたの許にある」

「われらの神キリストよ，生命を与えるあなたの十字架に休むことなく駆け寄りつつ，われらは三日目なるあなたの復活を讃える。全能の主よ，それを通してあなたは，われらの破滅に陥った人間本性を新たにされた。そしてあなたはわれらに，天に通じる道のりを開かれた，唯一祝され人を愛する方として」。

⑤「主よ，わたしはあなたの掟のゆえにあなたに希望を置く。わが霊はあなたの言葉のゆえに請い願う。わが霊は，主により頼む」

「わが救い主は，和解の木により，裁きをなくされた。なぜなら全能の主よ，あなたは自ら十字架の木に付けられ，黄泉に降ってその鎖を打ち砕かれたのだ。それゆえわれらはあなたの死者からの復活をたたえ，喜びをもってこう叫ぶ。〈全能なるわれらの主よ，あなたに栄光！〉」。

④「朝の見張りのときから夜更けまで，イスラエルは主により頼む」

「主よ，あなたは黄泉の門を打ち破り，自らの死をもって死の王国を打ち砕いて，人類を破滅から解放された。世に生命と豊かな恵みを賜って」。

③「憐れみは主にあり，贖いは主にあって豊か。主はイスラエルをすべての悪から解放される」（ここから第6調）

「民よ来たれ，救い主の三日目なる復活を歌おう。それを通してわれらは黄泉の打ち勝ちがたき桎梏から解放され，不滅性と生命を獲得した。皆うちそろ

ってこう叫ぼう。〈十字架に付けられ，葬られ，復活された方よ，あなたの復活を通してわれらを救いたまえ，唯一人を愛する方として〉」。

②「すべての国民は主を讃えよ，すべての民よ，彼を讃えよ」

「救い主よ，天使と人間たちはあなたの三日目なる復活を讃える。この復活を通じて，大地はすべての果てまで照らされ，われらは敵への奉仕から解放された。われらはこう叫ぶ。〈あなたの復活を通して，われらを救いたまえ，唯一人を愛する方として〉」。

①「主の憐れみはわれらの上に増し，彼の正義はとこしえに留まる」。

「われらの神キリストよ，あなたは地獄の門を打ち破り，虚無を亡きものとし，倒れていた人類を立ち上がらせた，それゆえわれらは声を一つにしてこう述べる。〈死者のうちから復活した方，主よ，あなたに栄光！〉」

A「栄光は父と子と聖霊に」

「主よ，父よりのあなたの誕生はあらゆる時間に先立ち永遠，おとめよりなされたあなたの受肉は言葉に尽しようもなく，人智を超えて理解しがたい。黄泉へのあなたの降下は，悪魔とその宣揚者には驚くべきこと，なぜならあなたは死を打ち滅ぼし，三日目なる復活によって，虚無からの復興と豊かな恵みを与えた」。

B「今もいつも世々とこしえに」

（大ドグマティコン）「神にもまごう預言者ダーヴィドは，あなたについて，あなたを高きものとする神に語りかけ，歌の中でこう述べた。〈王妃はあなたの右の座に立つ〉。あなたから父なく生まれることを受諾された神は，あなたを生命の母また執り成し手として選んだ。こうして主は，罪によって破滅に陥った神の像を新たにし，失われた羊の群れを探し出し，その肩に担ぎ，父の許に戻し，天の力をもって一つにし，力あり豊かな恵みを垂れる方として，世を救われる」。

第4調先句スティヒラ第1句「主よ，あなたは十字架に昇り，いにしえの呪いを滅ぼし，黄泉に降って，永遠の桎梏に定められていた者たちを解放し，人類に不死性を賜った。それゆえわれらは歌をもって讃える，生命を与え，救いをもたらすあなたの復活を」。

以下，復活祭スティヒラとなり，復活主日当日の晩課（復活の月曜日の前晩晩課）と同様である。

以上をもって受難週から光の週にかけ，司教座聖堂で組まれた特別スケジ

ュールは終えられた。

第3章　「光の週」の意味

Ⅰ　「光の週」の時課（四つの時課に共通）

さて，光の週には時課の内容がすべて同一となる。まず「光の週」における時課の構造を示すことにしよう。これは，マーリア・ポーチの聖バジリオ女子修道会のシスター，シャロルタ・バズィリア OSBM より得られた情報であり，マーリアポーチヴァージョンといえる[5]。

「われらの神は永遠に讃えられる，今もいつも世々とこしえに」　「アーメン」

○「天使は恩寵満ち満てる方に叫ぶ。いとも浄らかにして聖なるおとめよ，喜べ。繰り返して言う，喜べ。あなたの子は三日目に墓より復活した。そして死せる者たちを復活させた。あなたがたはともに祝うがよい」

○「喜び踊れ，天上のエルサレムよ，主の輝きはあなたの上に照り映える。新しきシオンの山よ，さあ喜び，歓喜するがよい。そして浄らかなる神の母よ，あなたの御子の復活に喜びたまえ」

「われらの聖なる師父たちの祈りによりて，われらの神，主なるイエスよ，われらを憐れみたまえ」

○「キリストは死者のうちから復活した，死をもって死に打ち勝ち，墓に眠る者たちに生命を賜った」（× 3）

「キリストの復活を目にし，われらはただ一人罪なき主イエスを崇敬する。あなたの十字架を前に，われらはキリストにぬかずき，あなたの聖なる復活を歌い寿ぐ。あなたはわれらの聖なる神，あなたを措いてわれらは他のものを知らず，ただあなたの名を唱える。すべての信徒よ，来たれ。われらはキリストの聖なる復活に身をかがめよう。見よ，十字架を通じて全世界の喜びが到来する。絶えず神を祝しつつ，われらは主の復活を歌う。主は磔刑の苦難を忍び，死をもって死を打ち滅ぼした」

「マーリアとともにいた女性たちは，朝まだきに家を出て，墓に置かれていた石が取り除けられているのを目にし，天使より次のような言葉を聞いた。永遠の光のうちにおられる方を，何故人間として，死者のうちに探すのか。墓での出来事を見て，急いで行って世に告げよ。主は死に打ち勝って復活した。ま

ことに彼は，人類を救う神の子であるから」。

「不死なる方よ，あなたは墓へと降られたが，黄泉の力を打ち砕いた。そして，神なるキリストよ，あなたは勝利をおさめる者として復活し，油を携える女性たちにこう告げた，〈喜びなさい〉。そして使徒たちに平安を授け，倒れていた者たちを立ち上がらせた」。

「わがキリストよ，あなたは墓にあっては肉の上で，黄泉にあっては神として霊的に，楽園にあっては盗人と，玉座にあっては父そして聖霊とともにあった。限られえぬ方として，すべてを満たしつつ」。

「栄光は父と子と聖霊に」。

「あなたの墓は，あなたがどれほどの生命の与え主で，楽園よりもどれほど絢爛で，どんな王の広間よりも輝かしきものであるかを明らかにした。わがキリスト，われらの復活の泉よ」。

「今もいつも世々とこしえに」。

「あなたはいと高き方の神的な幕屋，めでたし，神の母よ，あなたに助けを求める者たちは，あなたを通して喜びを手にした。あなたは女性のうちで祝された方，まったく染みなき，われらの偉大なる女性よ！」

「主よ憐れみたまえ」（×40）

「栄光は父と子と聖霊に」

「今もいつも世々とこしえに」

「ケルビムよりも尊く，セラフィムよりも類いようもなく栄えある方，あなたは神を，御言葉を，陣痛なくお産みになった。真なる神の母よ，われらはあなたを誉め歌う」

「われらの聖なる師父たちの祈りによりて，われらの神，主なるイエスよ，われらを憐れみたまえ。アーメン」

「キリストは死者のうちから復活された。死をもって死に打ち勝ち，墓に眠る者たちに生命を賜った」（×３）

Ⅱ　「光の週」の晩課・朝課の構造

先に復活の月曜前晩晩課の項に記したように，「光の週」には，晩課・朝課で歌われるスティヒラの「調」の構成が，年間を代表するかたちで一巡する。

晩課のうち「主よあなたに後」のスティヒラは，年間主日であれば７ヶ用いてその後に当該日聖人より３ヶスティヒラを歌い，「栄光は」「今も」のあとに「大ドグマティコン」へと戻る。しかし光の週には週日であることを表すため

に6ヶスティヒラを歌い，7ヶ目を「栄光は」のあとに，そして「今も」のあとに「大ドグマティコン」を歌う。復活の主日当日の晩課は翌日扱いとなるため月曜，すなわち週日であり，このシステムは一週間持続可能である。

ではまず，本文中では暦日の関係で「お告げの主日」の典文が入り込んでいた2008年度から一般化する意味で，8調書の典文をそれぞれの調ごとに訳出する。光の週では用いられることのない第7調もここに含めて訳出する。

〔第1調〕

〔土曜日晩課スティヒラ〕

1「われらの夕の祈りを，聖なる主よ，受け入れたまえ。そしてわれらの罪の赦しを与えたまえ。あなたは復活をわれらに明らかにされた」。

2「民よ，シオンを求めよ。その城壁を取り囲め。そこで死者の中から復活した救い主を讃えよ。彼はわれらの神，われらを罪から贖う方！」。

3「おお民よ。来たれ。われらは歌い，キリストを熱心に崇めよう。その死者からの復活を讃えて。彼はわれらの神，世界を悪の欺きから救われた方！」

4「天よ喜べ，地の礎よ響め，山の頂よ，踊るがよい。見よ，エンマヌエルがわれらの罪を十字架に釘付けとし，死を打ち滅ぼしてわれらに生命を与えられた。そして主は，人を愛する方として，アーダームをその墓からよみがえらせた」。

5「肉においては十字架に自らの意志で付けられ，苦しみを経て葬られ，死者のなかから復活した救い主をわれらは歌う。こう叫びながら。〈キリストよ，真なる信のうちにあなたの教会を強めたまえ。そして善性に満ち人を愛する方として，われらに平安なる生命を与えたまえ〉」。

6「生命を付与するあなたの墓の前に，われらは相応しからずも立ち，あなたの言葉に尽せぬ恵み深さを讃える，われらの神なるキリストよ！　あなたは罪なきままに十字架と死を担い，人を愛する方として，世に復活を賜った」。

「栄光は」「御父と同様に初めを持たず，御父と等しく永遠の生命をもつ御言葉は，表現しつくせぬ仕方で，おとめの体より肉を自らに受け，われらのために自ら十字架上の死を耐え忍び，栄光を帯びて復活された。われらはこう叫びつつ歌う。〈生命を与えるわれらの主，われらの霊の救い主よ，あなたに栄光！〉」。

「今も」「人類から芽吹いたこの世の栄光，神の母，天の門，天使らの誉れにして信徒らの誇りなるおとめマーリアを，われらは歌う。なぜなら彼女は神性

の天にして幕屋となったのだから。聖母はいにしえの敵意を打ち砕き，われらに平安をもたらし，われらの前に天の王国を開かれた。信は彼女のうちに力を獲得し，かつ彼女より生まれたわれらの主において，われらの守り。だから，あなたがたは委ねるがよい，神の民よ，委ねよ。なぜなら聖母は，力に満ち溢れる方として敵意に打ち勝ったのだから」。

〔土曜日晩課先句スティヒラ〕

1「あなたの受難によって，キリストよ，われらは苦難より解放された。あなたの復活によって，われらは腐敗からのがれた。主よ，あなたに栄光！」

○カティズマーリオン「われらの救い主よ，あなたの墓を守る兵士らは，現れた天使のまばゆい光に打ち倒される。天使は婦人たちに，栄光に満ちたあなたの復活を告げる。それゆえわれらはあなたを，虚無に対する征服者として讃え，死者のうちから復活した唯一なるわれらの神としてあなたに額づく」。

〔主日朝課讃美のスティヒラ〕

1「キリストよ，われらは救いをもたらすあなたの受難を歌おう。そしてあなたの復活を誉めたたえる」

2「あなたは十字架を耐え忍び，死の力を打ち砕き，死者のうちから復活し，力に満ちた方として，われらの生を慰めたまえ」。

3「復活によって黄泉の力を打ち砕き，人を復活させた方，われらの神なるキリストよ，われらを相応しい者となさせたまえ，浄らかな心であなたを歌い，ほめたたえることができるように」

4「あなたの神的な現れをほめたたえつつ，われらはあなたを歌う，キリストよ。あなたはおとめより生まれ，父と変わるところはない。あなたは人として苦しみを受け，自ら十字架を背負った。そしてあたかも輝く館より進み出るかのように，世を救うために墓より復活された。主よ，あなたに栄光！」

〔第2調〕

〔土曜日晩課スティヒラ〕

1「来たれ，拝もう。父より永遠の昔に生まれ，おとめマリアより肉を受けた御言葉を。この方は自ら十字架の苦しみを受け，埋葬へと自らを委ねたのち，死者たちのうちから復活した。道を見失った者として，われらを救いたまえ」。

2「キリスト，われらの救い主，あなたはわれらに定められた罪状書きを十字架に釘付けとして無効とし，死の支配を打ち滅ぼした。われらは彼の三日目なる復活を讃える」。

3「大天使らよ。われらはキリストの復活を歌う。彼はわれらの霊の贖い主にして救い主。主は大いなる栄光を伴い，力を帯びて，再びこの世を，自ら創られたこの世を裁くために来られる」。

4「十字架に付けられ，葬られた治め主なるあなたを，天使は婦人たちにこう言って告げ知らせた。〈来て，見るがよい。主が葬られた場所を。主はあらかじめ告げておられたように，力強く復活された〉。それゆえわれらはあなたを，唯一不死なる方として拝む。生命を与えるキリストよ，われらを憐れみたまえ」。

5「あなたは十字架をもって，果実の木に由来する呪いを滅ぼし，墓を通して死の支配を覆し，復活を通して人類を照らされた。それゆえわれらはあなたに叫ぶ。〈キリスト，善性あふれるわれらの神よ，あなたに栄光！〉」。

6「主よ，あなたの前に，死の門は畏れをもって開かれ，黄泉の門番はあなたの姿を目にして，恐怖に陥る。あなたは地獄の扉を打ち砕き，鉄の鍵を無用とし，われらを闇と死の悲しみから引き出し，われらの桎梏を解き放たれた」。

「栄光は」「救いの歌を歌いつつ，われらはこう声を挙げる。〈来たれ，皆の者，主の家にあって膝をかがめ，こう言おう。「十字架に付けられ，死者のうちから復活し，父のふところに住まう方よ，われらを罪から浄めたまえ」と〉」。

「今も」「悲しみの律法は過ぎ去り，恵みの掟が到来した。ちょうど，燃える芝が燃えながらも燃え尽きないように，あなたもまた，おとめとして出産しつつおとめのまま留まり，燃える柱の代わりに真の太陽がわれらに輝き出で，モーセに代わってキリストが，われらの霊の救いとして現れた」。

〔土曜日晩課先句スティヒラ〕

1「われらの救い主キリストよ，あなたはその復活を通して，万物をすべて照らし，あなたの被造物を立て直された。全能の主よ，あなたに栄光！」。

〔主日朝課讃美のスティヒラ〕

1「主よ，すべての霊とすべての被造物はあなたを讃える。あなたは十字架を通して死を打ち滅ぼし，人類に，死者のうちからの自らの復活を示された。唯一人を愛する方として」。

2「ユダヤ人たちをして語らしめよ。〈見張りの男たちがわれらの王を隠してしまった〉と。なにゆえ，墓石が生命の岩を留めおけようか。むしろあなた方は，死者を差し出すのか，もしくは復活された方に対し，われらとともにこう祈るのか。〈救い主よ，あなたの憐れみの大きさに栄光あれ。あなたに栄光〉」。

3「民は喜び，踊るがよい。墓石の上に座っていた天使がわれらの前に姿を現し，こう言った。〈キリスト，世界の救い主は，死者たちのうちから復活し，

すべての者たちを芳香で包んだ。民は喜び，踊るがよい！〉」。
4「主よ，天使はあなたが懐胎される前に，恩寵に満たされた方に祝辞をもたらした。天使は，あなたの復活に際しては，誉れあるあなたの墓から石を転がしもした。大きな哀しみに代えて喜びの様を告げ知らせて。これはすなわち，死に代えて生命を与える治め主を讃えること。それゆえわれらもあなたに叫ぶ。われらすべてに幸いをもたらす方，われらの主，あなたに栄光〉」。

〔第3調〕
〔土曜日晩課スティヒラ〕
1「救い主なるキリストよ，あなたの十字架によって死の支配は打ち砕かれ，悪魔の偽りはついえた。信を通して，人の種は歌をもて途絶えることなくあなたを讃える」。
2「主よ，あなたの復活を通して万物は照らされ，楽園は再び開かれ，すべての被造物はあなたを讃え，あなたに讃美の歌を捧げる」。
3「わたしは父と子の力を讃美し，聖霊の支配を歌いあげる。分かれずして創られざる神性，一体なる聖三位一体を。その方は世々とこしえに治められる」。
4「キリストよ，われらはあなたの尊い十字架の許に駆け寄る。そしてあなたの復活を歌い，讃美する。われらはすべて，あなたの傷を通じて癒されたのだから」。
5「わたしは，おとめより肉を取った救い主を歌う。主はわれらのために十字架につけられ，三日目に復活し，われらに豊かな恵みを与えられた」。
6「黄泉に住む者たちに，そこまで降りて来られたキリストは告げ知らせる。〈わたしを信じよ。いま，わたしは勝利をおさめた。わたしは復活であり，あなたがたを断罪より救い出し，死の門を打ち砕く〉」。
「栄光は」「浄らかなるあなたの家の前に，われらは相応しからずも立ち，夕べの歌を，われらの神なるキリストに歌う，心の深みよりこう叫んで。〈三日目の復活によって，あなたは世を照らされた。人を愛する方よ，あなたの民を，あなたに刃向かう者の手から守りたまえ！〉」。
「今も」「浄らかなるおとめよ，神的起源を持つあなたの出産に関して，われらはどうして驚嘆せずにいられようか？　おお染みなきおとめよ，あなたは人の類の誘惑を受け入れることなく，父なくして肉において御子を出産された。御子は母なくして，永遠の昔に御父より生まれた方。しかし，変化なく，混合なく，分かたれることもなく，二つの本性の特質をまったきままに留めておら

れる。それゆえわれらの王妃，おとめなる母よ，われらの霊の救いのために，主に祈りたまえ。われらあなたをまったき信もて〈神の母〉と告白する者なれば」。

〔土曜日晩課先句スティヒラ〕

1「キリストよ，あなたはその受難を通して太陽を暗くし，復活の光をもって万物を照らした。人を愛する方として，われらの夕べの歌を受け取りたまえ」。

〔主日朝課讃美のスティヒラ〕

1「すべての民よ，来たれ。恐るべき秘義の力を理解するがよい。われらの救い主キリスト，初めにあって御言葉なる方が，われらのために十字架に付けられ，意志により葬られ，死者のうちから復活された，われらを救うために。それ故われらは彼を崇める」

2「主よ，いにしえの者たちはあらゆる奇跡を語った。しかし不信なる者たちの集いは，贈り物をもって彼らを買収し，あなたの復活を秘すようにさせた。世はその復活を讃える。主よ，われらを憐れみたまえ」

3「あなたの復活の知らせを受け，万物は喜びに満たされる。マーリア・マグドルナは墓に着くと，光り輝く天使が墓石の上に座っているのを目にした。天使は彼女に語りかけ，こう言った。生ける方を死者たちの間に何故探すのか？

かつて語っておられたように，主はあなた方に先んじてガリレアにおられる」

4「人を愛する治め主よ，われらはあなたのまばゆさにおいて光を見る。あなたは死者のうちから復活し，人類に救いをもたらす。すべての被造物はあなたを，唯一罪なき方として讃える。われらを憐れみたまえ」。

〔第4調〕

〔土曜日晩課スティヒラ〕

1「われらの神なるキリストよ，あなたの生命を与える十字架に対し，休むことなくぬかずきつつ，われらはあなたの三日目なる復活をほめたたえる。この復活を通して，万能なる方よ，あなたは腐敗していたわれら人間の本性を新たにし，われらに天上界への通交を切り拓かれた，唯一人祝され人を愛する方として」。

2「わが救い主は，和解の木により，裁きをなくされた。なぜなら全能の主よ，あなたは自ら十字架の木に付けられ，黄泉に降ってその鎖を打ち砕かれたのだ。それゆえわれらはあなたの死者からの復活をたたえ，喜びをもってこう叫ぶ。〈全能なるわれらの主よ，あなたに栄光！〉」。

3「主よ，あなたは黄泉の門を打ち破り，自らの死をもって死の王国を打ち砕いて，人類を破滅から解放された。世に生命と豊かな恵みを賜って」。
4「民よ来たれ，救い主の三日目なる復活を歌おう。それを通してわれらは黄泉の打ち勝ちがたき桎梏から解放され，不滅性と生命を獲得した。皆うちそろってこう叫ぼう。〈十字架に付けられ，葬られ，復活された方よ，あなたの復活を通してわれらを救いたまえ，唯一人を愛する方として〉」。
5「救い主よ，天使と人間たちはあなたの三日目なる復活を讃える。この復活を通じて，大地はすべての果てまで照らされ，われらは敵への奉仕から解放された。われらはこう叫ぶ。〈あなたの復活を通して，われらを救いたまえ，唯一人を愛する方として〉」。
6「われらの神キリストよ，あなたは地獄の門を打ち破り，虚無を亡きものとし，倒れていた人類を立ち上がらせた，それゆえわれらは声を一つにしてこう述べる。〈死者のうちから復活した方，主よ，あなたに栄光！〉」
「栄光は」「主よ，父よりのあなたの誕生はあらゆる時間に先立ち永遠，おとめよりなされたあなたの受肉は言葉に尽しようもなく，人智を超えて理解しがたい。黄泉へのあなたの降下は，悪魔とその宣揚者には驚くべきこと，なぜならあなたは死を打ち滅ぼし，三日目なる復活によって，虚無からの復興と豊かな恵みを与えた」。
「今も」「神にもまごう預言者ダーヴィドは，あなたについて，あなたを高きものとする神に語りかけ，歌の中でこう述べた。〈王妃はあなたの右の座に立つ〉。あなたから父なく生まれることを受諾された神は，あなたを生命の母また執り成し手として選んだ。こうして主は，罪によって破滅に陥った神の像を新たにし，失われた羊の群れを探し出し，その肩に担ぎ，父の許に戻し，天の力をもって一つにし，力あり豊かな恵みを垂れる方として，世を救われる」。
〔土曜日晩課先句スティヒラ〕
1「主よ，あなたは十字架に昇り，いにしえの呪いを滅ぼし，黄泉に降って，永遠の桎梏に定められていた者たちを解放し，人類に不死性を賜った。それゆえわれらは歌をもって讃える，生命を与え，救いをもたらすあなたの復活を」。
〔主日朝課讃美のスティヒラ〕
1「われらの全能なる主よ，あなたは十字架と死を耐え忍び，死者のうちから復活された。われらはあなたの復活を讃える」。
2「キリストよ，あなたは自らの十字架を通して，いにしえの呪いからわれらを解放し，自らの死をもって，われらの人性を苛む悪魔より救い出し，自らの

復活をもって万人を喜びで満たされた。それゆえわれらはあなたにこう叫ぶ。〈死者のうちより復活したわれらの主よ，あなたに栄光！〉」。

3「われらの救い主キリストよ，どうかあなたの十字架をもって，われらをあなたの真理に向けて教え導きたまえ。そしてわれらを敵の網より救い出し，死者のうちより復活して，われらをも立ち上がらせたまえ。われらは罪ゆえに倒れた。どうかわれらに向けてあなたの御手を広げたまえ，人を愛するわれらの主よ，聖なる者たちの祈りをによりて」。

4「わが救い主よ，あなたは肉において死を蒙った，それはわれらに不死性を備えるため。あなたは墓に住まわれた，それはわれらを墓より救い出し，自らとともに復活させるため。あなたは人として苦しんだが，神として復活された。それゆえにこそ，われらはこう叫びを挙げる。〈生命を与えるわれらの主よ，唯一人を愛する方よ，あなたに栄光！〉」

〔第5調〕

〔土曜日晩課スティヒラ〕

1「キリストよ，あなたはその貴い十字架によって，悪魔を恥じ入らせ，自らの復活を通して罪の刺を鈍らせて，われらを死の門から救い出してくださった。それゆえ神のひとり子よ，われらはあなたを讃える」。

2「人類に復活を賜った方は，小羊のごとくに屠り場へと引かれていった。彼を前にして黄泉の公は震撼し，艱難の門は開く。なぜならそこに，栄光の王，キリストが入るため。キリストはこう言う，鎖につながれた者たちには〈解き放たれよ〉，そして闇のうちに住める者たちには〈永遠の闇より解放されよ〉と。」。

3「すばらしき奇跡！　目に見ることのできない業の創り主が，人間への愛ゆえに肉の上で苦しみ，不死なる者として復活された。来たれ，すべての代に生まれた者たちよ，主を崇めよう。主の恵み深さにより悪魔の冷笑より解放されて，われらは三つの位格における一なる神を讃めたたえる」。

4「決して翳ることのない光よ！　われらはあなたに夕べの祈りを献げる。あなたは時が満ちると肉を取って世に輝き出で，黄泉にまで完全に降り，そこに見出される闇を散らし，諸国の民に復活の光を示された。恵み深き主よ，あなたに栄光！」

5「われらはキリストを，われらの救いのもたらし手を讃える。主の復活によって世は欺瞞から解放された。天使の群れは喜び，悪霊の冷笑は逃げ去り，倒

れていたアーダームは起き上がり，悪魔は消え去った」。
6「警護に当たっていた者たちに，律法に悖る者どもはこう指示した。〈キリストの復活を秘密にせよ。財布を見せてこう言うのだ，《われわれが眠っている間に，墓から遺体が盗まれたのだ！》と〉。誰が見たことだろう，誰が聞いたことだろう，かつて，それも香油を塗られ裸のままの死者を，墓には葬衣を残したまま盗んでいくなどということを？　ユダヤ人たちよ，児らを偽ってはならない。預言者たちの言葉をよく調べてみるがよい。そしてよく理解せよ，彼が万能の，真なる世の贖い主であるということを」。
「栄光は」「主よ，あなたは黄泉を屈服させ，死を打ち砕いた。あなたは尊いその十字架をもって世を照らされた。甘美なる主よ，われらを憐れみたまえ！」。
「今も」「紅海はかつて，染みなき許婚の姿を描き出した。その時そこにいたのは水を二つに分かったモーゼシュ，今ここにいるのは奇跡の完遂者たる大天使ガーボル。その折，イズラエルは深みを渇いた足で渡り終え，いまやおとめが種なくしてキリストを産む。海はイスラエルの渡河以降，往来ができなくなったが，染みなきおとめは，エンマヌエルを出産した後も傷を受けることなく留まった。現存し，かつ永遠の昔より存在する主よ，あなたは人として現れた。どうかわれらを憐れみたまえ」。
〔土曜日晩課先句スティヒラ〕
1「肉を取った方，天を去ることのない救い主よ，あなたをキリストとして，われらは歌声もて崇める。あなたは人の種のために，十字架と死とを肯われた。人を愛する方として，われらの主よ，黄泉の門を打ち壊し，あなたは三日目に復活された。われらの霊を救って」。
〔主日朝課讃美のスティヒラ〕
1「主よ，悪しき者どもによって封印された墓より，あなたはまったき姿で出で立った，ちょうどおとめより生まれたときのごとくに。肉体を持たぬ天使たちは，あなたの受肉の神秘を捉えきることはできない。あなたの墓を守る兵士らも，あなたの復活の秘密を理解することはできない。どちらの出来事も，疑う者どもには神秘のまま留まる。しかし神秘の前に信をもって頭を垂れる者たちには，明らかにして明白な驚くべき業。われらの救い主よ，その力をもって，あなたに歌を捧げる者たちに喜びと豊かな恵みを与えたまえ」。
2「主よ，あなたは永遠の鍵を破壊し，足かせを打ち壊した。あなたは墓より復活し，葬礼のための衣を，三日間に及んだあなたの葬りの証拠として脱ぎ捨て，先んじてガリレアに赴いた。あなたを岩の墓に閉じ込めようと，それは無

益なこと。捉えきることのできない救い主よ，あなたの恵みは偉大，われらを憐れみ，救いたまえ」。

3「主よ，婦人たちはあなたの墓に向かって急ぐ，われらのために苦しまれたキリストを見ようと願って。そして着いてみると，転がされた墓石に天使が座っているのを見つけた。天使は彼女たちに向かってこう言った。〈主は復活された！　あなたがたは弟子たちにこう告げなさい，《主は死者のうちから復活し，われらの霊を救われた》と〉」。

4「主よ，あなたは，封印された墓より立ち上がられたのとちょうど同じように，閉ざされた扉を通り抜けて弟子たちの間に進み来られた，肉体にできた受難の徴を彼らに示しつつ。救い主よ，それらの徴は，長きにわたるあなたの忍耐によって，自ら帯びられたもの。あなたはダヴィドの裔として傷を帯び，神の御子として世を贖われた。あなたの恵みは偉大，捉え尽くすことのできない救い主よ，われらを憐れみ，われらを救いたまえ」。

〔第6調〕

〔土曜日晩課スティヒラ〕

1「キリストは黄泉の上に勝利をおさめ，十字架に昇って，死の闇に座せる者たちを自ら復活させた。あなたは死を免れた方。あなたは，自らの光をもって生命を注がれた。万能の救い主よ，われらを憐れみたまえ」。

2「きょう，キリストは死を打ち砕き，仰せのとおりに復活して，世に喜びをもたらした。われらはすべて声を挙げて，こう歌う。〈おお，生命の泉よ，近づきがたき光よ，万能の救い主よ，われらを憐れみたまえ〉」。

3「いかなるところにもおられるあなたの御顔を前にして，われら罪人はどこに逃れよう？　天にはあなた自らがおられ，黄泉であなたは死を打ち砕かれた。あるいは海の深みに逃れようか？　ここにも，治め主よ，あなたの御手の徴がある。われらはあなたの許に逃れ，あなたの前に身を屈め，こう祈ろう。〈死者のうちより復活された方よ，われらを憐れみたまえ〉」。

4「キリストよ，われらはあなたの十字架を誇りとし，あなたの復活を歌い，讃える。あなたこそわれらの神，あなたをおいてたの神を，われらは知らない」。

5「われらは常に主を祝し，主の復活を歌う。主は十字架を耐え忍び，死をもって死を滅ぼした」。

6「主よ，あなたの力に栄光あれ。あなたは死の支配の力に打ち勝ち，十字架を通してわれらを新たにされた。われらに生命と永遠の安寧を賜って」。

「栄光は」「主よ，あなたの葬りは，黄泉の鎖を解き放ち，打ち砕いた。そしてあなたは死者からの復活によって，世を照らされた。われらの主よ，あなたに栄光！」。

「今も」「おお，浄らかなるおとめよ，誰があなたを祝さずにいられようか？　あなたのいとも浄らかなる出産を，誰が讃えずにいられようか？　御父から永遠の昔より発した御一人子は，理解しつくせぬ仕方で肉を受け，あなたより生まれた。主は神的本性を保持したまま，同時に人間の本性をも帯びた。われらは彼を，分かたれた二つの位格とは告白せず，むしろ互いに混じり合うことなき二つの本性の主だと認識する。浄らかなる幸いなおとめよ，主に祈りたまえ，われらの霊を憐れみたまえと」。

〔土曜日晩課先句スティヒラ〕

1「われらの救い主なるキリストよ，あなたの復活を，天上にて天使らは歌う。どうかこの世にあって，われらもまた，浄らかな心もてあなたを歌い，讃えさせたまえ」。

〔主日朝課讃美のスティヒラ〕

1「主よ，あなたの十字架はあなたの民の生命にして復活。われらはそのうちに希望を置きつつ，あなたをわれらの復活した神として歌う。われらを憐れみたまえ」。

2「われらの治め主よ，あなたの埋葬は人類に楽園を拓き，われらは腐敗より解放されて，あなたを，復活した神として歌う。われらを憐れみたまえ」。

3「御父，聖霊とともに，われらは死者のうちより復活されたキリストを歌う，こう叫びを挙げながら。〈あなたはわれらの生命にして，われらの復活。われらを憐れみたまえ〉と」。

4「キリストよ，あなたは書に記されたとおり，三日目に復活し，古の師父たちをもよみがえらせた。それゆえ人類はあなたを讃美し，あなたの復活を讃めたたえる」。

〔第7調〕（参考まで）

〔土曜日晩課スティヒラ〕

1「来たれ，われらは主にあって喜ぼう。主は死の猛威を打ち砕き，人類に光を与えた。われらは天使らとともにこう叫ぶ。〈われらの創り主にして救い主よ，あなたに栄光！〉」。

2「救い主よ，あなたは十字架と葬りとをわれらのために耐え忍び，神として，

死をもって死に打ち勝った。それゆえわれらは，あなたの三日目なる復活に頭を垂れる。主よ，あなたに栄光！」。

3「使徒たちは創り主の復活を目にして驚嘆し，天使たちは讃美を声高らかに宣べる。〈この栄光は母にして聖なる教会のもの，この豊かさは天国のもの〉。主よ，あなたはわれらのために苦しまれた，あなたに栄光！」。

4「キリストよ，あなたは悪しき者どもに囚われる身となったが，あなたこそわが神，わたしはあなたを恥としない。あなたは鞭打たれたが，わたしはあなたを否まない。あなたは十字架に付けられたが，わたしはそれを秘密とはしない。わたしは常にあなたの十字架を誇る。あなたの死はわたしの生命，万能にして人を愛する主よ，あなたに栄光」。

5「キリストはダーヴィドの予言を満たそうと欲して，シオンの山にて彼に相応しき崇高さを弟子たちに明らかに示し，御父および聖霊とともに常に讃えられ崇敬さるべき本性として自らを開示し，初めは肉を伴わぬ御言葉として，最後にはわれらのために肉を取り苦難を被る人としてわれらにその姿を示し，人を愛する方として，自らの力をもって復活された」。

6「キリストよ，あなたは自ら望むままに黄泉に降り，神また治め主として死を打ち滅ぼし，三日目に復活して，アダムをも死と虚無の鎖から解き蘇らせた。アダムはあなたに向かい，こう叫んで述べる。〈唯一人を愛する方よ，あなたの復活に栄光！〉」。

「栄光は」「われらの主よ，あなたは眠れる者として墓に収められたが，その力において満ち溢れ，三日目に復活された。そして自らとともにアダムをも，万能の神として死の腐敗より立ち上がらせた」。

「今も」「おお神の母よ，あなたは母の身分を，自然の秩序を越えて知り，しかも処女に留まられた，知性をも言葉をも超えた仕方で。そしてあなたの出産の不思議さは，舌が語りつくすことはできない。おお浄らかなる方よ，あなたの懐妊は栄光に満ち，その出産も理解を超える。神は望まれるところで，自然本性的な秩序に打ち勝つことができる。それゆえにこそ，われらはすべて，あなたを神の母と認め，篤き心をもってあなたに願う。われらの霊の救いのために祈りたまえ」。

〔土曜日晩課先句スティヒラ〕

1「世の救い主よ，あなたは墓より復活し，自らの肉体とともに人の種を復活させた。主よ，あなたに栄光！」

〔主日朝課讃美のスティヒラ〕

1「キリストは死者のうちから復活し，死の縛めを解き放ち，世に大いなる喜びを告げ知らせた。天よ，神の栄光を歌うがよい」。
2「キリストの復活を目にして，われらは聖なるわれらが主をあがめる。唯一罪を免れた方として」。
3「われらはキリストの復活を崇敬することを止めない。主はわれらの悪よりわれらを救い出してくださった。キリストよ，われらの聖なる主よ，あなたはわれらのために，復活を公けにして下さった」。
4「主がわれらに下さった恩に，どのようにして感謝を表そうか。われらのため，腐敗に陥ったわれら人類の本性のために，御言葉は肉となり，われらのうちに住まわれた。主は，感謝を知らぬ者たちへの慈善者，囚われの身にある者たちの解放者，闇に座せる者たちにとっての真理の太陽となられた。十字架には和解があり，黄泉には光がある。死には生命があり，倒れていた者たちには復活があり，主に向かってわれらはこう叫びを挙げる。〈われらの神よ，あなたに栄光！〉」。

〔第8調〕
〔土曜日晩課スティヒラ〕
1「キリストよ，われらは夕べの歌を歌い，知的な奉仕をあなたに捧げる。あなたは自らの復活を通して，恵み深くわれらを憐れんで下さった」。
2「主よ，主よ！　われらをあなたの御顔の前から遠ざけず，恵み深くわれらを憐れみたまえ，あなたの輝かしき復活を通して」。
3「聖なるシオンよ，教会の母，神の幕屋よ，喜べ。あなたは復活によって，罪の赦しをまず最初に受け取った」。
4「御父より永遠の昔に生まれた神の御言葉は，時が満ちると染みなきおとめより肉を受け，自ら十字架と死とを耐え忍ばれた。そしていにしえより死のために苦しめられていた人間を，復活によって救った」。
5「キリストよ，われらは死者の中からの復活を讃える。あなたは復活をもってアーダムの裔を黄泉の責め苦より救い出し，神として，世に永遠の生命と豊かな恵みを賜った」。
6「われらの救い主なるキリスト，神の御一人子よ，あなたに栄光あれ！　あなたは十字架に釘付けとされ，三日目に墓より復活された」。
「栄光は」「主よ，われらはあなたを讃える。あなたはわれらのために，自ら十字架刑を耐え忍んだ。万能の救い主よ，われらはあなたを崇める。どうかわ

れらをあなたの御顔の前より遠ざけたもうな。むしろ，おお人を愛する方よ，われらに耳を傾け，あなたの復活によってわれらを救いたまえ」。
「今も」「天の王は人間への愛により地に降り，人の間に住まわれた。あなたは浄らかなるおとめより肉を受け，かくも不思議なる神性を帯びて，彼女より生まれた。御子は一人，二つの本性を持ち，しかも二つの位格ではない。それゆえわれらの主なるキリストを，われらは完全なる神にして完全なる人と真に告白し，告げ知らせる。おお，咎なき母よ，主に執り成したまえ，われらの霊を救いたまえと」。
〔土曜日晩課先句スティヒラ〕
1「天より降られたあなたは，十字架に昇り，不死なる生命であるあなたは，死へと赴かれた。真なる光であるあなたは，闇に横たわる者たちの許を訪ね，われらすべての復活であるあなたは，倒れていた者たちを訪れた。あなたは光をもたらす方にして救い主，あなたに栄光！」
〔主日朝課讃美のスティヒラ〕
1「主よ，あなたは裁きの座の前に立ち，ピラートに裁かれるとはいえ，御父とともに座す王の座を去ったわけではない。そして死者のうちからの復活によって，世を悪魔の桎梏から解放された，憐れみ深く人を愛する方として」。
2「主よ，あなたは悪魔の嫉みに抗して武装し，われらに十字架を賜った。悪魔は十字架に身震いし，震撼して，その力にあえて目を向けることができない。十字架こそ，死者たちを蘇らせ，死を無に帰さしめるもの。それゆえわれらは，あなたの葬りと復活とを崇敬する」。
3「主よ，ユダヤ人たちは，あなたを死した者として墓に収めたが，立ち上がる王として兵士らは守りを固め，生命の宝庫として封印もて見張る。それにもかかわらず，あなたは復活し，永遠の生命をわれらの霊に賜った」。
4「主よ，あなたの天使は，復活を告げ知らせつつ，墓守たちを震撼させた。だが婦人たちには，見よ，次のような言葉をかけた。〈あなた方は，生ける方をなぜ死者のうちに探すのか。主は神として復活し，世に生命を賜った〉」。

さて，先の表の晩課の部分で，「〈主よあなたに〉の後」とある8連の讃歌の末尾にある聖母讃歌は「大ドグマティコン」と呼ばれ，一方「先句スティヒラ」の末尾にある聖母讃歌は「小ドグマティコン」と称される。前者は光の週の祈祷のうちに取り込まれるが，光の週には直接唱和されることのない後者についても，「先句スティヒラ」から初句が採られることで，その存在を想起させる

構造になっていると言えよう。

聖土曜日には，晩課に接続してバジル典礼が執り行われる。したがって，晩課は通常スティヒラ箇所を二個有する（「スティヒラ」と「先句スティヒラ」）のに対し，この日は前半部の「スティヒラ」しか現れない。この「スティヒラ」部を8個より成る〈中祝日〉と位置づけ，そのうち1個〔4番目〕に第1調の先句スティヒラを配する。これによって，翌日つまり復活の主日の晩課において，第2調の先句スティヒラが歌われるのと連続性を呈することになり，聖土曜日が復活と光の週を早くも志向することが象徴的に表現されている。

そして「光の週」には，年間を通じての晩課，および年間週日の朝課に置かれている「先句スティヒラ」の部分に，「復活祭スティヒラ」が毎日歌われる。その歌詞は本文中に示したとおりである。

すなわち，①「光の週」の晩課では，年間の主日前晩「先句スティヒラ」各調のものの初連のみが第1「先句」の前に置かれ，後は通常の「先句」を挿みながら4つの「復活スティヒラ」が歌われる。②朝課では，年間の主日には「讃美のスティヒラ」が8連続くが，週日にはこれに代えて通常「先句スティヒラ」が4連歌われるところを，「光の週」には，年間の「讃美のスティヒラ」各調より初めの4連が採られ，これに続けて4つの「復活スティヒラ」が歌われる。

これにより

あ）「光の週」が週日でありながら，復活を寿ぐ主日の性格を併せ持ち，キリストの復活が曜日の交替を撤廃したこと

い）晩課・朝課でともに「復活のスティヒラ」が歌われることで，キリストの復活が夜昼の差異を撤廃したこと

う）（晩課・朝課以外に）日中の時課の内容がすべて同一となるため，時間が均質となること

え）「光の週」を通じ，年間の8調が（第7調を跳ばすが）一巡することで，この週に宇宙的循環が集約されていること

などが象徴的に表現されることになる。そして結局

お）キリストの復活とは，この世の時間を超えて永遠に持続する生命の始まりであること

がここで示されることになる。

これは「復活とは何であるのか」という問いに対するビザンティン思想による回答を表したものにほかなるまい。そしてこのシステムが完成されるのは，「復活祭のカーノン」を作詞したダマスコのヨハネたちによる讃歌作成活動と

いう歴史的経緯を経て，9世紀のストゥディオス修道院における総括の時期であった（注(1)を参照)。

第4章　朝課の構造

Ⅰ　朝課の基本構造

では次に，四旬節・復活節を通じて多様な構造を示す朝課に注目することにしたい。以下に，拙稿(1)で示した朝課の基本構造を示そう。

1開祭　2ヘクサプサルモス（詩篇）　3大連祷　4〈主は神〉　5トロパール　6カティズマ　7小連祷　8カティズマーリオン　9多憐歌　10復活讃歌　11昇階唱　12プロキメン　13福音朗読　14〈キリストの復活を目にして〉　15詩篇第50篇　16福音接吻スティヒラ　17連祷　18カーノンⅠ-Ⅲ歌　19イパーコイ　20カーノンⅣ-Ⅵ歌　21コンターク　22イコス　23カーノンⅦ・Ⅷ歌　24Ⅷ歌カタヴァースィア前先句　25カーノンⅨ歌前讃歌　26カーノンⅨ歌　27〈主は聖〉　28「光の歌」　29〈すべての霊は〉　30讃美スティヒラ（4～8）　31福音スティヒラ　32大栄唱〔週日は小栄唱〕　33〔週日は先句スティヒラ〕　34〈聖なる神〉　35トロパール　36三重連祷　37完遂連祷　38閉祭

以下，聖金曜日朝課，聖土曜日朝課，復活週間の朝課，の順に構造を比較してみよう。

A　聖金曜日の朝課

上の表に関して，4には「主は神」ではなく，「アレルヤ」が来る。これは四旬節期間中の特徴である。5トロパールは同一の歌を「栄光は」「今も」を介して計3度繰り返している。また8カティズマーリオンは通常，6カティズマが複数置かれる間に2個ないし3個あるはずであるが，計5個ある。19イパーコイはないが，これは，受難節期間中に用いられる「トリオーディオン」の形式を採っているためである。第6朗読の後にプロキメンがあるが，これは12のプロキメンと並行する。第7朗読の後に詩篇50篇があるが，これは15に並行する。通常カーノン第6歌のうしろにある21コンターク，22イコスは第8朗読の後，カーノン第5歌の後にある。これもトリオーディオン式構造のゆえである。

本文翻刻中に書き加えたように「トリオーディオンの規定は，月曜に第1歌，火曜に第2歌，水曜に第3歌，木曜に第4歌，金曜に第5歌を歌う。土曜はテトロディオン（4歌カーノン）ゆえ第6，7歌を歌う。毎日第8，9歌は歌う」

とあり，この日は金朝扱いであった。28光の歌は第8朗読の後，カーノン第9歌の後にあり，27「主は聖」はない。通常29「すべての霊は」の後に来る30讃美スティヒラが第9朗読の後に4つ，32小栄唱と37完遂連祷が第10朗読の後に来る。完遂連祷がこの位置に来るのはやはり四旬節中のトリオーディオン形式の特徴である。そして第11朗読の後に33の先句スティヒラ，第12朗読の後に34，35，36が続く。

以上の構造的特徴は，聖金曜朝課がトリオーディオンの構造を採っていることを明らかにする。すでに四旬節はラザロの復活の土曜日で終了しているが，聖金曜日はあらためて四旬節の意味を再確認する意味を担っていると言える[6]。

B　聖土曜日の朝課

先の表に関して，聖土曜日朝課では，すでに4には「主は神」が来る。5のトロパールも，聖金曜日朝課とは異なり「栄光は」「今も」を介して異なった歌詞を用いる。そして通常なら6カティズマが唱えられるところ，その代わりに「エンコーミア」の「スターツィオ」と呼ばれるものが置かれ，第3スターツィオまである。そして聖土曜日には10「復活讃歌」が置かれ，そのあと15に当たる詩篇50篇の前にカティズマーリオンが置かれる。詩篇50篇につづき，福音接吻スティヒラはなく，直ちにカーノンに移り，Ⅲの後にカティズマーリオン，Ⅵの後にコンタークとイコスがあり，これはすでに四旬節の「トリオード」形式を脱している。カーノンの後27「主は聖」に移り，「光の歌」はなく，30讃美スティヒラに移る。32大栄唱と36三重連祷の間に三つの聖書朗読〔旧約，使徒，福音〕が置かれる。これは35トロパールに該当するところである。そして先句スティヒラがないのは，これが週日ではないことを表している。

このように聖土曜日の朝課は，キリストの復活こそいまだなされていないものの，既に復活を予示する内容で統一されている。これはバジル典礼を伴った同日の晩課にあって，福音書朗読の際の司祭の式服の色彩が，赤から白に一変することにも象徴される。

C　復活週間の朝課

復活祭に始まる復活週，すなわち「光の週」には，朝課の構造が次のように単純化する。

①開祭　②先句＋〈キリストは復活し〉　③大連祷　④復活カーノンⅠ-Ⅲ歌　⑤イパーコイ　⑥復活カーノンⅣ-Ⅵ歌　⑦コンターク　⑧イコス　⑨

〈キリストの復活を目にして〉　⑩復活カーノンⅦ・Ⅷ歌　⑪Ⅷ歌カタヴァスィア前先句　⑫復活カーノンⅨ歌前讃歌　⑬復活カーノンⅨ歌　⑭「光の歌」　⑮〈すべての霊は〉　⑯讃美スティヒラ　⑰「復活祭のスティヒラ」　⑱三重連祷　⑲完遂連祷　⑳閉祭

冒頭部では「復活句」を司祭と信徒で計3度繰り返したあと，先句に続いて「復活句」を計7度繰り返す計算になる。これは2ヘクサプサルモスの〈7〉を模しているのかもしれない。3大連祷の後，18カーノンまで飛ぶ。

カーノンに関しては，1オード・1トロパールごとに復活句を繰り返し，また小連祷を挿む。特に注目されるのは，光の週にあっては，カーノン部第6歌の後，コンタークとイコスの次に「シュナクサーリオン」にあたる部分として14「キリストの復活を目にして」の句が唱和されることである。そして曜日により変化する讃美スティヒラ4個に，一定の「復活祭のスティヒラ」4個分が加えられて「スティヒラ」が構成され，「復活祭スティヒラ」は晩課・朝課ともに同一であり，これは既に確認したとおりである。

第5章　パラクリスと朝課

以上のように，受難週から復活週にかけて，朝課の構造は意義深く変遷する。そこで次に，朝課の原理的考察に移ることにしよう。朝課がビザンティン典礼において，特に重要な意義を担っていることは確認できたが，これはローマ典礼が，聖金曜日にすら聖体拝受を設定するようになったことに象徴されるように，聖体礼儀に特化する展開を辿るのとは対照的である。ビザンティン典礼にあって朝課は，聖体拝受を伴わない「献納式」（シュナクサーリオン）の構造を留めている[7]，その意味でビザンティン典礼は，そもそも年間の頂点に位置づけられる復活徹夜祭が朝課であることを再認識させるものである。

このように多様な構造を秘める朝課であるが，聖週間の朝課と「光の週」の朝課は，外見上大きな隔たりを呈している。これらを統一的に理解するために，本稿では一つの試みとして「パラクリス」と呼ばれる聖母記念のための祈祷文を提示し，ここから受難週・復活週双方に展開可能なシェーマを示して，朝課の構造的な把握に努めたいと考える。

「パラクリス」は，西方中世に起源を有し民衆の信心活動として現在でも篤い実践をみる「ロザリオ」になぞらえられ，「東方典礼におけるロザリオ」とも称される。一年のうち，特に5月と10月に実践が奨励されるものの，基本的

には一年のうちいかなる時期にも，また一日のうちどの時間帯に行ってもよい，とされる。ではまず，「パラクリス」の全文を訳出することにしよう。後に考察するように，これは基本的に朝課の構造のもとに編まれた祈祷文連である。

以下パラクリスの翻刻を行うが，ハンガリー語の規範版に基づく。もとよりギリシア語，スラヴ語など諸国語により細部の相違が認められるものの，それらはもちろん，大枠において一致する。また本稿で行ってきた祈祷文の省略も，この「パラクリス」に関しては行わず，全文を翻刻することにする。

I　パラクリスのテキスト

司祭「われらの神は永遠に祝される，いにしえより今もいつも世々とこしえに」

会衆「アーメン。われらの神，あなたに栄光あれ，あなたに栄光あれ。天の王，慰め主，真理の霊，すべてに遍在し万物を満たす方，あらゆる善の泉，生命の与え主，来たりてわれらのうちに住みたまえ。われらをあらゆる穢れから清めたまえ。善き方よ，われらの霊を救いたまえ。聖なる神，聖なる力，聖なる不死なる者よ，われらを憐れみたまえ（×３；以降‘聖なる神’と省略）。栄光は父と子と聖霊に（以降‘栄光は’と省略），今もいつも世々とこしえに，アーメン（以降‘今も’と省略）。聖三位一体よ，われらを憐れみたまえ。われらの主よ，われらを罪から浄めたまえ。創造主よ，われらの罪を赦したまえ。聖なる者よ，われらを顧み，あなたの名によってわれらの病を癒したまえ」。「主よ，憐れみたまえ」（×３）。「栄光は」「今も」「主の祈り」。

司祭「国と力と栄光は，父と子と聖霊よ，あなたのもの，今もいつも世々とこしえに」

会衆「アーメン」「主よ，憐れみたまえ」（×12）。「栄光は」「今も」。「来たれ，われらの王，われらの神に祈ろう。来たれ，キリスト・われらの王，われらの神に祈ろう。来たれ，伏し拝もう，そしてイエス・キリストその方，われらの王，われらの主，われらの神に祈ろう」。

詩篇第142篇。

「栄光は」「今も」「アレルヤ，アレルヤ，アレルヤ，神よ，あなたに栄光！」（×３）。

司祭「主は神，われらを照らす方。主の名によりて来たる者は讃えられる」。

会衆（×２）。

○トロパール（第４調）「われらは罪人，卑しき者なれども，神の母の許にさ

あ急ごう，そして身をかがめ，われらの罪を改悛のうちに悔いながら，われらの霊の深みよりこう叫ぼう。〈おおわれらの王妃よ，われらを憐れみ，助けたまえ！　見よ，われらは自らの罪の海のうちに今にも沈まんばかり。どうかあなたのしもべらを，助けもなく見棄てたもうなかれ。あなたはわれらの唯一なる守り手なれば〉」。

「栄光は」「今も」

○聖母讃歌「われらは相応しからざる者なれども，神の母よ，あなたの力を告げ知らせることを決して止めまい。なぜなら，もしあなたがわれらの傍らに立ち，われらのために祈って下さらなかったならば，いったい誰がわれらをかくも大きな危難より救い出してくれただろうか？　誰がわれらを傷なきままに，この今まで守ってくれただろうか？　われらの王妃よ，われらはあなたを蔑ろにすまい。あなたはつねにあなたのしもべをあらゆる災いから守られる。あなたはわれらの慰めの祭壇にして，われらの保護者，唯一祝された方」。

○詩篇50編

○カーノン

Ⅰ「水の上を，あたかも陸を歩むかのごとくに進み，エジプトでの隷属から解放されて，イスラエルはこう叫んだ。〈われらは，解放者なるわれらの神を，讃美しよう！〉」。

Ⅲ「主よ，諸天の創り主にして母なる聖教会の形成者よ，どうかわたくしを，あなたの愛のうちに力づけたまえ。わが最たる望みにして信徒らの励まし手，唯一人を愛する方よ！」。

Ⅳ「主よ，わたしはあなたの計らいの神秘を耳にし，あなたの業を理解し，あなたの神性を讃える」。

Ⅴ「われらの主よ，あなたの掟をもってわれらを照らしたまえ。そしてあなたのいと高き御腕もて，われらに平安を与えたまえ，唯一人を愛する方よ！」。

Ⅵ「わたしは主の御前にわが祈りを注ぎ尽くし，わが苦悩を主に語り明かす。わが霊は痛みに満たされ，わが生涯は墓に近い。わたしはヨナのごとく，こういうめきを挙げる。〈神よ，腐敗より私を救い出したまえ！〉」。

○コンターク第6調「キリスト教徒たちにとっての辱められることなき守護者，創造者の前での変わることなきわれらの執り成し手，神の母なるおとめよ，われらの罪ある唇から発せられる祈りを軽蔑したもうな。むしろ善性に溢れる方として，われらをあなたの助けをもって守りたまえ，われらはあなたに向け

て篤く祈る者なれば。われらの祈りの言葉に耳を傾け，あなたの和解の守護とともに急ぎたまえ。われらをあなたの忠実なる崇敬者として，そのわれらのため，主に向かって祈りたまえ」。
○イコス「あなたを除いて，われらには他の助けはなく，いとも浄らかなるおとめよ，われらには他の望みもない。あなたはわれらの助け，われら，あなたのしもべは，あなたのうちに希望を抱き，あなたを讃える。どうかわれらが辱めを受けるのを赦したもうな」。

司祭「謹んで聴こう！　あなた方すべてに平安あれ。叡智！　謹んで聴こう！」
プロキメン「われらはあなたの名を世代から世代へと告げ知らせる」
司祭「主に祈ろう」　信徒「主よ憐れみたまえ」
司祭「われらの神よ，あなたは聖なる方，われらはあなたを讃め称える，父と子と聖霊よ，今もいつも世々とこしえに」
信徒「アーメン」　司祭「すべての霊よ，主を讃えよ」　信徒「すべての霊よ，主を讃えよ」
司祭「聖なる福音を聴くのに相応しくあれるよう，平安のうちに主に祈ろう」
　信徒「主よ憐れみたまえ，憐れみたまえ」
司祭「あなた方すべてに平安あれ」　信徒「あなたの霊にも，霊にも」
司祭「叡智！　真なる信徒たちよ，聖なる福音を聴こう。聖ルカ福音書の朗読」
　信徒「主よ，あなたに栄光，あなたに栄光」
司祭「謹んで聴こう！」
「ルカ 1.39-49；56」
信徒「あなたに栄光あれ，主よ，あなたに栄光あれ！」

○福音接吻スティヒラ
「栄光は」「父，御言葉，霊。聖なる三位一体，われらの罪の甚だしさから，われらを浄めたまえ」
「今も」「いとも聖なる神の母の祈りによりて，憐れみ深きわれらの主よ，われらの罪の甚だしさからわれらを浄めたまえ」
「神よ，あなたの大いなる憐れみにより，またあなたの慈しみの豊かさによりて，わが悪を拭い去りたまえ」
「いとも聖なるわが王妃，人の守りよ，どうかわたしを見棄て置かず，あなたのしもべの願いを受け入れたまえ。見よ，苦痛はつのり，わたしはもはや悪に

よる試みの矢に耐えることができない。わたしは自らのために守りを備えることができず，どこにも逃げうる場所はない。わたしは衝動によりいつも打ち負かされ，あなたの許以外にわが慰めはない。どうかわが願いを打ち棄てたもうな，あなたは世の王妃，信ずる者の希望にして支え。むしろこの願いを適わしめ，わが救いのもたらし手となりたまえ！」。

Ⅶ「ユデアより生まれた若者たちは，かつてバビロンにて，聖三位一体への信により，こう歌いつつかまどの炎の上を歩んだ。〈われらの父祖たちの神よ，あなたは祝された方！〉」。
Ⅷ「天使らの群れが歌う天の王を，あなたがたは讃美し讃えよ，世々とこしえに！」。
Ⅸ「われらはあなたを，真に神の母と告白する，浄らかなるおとめマーリアよ，われらはあなたにより救われ，肉体を伴わぬ天使の群れとともにあなたを讃美する」。
「まことに相応しきかな」（本稿109頁参照）

○スティヒラ
「おお，善性に満ち溢れるおとめマーリアよ，信もてあなたの力強き庇護の下に逃れる者たちのためすべてのために祈りたまえ。神の前に，われらにとってより強力な執り成し手はいない。どうか，われらのあらゆる災いや怖れに際して，われらを救いたまえ。それゆえわれら，幾多の罪に打ちひしがれたあなたのしもべは，あなたに向かってこう願う。〈いと高きところにいますわれらの神の御母よ，われら，あなたを崇めまつる者なれば，どうかわれらをあらゆる災厄より救いたまえ！〉」。
先句「われらはあなたの名を時代を超え，世代から世代へと告げ知らせる」
「苦しめる者すべてにとっての喜び，迫害を受ける者の守護者，貧しき者の育み手，幼き者の慰め，戦いに苦しむ者たちの逃れ場，病める者を訪ねる方，すべて憔悴する者の祭壇にして守り，老いた者たちの支え，いと高きところに住まわれる神の母，浄らかなるおとめマーリアよ，われらは願う，どうかあなたの信徒らが救われんことを！」。
先句「おとめよ，われらに耳を傾け，目を注ぎ，顧みたまえ」
「めでたし，浄らかなるおとめマーリア，われらの王なるキリストの崇敬すべき杓よ！　めでたし，秘められた葡萄の房を芽吹かせる方！　めでたし，天の

門にして燃え尽きることなき芝よ！　めでたし，全世界を照らす光よ！　めでたし，われらすべての喜びよ！　めでたし，信徒らの救いよ！　めでたし，キリスト者すべての庇護者たる婦人にして逃れ場よ！」
「栄光は」「今も」
「めでたし，被造物すべての栄えある誉れよ！　めでたし，主の覆いよ！　めでたし，陰深き丘よ！　めでたし，われらすべての逃れ場よ！　めでたし，黄金の燭台！　めでたし，真なる信もつ者の崇敬すべき栄光！　めでたしマーリア，われらの神なるキリストの母よ！　めでたし，楽園の庭よ！　めでたし，神的なる食卓よ！　めでたし，幕屋よ！　めでたし，黄金の柄よ！　めでたし，われらすべてにとっての確信よ！」。
「聖なる神」～「主の祈り」
トロパール「われらを憐れみたまえ，主よ，われらを憐れみたまえ！　われらの言葉はわれらにとっての赦しとはならず，われらは罪深きあなたのしもべなれども，この嘆願を，治め主なるあなたに捧げる。どうかわれらを憐れみたまえ！」。
「栄光は」「主よ，われらを憐れみたまえ。われらはあなたに依り頼む。どうかわれらに大いなる怒りを示したもうな。われらの罪を思い起こしたもうな。むしろ，今この時にも恵み深き方としてわれらを見そなわし，われらを敵の手より救い出したまえ。あなたはわれらの神，われらはあなたの民，われらはみな，あなたの御手の業なれば，われらはあなたの名を助けのために呼び求める」。
「今も」「どうか憐れみの扉をわれらに開かせたまえ，祝されし神の母なるおとめよ。われらはあなたに希望を抱く。われらが道に迷うことなく，あなたの手で悪から救われんがために。あなたはキリストを信ずる民の救いなれば」。

司祭「神よ，あなたの大いなる憐れみによりて，われらを憐れみたまえ。願わくは，われらに耳を傾け，憐れみたまえ」
信徒「主よ，憐れみたまえ」（×３）
司祭「われらは願う，神がこの町，この共同体，すべての町と共同体，村を，飢餓，腫による死，地震，洪水，竜巻，火事，戦争，異邦人の侵略，それにすべての内乱から守りたまわんことを。そして善性に満ち，人を愛する神が，われらに対し憐れみ深く，善き意向を示し，寛容であられんことを。そしてわれらより，われらに抗して起こるあらゆる憤りを取り去り，われらに差し迫る真の懲罰からわれらを救い，われらを憐れみたまえ」。

信徒「主よ，憐れみたまえ」（×３）
司祭「われらの主，われらの神よ，あなたに向かって願う，あなたのしもべをあらゆる苦しみ，災悪，憤怒，窮乏より解放したまえ。そしてわれらが意図してあるいは意図せずして犯した罪を赦したまえ。主よ，われらはうち揃って述べる，どうかわれらの願いを聞き届け，憐れみたまえ！」。
信徒「主よ，憐れみたまえ」（×３）
司祭「われらの主，われらの神よ，あなたに向かって願う，罪深きわれらの唇に発するわれらの祈りを聞き届けたまえ。あなたのしもべと真なる信もつすべてのキリスト教徒に恵みを垂れたまえ！　われらの主よ，われらに憐れみをかけ，われらの罪の甚だしきを赦し，善き方として，あなたのしもべらに，計りがたきあなたの恵みを示したまえ！　われらに迫り来るあなたの怒りを，どうか真に思いとどまりたまえ！　速やかにわれらに耳を傾け，恵み深くわれらを憐れみたまえ！」。
信徒「主よ，憐れみたまえ」（×３）
司祭「神よ，われらの救い主よ，われらに耳を傾けたまえ，地球のあらゆる境に，また遥かなる海に住める者たちの希望よ！　そして憐れみ深きわれらの主よ，どうかわれら，罪人らに対し，憐れみ深くあらせたまえ，そしてわれらを憐れみたまえ。あなたは恵み深く，人を愛する神，われらはあなたを讃美する。父と子と聖霊よ，今もいつも世々とこしえに至るまで！」
信徒「アーメン」。

司祭の祈り　「おお，祝せられしわれらの王妃よ，あなたは人類を守る盾，すべてあなたに願う者の逃れ場。憐れみ深きわれらの夫人よ，わたしは知る，わたしは甚だしく罪を犯した。そして肉においてあなたから生まれた善き神を憤らせた。しかしながら，わたしの前には，すでに以前より，徴税人や罪ある女，ほかさまざまな人々の例がある。彼らは痛解と罪の告白を通して，自らの罪の赦しを獲得した。神の憐れみを獲得した者たちを，わたしは模範とし，罪あるわが霊の眼前に置く。彼らによって獲得された神の，真に限りなき憐れみにわたしも目を注ぎ，罪人ではあるが，痛解を行い，おお，憐れみ深きわれらの王妃よ，あなたの恵み深さの許に敢えて逃れようと考える。助けのためにどうかあなたの御手を開き，あなたの御子，あなたの神のうちに，甚だしきわが罪の赦しをもたらさせたまえ。

わたしは信じ，告白する。あなたがお産みになった方，あなたの御子が真に

キリストであり，生ける神の子，生ける者死せる者の裁き手にして，万人をその行いに照らして報いる方であるということを。わたしは信じ，告白する。あなたは真に神の母にして憐れみの泉，涙を流す者たちの慰め，見失われた者の発見。そればかりでなく，あなたは御子の前での，力あり確固たるわれらの執り成し手。あなたはこの上なく人類を愛し，その手をもって痛悔の道に導かれる。人間にとってあなた以外には，助けも，守りもありえない，憐れみ深きわれらの婦人よ。あなたに信頼する者は，決して困窮することがなく，あなたを通して神を求める者は，決して見捨て置かれることはない。

わたしはあなたの尽きることなき恵みにより頼む。どうかわたしのため，あなたの憐れみの扉を開きたまえ。わたしは道を誤り，闇の深みに堕ちた。わたしは泥にまみれたが，どうか蔑みたもうな。わたしは罪を犯したが，どうか否みたもうな。この躓きやすい人間であるわたくしを見棄てたもうな。わたしに対して，悪しき敵勢は最たる危険へと引きずりこむ。どうかあなたより生まれたる神に願いたまえ，わが大いなる罪を赦し，わが災いより救いたまえと。なぜならわたしも，赦しを得て義とされた者たちとともに，あなたより生まれた神の尽きせぬ恵みを歌い，讃美するがゆえに。そしてあなたを，永久にして恥を受け得ぬわが守りとして，いまこの生涯にあっても，終わりなき永遠においても，ほめたたえるがゆえに。アーメン。

栄光ある神の母，常世に処女なるマーリア，われらの神なるキリストの母よ，われらの祈りを受け入れ，あなたの御子，われらの神にこの祈りを届けたまえ，われらを照らし，あなたを通してわれらの霊を救いたもうようにと。

父なる神こそわが信，子なる神こそわが逃れ場，聖霊なる神こそわが守り。聖三位一体にして一なるわれらの神，あなたに栄光！」。

司祭「われらの神なるキリスト，あなたに栄光！　われらの希望よ，あなたに栄光！」
信徒「栄光は」「主よ，憐れみたまえ」（×3）「主よ，祝福を与えたまえ」
司祭「キリスト，真なるわれらの神よ，主のいとも浄らかなる母，聖にして神的なる息吹を受けたわれらの師父たち，およびすべての聖人たちの執り成しを通して，われらを憐れみ，救いたまえ，善性に満ち，人を愛する方として！」。
信徒「アーメン」。
司祭「主の祝福が，その恵みと人間への愛とともに，あなた方の上に。今もいつも世々とこしえに」

信徒「アーメン」。

Ⅱ　パラクリスの構造分析と「シュナサーリオン」性

以上のように，パラクリスは聖母に捧げられる讃歌であるが，その基本的な枠組みは朝課の構造と同一である。全体としては，週日・祝日のためのスタイルを採っていると考えられる。

上に翻刻したパラクリスの構造を，以下にまとめてみることにしよう。

1．開祭　2．詩篇142篇　3．「主は神」　4．トロパール　5．詩篇50篇　6．カーノンⅠ-Ⅵ　7．コンターク　8．イコス　9．プロキメン　10．福音朗読先句　11．ルカ福音書（1.39-49；56）朗読　12．福音接吻スティヒラ　13．カーノンⅦ-Ⅸ　14．「似つかわしきかな」　15．先句スティヒラ　16．「聖なる神」「主の祈り」～「アーメン」　17．トロパール　18．三重連祷　19．司祭の祈祷文　20．閉祭

ここで注目されるのは，朝課の中心的部分の一つを成すカーノンが6．と13．に分断され，その間にルカ福音書の「エリザベト訪問」の箇所が朗読され，拡充されている点である。これが聖書朗読であることにより，その後に，通常の主日朝課に特徴的であった「福音接吻スティヒラ」が挿入され，主日性をすくいとってもいる。朗読される箇所は聖母の諸祝日に一般的な箇所である[8]。そしてカーノン第6オード・イコスの後に挿入されるのは，聖金曜日朝課・聖土曜日朝課で注記したとおり，「シュナクサーリオン」と呼ばれる部分に他ならない。シュナクサーリオンとは「聖人および祝日に関して，典礼上の読書を目的として編纂された伝記ないしその典礼的解説。朝課にあってカーノンの第6オードの後に読まれる。ハンガリーのギリシア・カトリック教会では習慣化していない」[9]とされる。またこの語彙はギリシア語の「シュナクシス」（集会）から派生したもので，シュナクシスとは，ヘブライの民が，シナゴーグにおいて〔旧約〕聖書を中心に，集会を定期的におこなう際の儀礼の名から生まれた呼称だとされる[10]。さらに「シュナクサーリオン」は，カーノンのなかの一部分を指すに留まらず，「コンスタンティノポリスのシュナクサーリオン」と呼ばれる10世紀の聖人伝的な集成を意味するようにもなったことが知られている[11]。

もとより，朝課の構造を基本枠とし，一年のうちどの時期に行ってもよいとされる「パラクリス」は，受難節・復活節という，一年でもっとも神学的に豊かな時期を形成する際に特徴を成す朝課の多様性を，集約的に把握する意味で

格好の典文だと言えるだろう。そしてその「パラクリス」の持つ特徴の一つは，通常は顧みられることのない「シュナクサーリオン」の部分を，拡充した姿で内包するという点である。シュナクサーリオンは，受難週のものに関しては，長大に過ぎて司教座聖堂では省みられなくなっていた。ただ，一年のうち唯一「シュナクサーリオン」の顧みられる機会が，復活祭のカーノンの時期であるとすれば，「パラクリス」の構造的観想を通して復活の神秘を絶えず想起することは，十分に可能であり，また大きな意義を有することだと考えられる。

ローマ典礼の場合には，先に注記したように，聖金曜日の〔聖体拝受を伴う〕「交わりの儀」（先備聖体礼儀の流用；ビザンティンでは聖金曜日は聖体礼儀なし）や聖土曜日の深夜ミサによる復活徹夜祭（ビザンティンでは復活主日の朝課に相当）など，ミサへの集約化と収斂が認められ，西欧民衆が，聖体拝受を心のよりどころとして築いてきた歴史を推察させるものとなっている。したがってローマ典礼圏では，修道院でもない限り，通常の教会聖堂で朝・晩の祈祷に与かれる場所はまずないといってよい。

しかしながら，歴史的にローマ典礼よりも古く，初期キリスト教期の典礼の次第を留めていると考えられるビザンティン典礼にあっては，もとより聖体礼儀も重要ながら，晩課や朝課が担う意味も大きい。そして何よりも，一年の典礼の頂点をなす「復活徹夜祭」とはほかならぬ朝課であって，その内部に聖体拝受を含んではいない。そして本稿で検証したように，特に朝課の構造は，受難節・復活節を通じて多様をきわめ，その構造分析を通じて，ビザンティン典礼が秘める神学的メッセージの多様なあり方をうかがい知ることもできた。そのようなビザンティン典礼の朝課の統括的把握のために，パラクリスは有用であろう。

ビザンティン典礼が行われない地域は多い。日本もその一つといえよう。ギリシア・カトリックによる典礼，そして聖体拝受が望めない場合，シナクシスによる観想を通じて，ビザンティン典礼の無尽蔵ともいえる霊性を絶えず想起する以外に方法はない。この際に中心的な意義を担うのが朝課の式次第であり，その鍵を握るのがパラクリスである，と意義づけることには十分な根拠があると言えるだろう。

結.

ビザンティン典礼における朝課は，聖木曜日夕刻の「受難の聖書朗読」，聖

土曜日朝の「エルサレムの朝課」，そして何よりも復活徹夜祭の基本構造を形成している。本稿で扱ったもののほかに，朝課を基本的枠組みとする祈祷として，クレタの聖アンドラーシュによる痛解大カーノン（四旬節第５木曜日朝課），聖母のためのアカティストスの典礼（同第５土曜日）があり，またパラクリスと同様に一定の典礼日を定めないものとしては，死没者の記念に用いられる「パラスタス」がある。

ビザンティン典礼において復活節つまり「光の週」は，年間に用いられる「８調」を集約的に用い，一週間で一巡させることで，復活こそ最も顕著な神性の証しであり，また「光の週」こそ天上界のかたどりとして最も適した時期であることを表現している。しかしながらその一方で，〈共苦する神〉というヘブル的神学の表現が，復活に先立つ受難節にその頂点を見出すことも忘れられてはならない。したがって，その双方に通じる性格を有する式文をその基底に措定することが望ましい。

以上の二面を考え合わせた場合，朝課を基本枠とし，かつ年間を通じて執り行うことのできる「パラクリス」は，そのうちにシュナクサーリオン性を留め，聖体拝受を伴わない集会（シュナクシス）へと誘う性格を持ち合わせていることからも，ビザンティン典礼の基本的式文として適切だと言える。もとより母としてキリストの受難と復活に立会い，また自ら昇天を被ることになった聖母の記念のための典文として[12]，パラクリスは神学的にも常に立ち返ってよいトポスであろう。

聖体礼儀は，やむを得ないことではあるが，聖体の拝受者とそうでない者の差異化を伴う。したがって，特に日本のような地域では，聖体礼儀とともに「シュナクシス」の意義も見直されてよかろう。その意味で，ミサ・聖体礼儀のみに意義を収斂させていないビザンティン典礼の，特に朝課の意義は再認識される必要があるだろう。このようなヴィジョンの中心に「パラクリス」を置いてみることは，新しい視界を拓いてくれるものではないだろうか。古代キリスト教の典礼形態を留めるビザンティン典礼にあって，祝日性・朝課・復活節などさまざまな側面を併せ持つ典文として，パラクリスの評価を提言してみたい[13]。

1　この次第については，2008年11月14～15日に明治学院大学横浜キャンパスにて開催された，中世哲学会のパネルディスカッションにおいて「ビザンティン世界における「知」の共同体的構造―「不断の宇宙論」としての典礼を中心に―」

と題して発表された。

2　イヴァンチョー博士については，拙稿「伝承と国際性—ハンガリーのギリシア・カトリック教会—」，筑波大学第二学群比較文化学類学術誌『比較文化研究』第3号，26-36，2007. 3　および「2005年度　筑波大学国際連携プロジェクト（長期派遣）報告書「ハンガリーにおける古代学の展開と宗教性の関係をめぐる研究」」筑波大学国際連携室　HP　http://khki11.sec.tsukuba.ac.jp/ilo/pro17long.htm，2006. 1を参照。

3　*Emeljük föl szívünket!*,153.o.,Nyíregyháza2000.

4　Ivancsó István, *Görög katolikus liturgikus kislexikon*,21-22,Nyíregyháza 2002.

5　拙稿「聖バジリオ修道会の形成と展開—ハンガリーの場合を中心に—」(『地域研究』掲載予定，筑波大学大学院人文社会科学研究科国際・地域研究専攻，2009. 3）を参照。

6　ビザンティン典礼暦における四旬節の計日については，拙稿「ビザンティンの典礼暦と「光の週」」，「地中海学会月報」310，2008. 5。

7　シュナクサーリオンについては，高橋保行『ギリシア正教』164頁，講談社学術文庫，1980年。

8　拙稿(1)，86頁を参照。

9　Ivancsó, *op. cit.*, 68.

10　前掲注(7)高橋著書164頁を参照。

11　Art. "SYNXARION", in: *The Oxford Dictionary of Byzantium*, Oxford 1991.

12　拙稿「ビザンティン典礼暦から読む旧・新約聖書—古代学の源泉としての「メノロギオン」(1)—」，筑波大学大学院人文社会科学研究科文芸・言語専攻紀要『文藝言語研究　文藝篇』52，1-38，2007.10，特に9-10頁。

13　パラクリスに特化したシンポジウムの記録として，*Liturgikus örökségünk : A Paraklisz önalló megjelentetésének centenáriumára 2005. április29-én rendezett szimpozion anyaga*, Nyíregyháza 2005.